

KURUME NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

# 専攻科 シラバス

---

Syllabi

平成 22 年度

## 目 次

1. 授業科目一覧 .....	1
(1) 一般及び専門基礎科目	
(2) 専門科目（機械・電気システム工学専攻）	
(i) 機械工学コース	
(ii) 電気電子工学コース	
(iii) 制御情報工学コース	
(3) 専門科目（物質工学専攻）	
(i) 生物応用化学コース	
(ii) 材料工学コース	
2. JABEE（日本技術者教育認定機構）について .....	7
<b>■ 授業科目 .....</b>	<b>15</b>
1. 機械工学コース .....	15
2. 電気電子工学コース .....	56
3. 制御情報工学コース .....	97
4. 生物応用化学コース .....	138
5. 材料工学コース .....	179

# 1. 専攻科の授業科目一覧

(1)一般科目及び専門基礎科目(JABEEプログラム各コース共通)

(注2)2年後期の講義はすべて集中講義

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	学 期 別 配 当				備 考		
			1年次		2年次				
			前期	後期	前期	後期			
一 般 科 目	必 修	実践英語Ⅰ	演習	1	1				
		実践英語Ⅱ	演習	1		1			
		実践英語Ⅲ	演習	2			2		
		環境倫理学	講義	2		2			
		産業デザイン演習	演習	2	2				
		工学倫理	講義	2			2		
	一 般 科 目 必 修 単 位 計			10	3	3	4		
	選 択	産業財産権特論	講義	2	2			4単位以内	
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2		2			
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2			2		
一 般 科 目 選 択 単 位 計			6	2	2	2			
専 門 基 礎 科 目	必 修	地球環境と現代生物学	講義	2	2				
		現代物理学	講義	2	2				
		応用情報処理演習	演習	2		2			
		専 門 基 礎 科 目 必 修 単 位 小 計			6	4	2		
	選 択	応用数理Ⅰ	講義	2	2			10単位以上 修得	
		応用数理Ⅱ	講義	2		2			
		応用数理Ⅲ	講義	2			2		
		量子力学	講義	2		2			
		物性化学	講義	2	2				
		画像工学	講義	2	2				
		応用情報処理	講義	2		2			
		統計力学及び熱力学	講義	2			2		
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2			2		4単位以内
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2			2		
	専 門 基 礎 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計			20	6	6	2	6	
専 門 基 礎 科 目 開 設 単 位 計			26	10	8	2	6		
一 般 科 目 、 専 門 基 礎 科 目 開 設 単 位 合 計			42	15	13	6	8		

(2)専門科目(機械・電気システム工学専攻)

(i) 機械工学コース

授 業 科 目		授 業 形 態	単 位 数	学 期 別 配 当				備 考	
				1 年 次		2 年 次			
				前 期	後 期	前 期	後 期		
専 門 科 目	必 修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
		技 術 英 語	演習	1			1		
		先 端 工 学 特 論	演習	1		1			
		専 攻 科 研 究 論 文	実験	10	1	2	7		学位申請等論文
		専 攻 科 イン タ ー ン シ ッ プ	実習	7				7	
		専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		21	3	3	8	7	
専 門 科 目	選 択	弾 塑 性 力 学	講義	2	2			12単位以上 修得	
		破 壊 力 学	講義	2		2			
		応 用 流 動 工 学	講義	2		2			
		生 産 加 工 学	講義	2			2		
		移 動 現 象 論	講義	2		2			
		計 算 力 学	講義	2			2		
		設 計 シ ス テ ム 工 学	講義	2		2			
		メ カ ト ロ ニ ク ス 工 学	講義	2			2		
		シ ス テ ム 制 御 工 学	講義	2		2			
		デ ジ タ ル 制 御	講義	2	2				
		機 械 工 学 特 論	集中講義	2	2				
		電 気 電 子 工 学 特 論	集中講義	2	2				
		制 御 情 報 工 学 特 論	集中講義	2	2				
		専 門 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計		26	10	10	6		0
専 門 科 目 開 設 単 位 計				47	13	13	14	7	
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				89	28	26	20	15	
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				65単位以上					

※ 機械工学プログラムは、本コースと本科4・5年過程からなる。

(注2) 2年後期の講義はすべて集中講義

(ii) 電気電子工学コース

授 業 科 目		授 業 形 態	単 位 数	学 期 別 配 当				備 考	
				1 年 次		2 年 次			
				前 期	後 期	前 期	後 期		
専 修	必 修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
		技 術 英 語	演習	1			1		
		先 端 工 学 特 論	演習	1		1			
		専 攻 科 研 究 論 文	実験	10	1	2	7		学位申請等論文
		専 攻 科 イン タ ー ン シ ッ プ	実習	7				7	
		専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		21	3	3	8	7	
門 科 目 選 択	選 択	設 計 シ ス テ ム 工 学	講義	2		2		12単位以上 修得	
		メ カ ト ロ ニ ク ス 工 学	講義	2			2		
		シ ス テ ム 制 御 工 学	講義	2		2			
		デ ジ タ ル 制 御	講義	2	2				
		形 式 言 語 と オ ー ト マ ト ン	講義	2	2				
		応 用 電 磁 気 学	講義	2		2			
		光 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	講義	2			2		
		集 積 回 路 工 学	講義	2		2			
		デ ジ タ ル 信 号 処 理	講義	2		2			
		プ ラ ズ マ 工 学	講義	2			2		
		機 械 工 学 特 論	集中講義	2	2				
		電 気 電 子 工 学 特 論	集中講義	2	2				
		制 御 情 報 工 学 特 論	集中講義	2	2				
		専 門 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計		26	10	10	6		0
専 門 科 目 開 設 単 位 計			47	13	13	14	7		
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)			89	28	26	20	15		
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)			65単位以上						

※ 電気電子工学プログラムは、本コースと本科4・5年(一部3年)過程からなる。

(注2) 2年後期の講義はすべて集中講義

(iii) 制御情報工学コース

授 業 科 目		授 業 形 態	単 位 数	学 期 別 配 当				備 考	
				1 年 次		2 年 次			
				前 期	後 期	前 期	後 期		
専 門 科 目	必 修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
		技 術 英 語	演習	1			1		
		先 端 工 学 特 論	演習	1		1			
		専 攻 科 研 究 論 文	実験	10	1	2	7		学位申請等論文
		専 攻 科 インターンシップ	実習	7				7	
		専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		21	3	3	8	7	
専 門 科 目	選 択	計 算 力 学	講義	2			2	12単位以上 修得	
		メカトロニクス工学	講義	2			2		
		システム制御工学	講義	2		2			
		デジタル制御	講義	2	2				
		コンピュータグラフィックス	講義	2			2		
		パターン認識	講義	2			2		
		形式言語とオートマトン	講義	2	2				
		データベース	講義	2		2			
		応用電磁気学	講義	2		2			
		デジタル信号処理	講義	2		2			
		機械工学特論	集中講義	2	2				
		電気電子工学特論	集中講義	2	2				
		制御情報工学特論	集中講義	2	2				
		専 門 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計		26	10	8	8		0
専 門 科 目 開 設 単 位 計				47	13	11	16	7	
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				89	28	24	22	15	
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				65単位以上					

※ 制御情報工学プログラムは、本コースと本科4・5年生過程からなる。

(注2) 2年後期の講義はすべて集中講義

## (3)専門科目(物質工学専攻)

## (i) 生物応用化学コース

授 業 科 目		授 業 形 態	単 位 数	学 期 別 配 当				備 考	
				1 年 次		2 年 次			
				前 期	後 期	前 期	後 期		
専 門 科 目 必 修 単 位	必 修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
		技 術 英 語	演習	1			1		
		先 端 工 学 特 論	演習	1		1			
		専 攻 科 研 究 論 文	実験	10	1	2	7		学位申請等論文
		専 攻 科 インターンシップ	実習	7				7	
		専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		21	3	3	8	7	
専 門 科 目 選 択	選 択	有 機 反 応 化 学	講義	2	2			12単位以上 修得	
		有 機 構 造 化 学	講義	2			2		
		生 体 機 能 分 子 学	講義	2		2			
		生 体 物 質 化 学	講義	2	2				
		化 学 工 学 特 論	講義	2			2		
		機 能 有 機 材 料 特 論	講義	2		2			
		分 子 生 物 学	講義	2			2		
		高 分 子 材 料 特 論	講義	2		2			
		応 用 物 理 化 学	講義	2			2		
		真 空 工 学	講義	2					2
		機 能 材 料 学	講義	2	2				
		生 物 応 用 化 学 特 論	集中講義	2	2				
		材 料 工 学 特 論	集中講義	2	2				
		専 門 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計		26	10	6	8		2
専 門 科 目 開 設 単 位 計			47	13	9	16	9		
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				89	28	22	22	17	
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				65単位以上					

※ 生物応用化学プログラムは、本コースと本科4・5年生過程からなる。

(注2) 2年後期の講義はすべて集中講義

## (ii) 材料工学コース

授 業 科 目		授 業 形 態	単 位 数	学 期 別 配 当				備 考	
				1 年 次		2 年 次			
				前 期	後 期	前 期	後 期		
専 門 科 目	必 修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
		技 術 英 語	演習	1			1		
		先 端 工 学 特 論	演習	1		1			
		専 攻 科 研 究 論 文	実験	10	1	2	7	学位申請等論文	
		専 攻 科 イン タ ー ン シ ッ プ	実習	7				7	
		専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		21	3	3	8	7	
専 門 科 目	選 択	高 分 子 材 料 特 論	講義	2		2		12単位以上 修得	
		応 用 物 理 化 学	講義	2			2		
		真 空 工 学	講義	2					2
		機 能 材 料 学	講義	2	2				
		材 料 組 織 制 御	講義	2			2		
		材 料 組 織 学 特 論	講義	2		2			
		表 面 処 理 工 学	講義	2		2			
		材 料 強 度 学	講義	2			2		
		無 機 材 料 学	講義	2	2				
		生 物 応 用 化 学 特 論	集中講義	2	2				
		材 料 工 学 特 論	集中講義	2	2				
専 門 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計				22	8	6	6	2	
専 門 科 目 開 設 単 位 計				43	11	9	14	9	
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				85	26	22	20	17	
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む)				65単位以上					

※ 材料工学プログラムは、本コースと本科4・5年生過程からなる。

(注2) 2年後期の講義はすべて集中講義



## 2. JABEE（日本技術者教育認定機構）について

### 学生のための「JABEE 講座」

専攻科主事

#### JABEE について

諸君は JABEE のこと知っていますか？ 日本技術者教育認定機構のことでありジャビーと言います。この制度は、JABEE 認定を受けた技術者教育プログラムの修了者（例えば、高専の専攻科生や大学生等）が、技術業務に就く能力があることを保証する制度です。

#### 各国の技術者資格認定登録と国際的同等性

現在、米国、英国、カナダ等多くの国は、国内制度が整っています。更に、国際的相互承認制度として北米自由貿易協定、ヨーロッパエンジニア協会、ASEAN エンジニアリング連合会、APEC エンジニア等々にも加盟しています。技術者資格の国際的相互承認制度としては、米国を中心としたワシントンアコード（Washington Accord）がよく知られており、現在、米国、英国等の主要国で構成され、他の国々も加盟準備を進めています。

#### 日本の技術者資格の現状

日本では国内の審査機構 JABEE が 1999 年に設立され、2005 年に技術者教育認定団体として、技術者教育の国際同等性を相互に認めあう Washington Accord に加盟をしました。この JABEE の推進は、文部科学省、経済通産省、各学協会、経団連などの支援で進められ、関連の報告会等が多く開催されています。

#### JABEE と学生の将来について

審査対象となるのは、高専の場合、本学科 4～5 年生と専攻科生及び関係教職員で、教育目標と学生の達成度、教育・自己学習の量等が審査されます。各学科又は教育プログラムが審査に合格すると、卒業する学生は、技術者としての質の高さを国際的に保証されたこととなります。また、プログラム修了生は、技術者の国家資格である技術士の第一次試験が免除され、申請により「技術士補」の免許を得ることができます。その後、所定の修習を積んで、二次試験に合格すれば、「技術士」の資格が得られます。「技術士」は、科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを国が認定するものです。学生にとって、JABEE 対応の教育課程を修了したかが、技術者として重要な要件に成りつつあります。

#### 本校の現状

平成 16 年度に本校の 5 学科が JABEE 審査を受審し、5 プログラムとも認定されました。認定の有効期限が審査年度を含めて 5 年間ですので、昨年度には 5 プログラムとも継続審査を受審しました。

## 本校教育理念と JABEE 基準

JABEE の審査基準の中で学生諸君が対象となるのは、下記の JABEE の教育・学習目標に対する学習量とその達成度です。

- (1) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (2) 技術が社会・自然に及ぼす影響・効果に関する理解力・責任感など、技術者として社会に対する責任を自覚する能力（工学倫理）
- (3) 数学、自然科学、情報技術に関する知識とその応用能力
- (4) 専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力
- (5) 種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (6) 日本語による論理的記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力及び国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
- (7) 自主的、継続的に学習できる能力
- (8) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

これらの JABEE 基準は「深く学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という高専の設置基準や本校教育理念とよく合致しています。

また、JABEE の教育目標に対して、各コースとも独自にプログラム目標を設定しています。

## 本校の教育理念

「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を  
兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

従って、学生は本校の教育理念をよく自覚し、学業に励んで下さい。

### 授業時間と自己学習時間 $\geq$ 4000 時間

日本技術者教育認定機構（J A B E E）では、大学設置基準をもとに、学習・教育の量を下記のように定めています。

- (1) 4年間で124単位以上修得していること。1単位は、授業時間+自己学習時間=45時間となっています。
- (2) 授業時間（講義、演習、実験、実習など先生と接している時間）は4年間で1800時間以上です。その内訳は人文社会系（語学を含む）250時間以上、自然科学系（ITを含む）250時間以上、専門900時間以上です。この授業時間を、JABEEでは学習保証時間と呼んでいます。
- (3) 次に、学生の自己学習時間ですが、自己学習時間と授業時間の和が4000時間以上を満たすこと、となっています。（本来、124単位 $\times$ 45時間 $\div$ 5600時間ですが、現段階では1時間を45分に換算して4000時間になっていると思われます。）本学科4,5年生+専攻科1,2年生の学習保証時間は、学科等で少し異なりますが約2800時間です。残りが学生の自己学習時間となります。授業の予習復習、課題レポート等、日頃からシラバス等をよく読み学習する習慣を身に付けておくことが重要です。

### 授業時間+自己学習時間=45時間/1単位

#### 学生の成績評価

成績評価は、主に定期試験で評価します。JABEEでは出席点という概念（項目）はなく、主に定期試験の学生答案を審査します。規定の出席を満たすということは科目履修に相当し、成績ではありません。

## 各 JABEE プログラムコースの教育目標

### 機械工学プログラム

- (A) 広い視野から技術者倫理を理解し自覚できる。
  - (A-1) 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
  - (A-2) 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
  - (A-3) 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
  
- (B) 数学、物理、情報技術に関する知識を専門分野に応用できる。
  - (B-1) 数学に関する知識とその工学的応用力
  - (B-2) 物理に関する知識とその工学的応用力
  - (B-3) 情報処理に関する知識とその工学的応用力
  
- (C) 機械工学に関する以下の専門知識を教授し、職業上応用できる基礎能力を学生の進路に配慮し育成する
  - (C-1) 材料と強度
  - (C-2) 機械設計
  - (C-3) 生産工学
  - (C-4) 熱・流体工学
  - (C-5) 制御・情報技術
  
- (D) 実験・演習を実施し、その結果を工学的に解析し考察できる。
  - (D-1) 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
  - (D-2) 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
  
- (E) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
  
- (F) 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
  
- (G) 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
  - (G-1) 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
  - (G-2) 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
  
- (H) 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

## 電気電子工学プログラム

- (A) 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得  
産業社会の色々な要請に応じて、電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し、運用できる専門的知識、技術を習得して、設計に応用できる能力を持つ電気電子技術者を育成します。
- (B) 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得  
産業社会の色々な要請に応じて、ICT 電子機器のしくみを理解し、運用できる専門的知識、技術を習得して、設計に応用できる能力を持つ電気電子技術者を育成します。
- (C) もの、製品をベースにした技術実務能力の習得  
商品化のために必要な電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行し得られたデータを解析、考察し、かつこれをまとめ説明できる能力を育成します。
- (D) 電気電子技術の基礎となる学力の修得  
数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎知識を身につけて、これを電気電子技術の専門領域で適用できる能力を修得します。
- (E) プレゼンテーション能力と国際的なコミュニケーション感覚の育成  
わかりやすく論理的な日本語で自らの意見を書面あるいは口頭で、情報機器等を活用して相手に伝えるプレゼンテーション能力を育成します。さらに英語によるコミュニケーション能力を養うと共に、海外の歴史、文化などに触れて国際感覚を養います。
- (F) 技術者倫理感覚の育成  
技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解して、技術者の責任を自覚し、商品化を目的とした規格適合、品質、安全性等に関する倫理感覚と遵法精神を育成します。
- (G) 企画・管理能力の育成  
地場産業や地域社会との「産学民」連携活動や企業実習により、実際の産業、社会の工業活動の中から問題を見出して、これを解決していく能力を育成します。

## 制御情報工学プログラム

- (A) 技術者としての広い視野と倫理観
  - (A-1) 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
  - (A-2) 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。
  
- (B) 基礎工学の知識と応用力
  - (B-1) 数学、自然科学、情報に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
  - (B-2) 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
  
- (C) 専門工学の知識と応用力
  - (C-1) 制御、情報およびこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
  - (C-2) 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
  - (C-3) 上記の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
  
- (D) デザイン力
  - 学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
  
- (E) コミュニケーション力
  - (E-1) 日本語で自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
  - (E-2) 英語による基礎的なコミュニケーションができる。
  
- (F) 実践力
  - (F-1) 他者と協力して課題に取り組むことができる。
  - (F-2) 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
  - (F-3) 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

## 生物応用化学プログラム

- (A) 技術者倫理と多面的視野
  - (A-1) 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
  - (A-2) 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- (B) 生物応用化学基礎と工学基礎
  - (B-1) 生物および化学に関する基礎知識を習得する。
  - (B-2) 物理、数学および情報技術を工学に応用できる。
- (C) 生物応用化学の専門知識と応用力
  - (C-1) 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識、および両分野に共通して必要な専門知識を習得しそれらを当該工業分野に応用することができる。
  - (C-2) 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術、および両分野に共通して必要な実験技術を体得しそれらを種々の問題解決に応用することができる。
- (D) 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- (E) 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- (F) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- (G) 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

## 材料工学科プログラム

- (A) 自然科学および情報処理技術に関する知識
  - (A-1) 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識とその応用力を身に付ける。
  - (A-2) 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応させる能力を身に付ける。
  
- (B) 材料に関する基本的知識と応用力
  - (B-1) 材料、特に金属およびセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付ける。
  - (B-2) 材料、特に金属およびセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付ける。
  - (B-3) これらの知識を工学問題の解決に活用できる能力を身に付ける。
  
- (C) 工学的基礎原理・現象の理解能力
  - (C-1) 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる能力を身に付ける。
  
- (D) 調査および実行能力
  - (D-1) 課題に対して自主的に調査する能力を身に付ける。
  - (D-2) 計画性を持って物事に取組み、実行する能力を身に付ける。
  - (D-3) 課題の結果を間違いの少ない文章および口頭で表現し、討論できる能力を身に付ける。
  
- (E) 異文化理解とコミュニケーション能力
  - (E-1) 外国に関する知識および国際的コミュニケーションの基礎能力を身に付ける。
  
- (F) 多面的視野と技術者倫理
  - (F-1) 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考える能力を身に付ける。
  - (F-2) 技術者の社会的責任を自覚する能力を身に付ける。
  
- (G) 地域産業での実務経験
  - (G-1) インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考える能力を身に付ける。



# ■授業科目

## 機械工学コース

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語 I		シラバス コード	6A01	担当教員	福田 かおる				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 実践的な場面で多用される英文法の重要項目を確認し、さらに語彙力の強化を図ることによって、英語のコミュニケーション能力を向上させる。										
<b>到達目標</b> 1. 英文法の要点を復習し、正しい知識を定着させる。 2. ビジネスの場で使用される基本的な語彙や慣用表現を習得する。 3. TOEICで400点以上取得できるよう、英語の理解力を向上させる。									<b>JABEE プログラム目標</b>  G-2	
<b>学習内容</b> 1. 時制 2. 仮定法 3. 受動態 4. 関係詞 5. 分詞 6. 助動詞 7. 主語と動詞の一致 8. 不定詞・動名詞 9. 比較 10. 形容詞・副詞 11. 名詞・冠詞 12. 接続詞 13. 否定 14. 模擬テスト(1) 15. 模擬テスト(2)										
<b>教材および参考図書</b> ESSENTIAL GRAMMAR FOR THE TOEIC TEST マクミラン・ランゲージハウス										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って、1回に1ユニットずつ進める。まず、文法事項の要点を説明し、確認するための演習問題を行う。必要に応じて、文法問題、語彙問題、リスニング問題を加える。										
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は実施しないが、定期試験の得点が60点に満たなかった学生が後日TOEICを受験して400点以上のスコアを提示した場合、成績を60点に修正し、合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅱ		シラバスコード	6A02	担当教員	福田 かおる			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 世界中から発信された健康・環境関連の英文ニュースを読むことによって、科学技術に関連した時事英語の理解力を養成する。									
<b>到達目標</b> 1. ニュース英語の読解力を養成する。 2. 環境や社会事象に関連した語彙を強化する。 3. 世界情勢や環境問題について理解を深める。								<b>JABEE プログラム目標</b>  G-2	
<b>学習内容</b> TOPIC 1. Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them 2. "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source 3. Offices Use Ice to Cool Down and Save Power 4. Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's 5. Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property 6. College Students Feel Better after Screaming Together 7. Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers 8. Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales 9. Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water 10. Aboriginies Still Rely on Bush Medicines for Remedies 11. African Farmers Seek Ways to Survive Droughts 12. Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health 13. Rising Seas May Force Island Nations Evacuate 14. Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating 15. Planned Chinese City Wants All Eco-Friendly Power									
<b>教材および参考図書</b> Heling Our World: Today's Health and Environment News 南雲堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って毎回1Unit学習する。速読に自信のない学生は、予めReading部分を読んで、要点を把握するためのStep1, Step2の答えを考えてくることが求められる。読解の際は、前期に学習した文法事項が活用できるはずである。授業ではニュースの内容を確認した後、TOEIC形式の問題と、英作文問題を行う。語彙の定着とリスニング力強化のために、随時単語の確認問題をリスニング形式で実施する。									
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は1回のみ実施する。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	環境倫理学		シラバスコード	6A03	担当教員	東島光雄			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 環境倫理学は自然と人間の共生を求める。 この時自然の価値をいかに認識するかがカギとなる。 環境倫理学の目的は、人間中心の環境・自然の価値の理解から、生態系中心の環境・自然の価値の理解への転換である。									
<b>到達目標</b> 1. 環境倫理学の基本主張を学ぶ。 2. 自然の内在的価値を学ぶ。 3. 一般の生活者として、また将来の技術者として、自分の活動が環境・自然とどのような関係にあるかを認識する能力を身につける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 1. 環境倫理学とは何か 2. 環境倫理学の三つの基本主張 3. 足尾鋇毒事件と水俣病 4. 資源の枯渇と環境破壊 5. 自然の権利 6. 世代間倫理 7. 土地倫理 8. 生物多様性保護の倫理 9. 自然保護のめざすもの 10. 人間中心主義から人間非中心主義へ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：なし 参考図書：環境と倫理、加藤尚武編、有斐閣									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的に講義の形で授業を行う。 適宜ビデオ学習を併用する。 企業の「環境報告書」について調査レポートを課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業デザイン演習	シラバスコード	6A04	担当教員	藤田 雅俊				
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 商品企画から商品サーベイ、商品研究、市場化を踏まえた実際の商品化提案までのプロセスをグループ単位での演習により修得する。社会的に要求される商品を自ら求め、そのニーズに相応しい商品を技術解析、情報収集を基にして具体化する。グループでの作業により、計画的、継続的に仕事を進める責任感を養い、最終的なプレゼンテーションでの資料のまとめ方、口頭発表能力、コミュニケーション能力を高める。									
<b>到達目標</b> 1. 商品の企画から最終デザインまでのプロセスの理解・習得 2. グループワークによるメンバー同士のコミュニケーション能力の習得 3. 自らの企画を効果的に伝達するプレゼンテーション能力の習得 4. 自律的・計画的に作業を推敲する能力の習得 5. アイデアを具現化する創造力と編集力の習得								<b>JABEE プログラム目標</b>  A1~3 D E F	
<b>学習内容</b> 第1週；オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス） 第2週；商品企画対象の選定 第3週；商品化プロセス調査1 第4週；商品化プロセス調査2 第5週；商品化プロセス調査3（発表） 第6週；商品化企画演習1（要素技術の調査） 第7週；商品化企画演習2 第8週；商品化企画演習3（中間発表） 第9週；商品化企画演習4 第10週；商品化企画演習5 第11週；商品化企画演習6 第12週；プレゼンテーション1 第13週；プレゼンテーション2 第14週；講評及び評価 第15週；課題レポート									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜資料を配付									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業における商品デザインの講義、商品提案スタディ、テーマレポートを総合的に行う。企画の提案・プレゼンテーション評価には地域企業・公設機関の方に参加してもらう。									
<b>評価方法</b> 商品化プロセス調査20% 演習課題50%（外部評価・相互評価を含む） 課題レポート30% 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業財産権特論		シラバスコード	6A05	担当教員	伊藤義文・梶原克彦・大段恭二				
期間	前期	授業形態	講義と演習		必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b>										
専攻科1年の必修科目である「創造工学実験」と同時開講し、「実験」成果から発明を発掘し、展開し、明細書という模擬出願書類に取りまとめる。また、産業財産権制度に関する知識の習得や、インターネットでの技術情報の検索方法を同時に学習することで、特許制度に明るい実践的な人材を育成する。										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業財産権制度の基礎知識の習得</li> <li>2. インターネットによる特許検索能力の育成</li> <li>3. 特許出願書類の作成能力の育成</li> </ol>										G-1
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入コースー1</li> <li>2. 導入コースー2</li> <li>3. 基礎コースー1 + 「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>4. 基礎コースー2 + 「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>5. 産業財産権の調査方法 + 「インターネットによる技術情報検索演習」</li> <li>6. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」</li> <li>7. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」</li> <li>8. 基礎コースー3</li> <li>9. 基礎コースー4</li> <li>10. 実践コースー1</li> <li>11. 実践コースー2</li> <li>12. 明細書の書き方指導ー1</li> <li>13. 明細書の書き方指導ー2</li> <li>14. 明細書の書き方指導ー3</li> <li>15. 発明報告会</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
教材：産業財産権標準テキスト(特許庁)・・・無償配布										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
特許庁の産業財産権標準テキストに従い、産業財産権に関する講義と、創造工学実験でのアイデアを模擬出願書類にまとめる演習の2本立てで行う。										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義：産業財産権指導カリキュラムに従って講義し、毎回小テストを実施して理解度を深める。</li> <li>2. インターネットによる技術情報検索、パテントマップの作成は、外部講師を招聘して行う。</li> <li>3. 明細書の書き方指導は、外部講師(弁理士)を招聘して行う。</li> <li>4. 発明報告会は、担当教官、各学科の創造工学実験担当教官、外部講師に出席して貰い、評価を行う。</li> <li>5. 優秀特許は特許庁のpatentコンテストに応募する。”</li> </ol>										
<b>評価方法</b>										
小テスト30点、定期テスト30点、発明演習40点で合計100点満点とし、60点以上を合格とする。再試験は実施しない。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般 I		シラバス コード	6A06	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般 I として認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	地球環境と現代生物学		シラバスコード	6A07	担当教員	中 蔦 裕 之			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年、環境問題を地球レベルで理解することが重要となっている。本講義では、様々な地球環境問題を生物学的立場から理解することを目的とする。また、バイオテクノロジーが地球環境の修復や持続的発展の可能な社会作りによどのように利用されているかについて学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 地球環境やエネルギー問題の現状について理解できる。 2. 環境修復や環境維持におけるバイオテクノロジーの役割を理解できる。 3. 実際の産業へどのように応用されているかを理解できる。								JABEE プログラム目標  A-2	
<b>学習内容</b> 1. 地球環境の現状（環境問題， エネルギー問題） 2. 未来のエネルギー 3. エアロゾルⅠ 無機エアロゾル 4. エアロゾルⅡ 無機エアロゾルの成分 5. エアロゾルⅢ バイオエアロゾルとハウスダスト 6. エアロゾルⅣ バイオエアロゾルの地球規模の移動 7. エアロゾルⅤ 黄砂発生源におけるバイオエアロゾル拡散 8. 海洋環境Ⅰ 赤潮 9. 海洋環境Ⅱ 富栄養化 10. 海洋環境Ⅲ 水の華 11. 身近な有害有毒物質 12. 環境におけるバイオテクノロジーⅠ バイオレメディエーション 13. 環境におけるバイオテクノロジーⅡ 遺伝子工学 14. 特殊環境に棲息する生物Ⅰ 好アルカリ性微生物 15. 特殊環境に棲息する生物Ⅱ 好熱性微生物									
<b>教材および参考図書</b> 教材：単元ごとに作成したプリントを使用する。 参考図書： 今中利信他著，環境・エネルギー・健康20講，化学同人 清水達雄他著，微生物と環境保全（地球環境サイエンスシリーズ⑨），三共出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に行う。 地球環境を生物学的視点から講義するため，かなりの専門知識を有する。 専門学科以外の学生に対して細部の理解は求めないが，概念的な理解を示して欲しい。									
<b>評価方法</b> 定期試験を100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を修得とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	現代物理学		シラバスコード	6A08	担当教員	谷 太郎			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 現代物理学の基礎理論、「相対性理論」と「量子力学」のうち、相対性理論について解説する。この理論によって、時間と空間に関するそれまでの自然観が根底から覆され、また同時に、エネルギーの概念が新しく生まれ変わった。これらについて、発見者アインシュタインの思考の跡を辿りつつ学ぶ。また、現代のテクノロジー、最新の理論分野（宇宙論など）への応用について学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 「時空」の概念を獲得する。 2. 相対性理論のパラドックスについて説明することができる。 3. 「重力場」の概念を獲得する。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 現代物理学概観 2. 特殊相対性理論 (1) マイケルソン・モーリーの実験と光の本性 3. 特殊相対性理論 (2) 相対性原理 4. 特殊相対性理論 (3) 同時性の崩壊、時計の遅れ、ローレンツ収縮 5. 特殊相対性理論 (4) ローレンツ変換 6. 特殊相対性理論 (5) ミンコフスキーダイアグラム 7. 特殊相対性理論 (6) 質量とエネルギー、運動方程式 8. 特殊相対性理論 (7) パラドックス (双子のパラドックス, ガレージのパラドックス) 9. 特殊相対性理論 (8) 応用 (核反応、素粒子物理学、GPSなど) 10. 一般相対性理論 (1) 等価原理と時空の歪み 11. 一般相対性理論 (2) アインシュタイン方程式 12. 一般相対性理論 (3) 応用 (宇宙論)									
<b>教材および参考図書</b> 適宜指示する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書とプリントを用いた講義形式。新しい概念に到達するプロセスを理解するよう心がけること。結果の知識を貯えることではなく、根本の考え方を身につけることを目標に取り組んでもらいたい。適宜レポート課題（宿題）を課す。									
<b>評価方法</b> 定期試験70%、レポート等30%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理演習		シラバスコード	6A09	担当教員	中尾哲也			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年、情報技術分野の発達によってあらゆる物理現象を簡単に数値解析できるようになった。本演習では、その数値解析の中でも常微分方程式、偏微分方程式について、その原理を理解し、Excelによって数値解析を行う。また、それらの数値解と解析解(厳密解)を比較することによって、数値解が近似解であることの理解を深める。また、技術的なレポート作成の方法の習得も本演習の目的である。									
<b>到達目標</b> 1. 情報処理技術(特に数値計算)に関して応用することができる。 2. 数値解における誤差について評価することができる 3. 科学技術系レポートを素早く作成することができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-3	
<b>学習内容</b> 第1週: Excelによる数値解析の手法について 第2週: 線形常微分方程式の解法について 第3週: オイラー法, 修正オイラー法について 第4週: 変形オイラー法について 第5週: ルンゲクッタ法について 第6週: 高階の微分方程式への格調 第7週: 高階の微分方程式 ルンゲクッタギル法 オイラー法 第8週: 空気抵抗を含む放物運動 第9週: 振動問題解析 第10週: 演習(高階常微分方程式のまとめ) 第11週: 偏微分方程式の解法について 第12週: 差分法による解析 第13週: クランクニコルソン法による解法 第14週: 反復法による解法 第15週: 演習(偏微分方程式のまとめ)									
<b>教材および参考図書</b> 教材: 配布プリントによる 参考図書: 機械系教科書シリーズ 数値計算法 藪, 伊藤共著 コロナ社 パソコンによる数値計算 平田, 須田, 武本共著									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 配布プリントを中心に講義を行い, 残りの時間は演習とする。本演習では, 工学的に必要な微分・偏微分方程式を解き, 理論解と数値解を比較・検討することを目的とするので, 微分方程式の解き方などを復習して臨むこと。演習で行う数値解を求めるプログラムはExcelで作成する。レポートの作成には基本的にWordとExcelで行い, レポート作成方法, 考察のポイント等も同時に習得するようにする。手書きは一切認めない									
<b>評価方法</b> 100%レポートによる。レポートは6回提出する。 レポートはWord文書(またはそれに準ずる文書)で, 電子ファイルにて提出する。 評価基準: 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理I		シラバスコード	6A10	担当教員	酒井道宏			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学で現れる諸現象を記述する微分方程式が、解析的に解ける場合についてその解法を演習をもち込んで教授するとともに解の結果の考察から、数式化による諸現象の解明に対して、興味をいだかせることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 微分方程式を体系的に学習することによって、幅広い数学の知識を得る。 2. 自然現象に微分方程式を適用し、現象を解明する問題解決能力の向上を図る。 3. 適切な課題問題を解くことにより、継続的に学習できる自己学習能力の向上を図る。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 変数分離形の1階常微分方程式 2. 1階線形微分方程式 3. 完全微分系 4. 1階線形微分方程式の応用例 5. 高階常微分方程式の階数降下法 6. 2階線形同次微分方程式と非同次微分方程式 7. 記号解法 8. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 1 9. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 2 10. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 3 11. 1階偏微分方程式 12. ラグランジュの偏微分方程式 13. 定数係数2階線形偏微分方程式 14. 波動方程式 15. 拡散方程式とラプラス方程式									
<b>教材および参考図書</b> 教科書 : 明解 微分方程式, 長崎憲一、横山利章、中村正彰 共著, 培風館 参考図書 : 微分方程式概論, 神保秀一著, サイエンス社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書を使用し、教科書にそって授業を進める。公式の導出や証明は省略せず説明を行い、授業の中での演習のみでは不足するため、多くの課題を与える。									
<b>評価方法</b> 筆記試験の結果を100%で評価する。 再試験を行う。評価方法は本試験の筆記試験の評価方法に同じ。 60点以上を合格とする。									

授業科目名	応用数理Ⅱ		シラバス コード	6A11	担当教員	檜崎 亮			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 数学は多くの工学系教育にとって欠かすことのできない科目である。本科目ではこれまでに学んだ平面ベクトルや空間ベクトルを抽象して一般のベクトル空間を考え、このベクトル空間の性質を学ぶことにより、抽象的概念と具体例がどのように結びつくのかを理解する。また、一般的な連立1次方程式の解法を習得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 抽象的概念が理解できる。 2. 線形写像の表現行列が求められる。 3. 連立1次方程式の解が求められる。								JABEE プログラム目標  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 抽象的ベクトル空間 2. 1次結合と部分空間 3. 線形写像 4. 1次独立と1次従属 5. ベクトル空間の基底・次元 6. 基底の間の関係 7. 線形写像の行列表現 8. ランク (階数) 9. 連立1次方程式の解の存在定理 10. 連立1次方程式の解法									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：川久保勝夫 著「線形代数学」, 日本評論社 参考書：近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数1 ベクトル空間と行列式」, 数学書房 近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数2 線形写像と行列の標準化」, 数学書房									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業の進め方は講義が主である。抽象的概念の理解のためには具体的な例を用いた演習が必須であるため、授業でいくつかの例を説明するだけでなく課題レポートとして他の例にも触れてもらう。  本科目を受講するにあたって、今までに学んだ行列や行列式についての知識は前提とする。									
<b>評価方法</b> 期末試験70%, 課題レポート30%を目安として評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 なお、総合評価が40点以上60点未満のものについては、再試験を1回のみ実施する。									



授業科目名	物性化学		シラバス コード	6A13	担当教員	辻 豊			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 化学の大きな柱である「化学結合論」と「化学熱力学」について物質の性質、身の回りの変化を通して学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 原子軌道、分子軌道が理解できる。 2. $\sigma$ 結合、 $\pi$ 結合が分子軌道により説明できる。 3. 電気伝導性などの物質の性質が分子軌道により理解できる。 4. 身の回りの変化が化学的に理解できる。 5. 化学変化を支配するものが理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 原子の構造と周期表（周期表の謎） 2. 物質の性質と結合（結合の特徴） 3. 原子軌道と共有結合（炭素同素体の秘密） 4. 分子軌道入門1（導電性ポリマーの秘密） 5. 分子軌道入門2（光と物質の色） 6. 分子間力・水素結合（水の特異性） 7. 物質の三態（状態図の見方、氷はなぜすべるのか？） 8. 仕事と熱（エアコンはなぜ冷えるのか？） 9. 気体の法則（温度と圧力の関係） 10. 反応の速度（反応の速度は何によって決めるのか？） 11. 化学反応と熱の出入り（熱力学第一法則） 12. エントロピーと変化（熱力学第二法則） 13. 酸と塩基（ブレンステッドの定義と酸解離定数） 14. 酸と塩基（ルイスの定義とHSAB） 15. まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜配布します。参考図書：「ライフサイエンス基礎化学」青島 均・右田たい子著（化学同人）、「フォトサイエンス化学図録」（数研出版）、「フロンティア軌道論で化学を考える」友田修二著（講談社ライフサイエンス）、「入門化学熱力学」松永義夫著（朝倉書店）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的にチョークアンドトークにより進めて行きます。適宜スライドを用います。できるだけ日常生活の「変化」を化学的な観点から、説明して行きたいと思えます。日常の生活において「なぜ？」と感じたことがありましたら、質問してください。									
<b>評価方法</b> 成績評価は定期試験（100%）により行います。60点以上を修得とします。（選択科目なので再試は行いません。）									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	画像工学		シラバスコード	6A14	担当教員	黒木祥光			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 画像情報は単なるメディアの一つではなく、工学において、非常に重要な外部情報とみなすことが出来る。本科目では、2次元のデータであるデジタル画像と、3次元の実世界との対応関係、いわゆるコンピュータビジョンの基礎知識の習得を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 様々な射影法とカメラモデルについて説明できる。 2. 様々なカメラにおける変換群について説明できる。 3. エピポーラ幾何について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-3	
<b>学習内容</b> 1 投影とカメラモデル 1.1 投影 1.2 無限遠と射影空間 1.3 斉次座標 1.4 透視カメラと射影カメラ 1.5 弱透視カメラとアフィンカメラ  2 視覚における不変性と対象物の認識 2.1 変換群 2.2 平面に対する不変量 2.3 平面でない対象物に対する不変量  3 エピポーラ幾何 3.1 エピポーラ幾何とは 3.2 透視カメラのエピポーラ幾何 3.3 射影カメラのエピポーラ幾何 3.4 アフィンカメラのエピポーラ幾何 3.5 並進カメラのエピポーラ幾何  4 形状復元 4.1 校正済みの射影カメラによる復元 4.2 校正済みアフィンカメラによる復元 4.3 ユークリッド復元  5 カメラの校正									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：佐藤 淳，コンピュータビジョン-視覚の幾何学-（コロナ社） 参考書：金谷健一，画像理解-3次元認識の数理-（森北出版） 徐 剛，辻 三郎，3次元ビジョン（共立出版） 出口 光一郎，ロボットビジョンの基礎（コロナ社）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> コンピュータビジョンでは線形代数の知識が必須である。講義では出来る限り詳細かつ丁寧な説明を心掛けるので、ノートをしっかりとって欲しい。また、受講生には必要に応じて本科で学んだ線形代数の復習をお願いしたい。									
<b>評価方法</b> 定期試験100%にて評価する。再試験は定期試験と同形式とし、上限を60点とする。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理		シラバスコード	6A15	担当教員	松島 宏典			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 統計解析とグラフィックスのためのソフトウェアであり、様々なプラットフォーム上で動作させることができるR言語のプログラミング技術を、種々の数値計算方法・統計解析方法、画像処理手法と共に習得する。									
<b>到達目標</b> 1. 数値計算方法・統計解析方法について説明できる。 2. R言語によりデータマイニングができる。 3. R言語によりグラフィックス処理ができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-3	
<b>学習内容</b> 1. Rの特徴と実行方法 2. 演算子・条件分岐・繰り返し 3. ベクトル 4. 行列 5. データフレーム 6. データマイニング 7. 確率分布 8. コホート分析 9. 回帰分析 10. 画像処理									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：プリント教材など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業は講義形式とし、演習を交えながら進めていく。適宜課題を課すものとする。R言語プログラミングは、制御情報実験室で行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験の結果80%、課題20%を目安として評価する。 60点以上を合格とし、再試験は必要に応じて行う。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	創造工学実験		シラバスコード	6A16	担当教員	橋村、田中、池田、大崎、福田、小田			
期間	前期	授業形態	実験	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行い、自主性、創造性ならびに行動力の向上を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 自主的な実験企画を行い、遂行し、結果を考察できる。 2. 成果報告書に技術報告書としてまとめることができる。 3. 成果を要約し所定の時間内に発表できる。								<b>JABEE プログラム目標</b> D-1 D-2 E F	
<b>学習内容</b>  1. スケジュール説明・プレゼンテーション技法指導・安全指導 2. 計画発表資料作成 3. 計画発表会 4. 実験装置図作成 5. 学外の技術者による技術指導 6. 実験装置の製作 7. 実験装置を使った実験・評価 8. 成果報告要旨作成、発表資料作成 9. 成果発表会 10. 成果報告書作成									
<b>教材および参考図書</b> 資料を配付する。 フライス盤、のこ盤、電気計測器を設置。 基本電気部品類は常備。研究者総覧、カタログ類。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 1. 入学前に各自が希望するテーマを3項目提出し、担当教員による審査後テーマを決定する。 2. 各自で装置・実験方法を企画し、計画発表会にて説明、必要があれば変更を行う。 3. その後、装置製作のための物品購入請求を行い、目的の実験を行う。 4. 専門分野についての指導は本校教職員全員が対応する。 5. 実験結果は成果発表会で要旨(A4・1枚)をもとに報告し、成果報告書(A4・8~14枚)を提出する。 6. 計画的に、自主的、積極的、創造的に行動することが大切である。									
<b>評価方法</b> テーマについて30%(独創性、難易度)、実験装置の完成度20%、報告書30%(調査量、技術文書表現力)、プレゼンテーション20%(発表手順、発表資料、発表技術、発表時間)。なお、評価が60点未満の場合、成果報告書の提出期限後一ヶ月以内に追加実験などを行い、成果報告書の再提出により、60点を限度として学年末成績評価で追認することがある。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	先端工学特論		シラバスコード	6A17	担当教員	専攻科主事補				
期間	後期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b>										
<p>本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端技術、工学的・工業的諸問題、及びそれらが影響を与える社会問題等に関心をもち、工業技術者としての視野を広めることができる</li> <li>2. それぞれの専門分野の知識を基礎として、エネルギー、環境、新技術、自然科学などの問題に対して工学的に考察できる</li> <li>3. それぞれに関わる科学技術の要点を理解し、客観的な評価ができる</li> </ol>										A-1 A-2 A-3
<b>学習内容</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送大学特別講義（ビデオ）                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太陽光発電新時代</li> <li>2. レーザー核融合</li> <li>3. 大気汚染と保全</li> <li>4. 水の汚濁と浄化</li> <li>5. 廃棄物の処理とリサイクル</li> <li>6. 渇く大地・溺れる大地</li> <li>7. 色の科学（分光発色理論）</li> <li>8. 新技術による結晶構造解析</li> <li>9. 発見者が語るカーボンナノチューブ</li> <li>10. 世界最高速の計算機を創って進める科学</li> <li>11. うま味発見100年～その先端科学を探る</li> <li>12. 磁気不思議と医学応用</li> <li>13. ウェーブレットと錯視</li> <li>14. 数学で解く心の世界～計算エラーはなぜ起こるのか～</li> <li>15. 宇宙の新しい目「重力波望遠鏡」</li> </ol> </li> <li>・学内外における特別講義・特別講演等で構成</li> </ul>										
<b>教材および参考図書</b>										
先端工学特論報告集、講演会での配布資料										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>①放送大学特別講義（ビデオ）と②学内外における特別講義・特別講演等で構成されている。講演などでは福祉問題、環境問題、エネルギー問題、地域企業の先端技術、人文・社会問題、専門及び専門関連分野等の中から、自主的に興味のある学術・技術的題目を選んで聴講する。①のビデオ学習のレポートは、15回のレポートの内8編以内を受け、学生には前期授業時間割に従って15回開催を通知する。②は随時、専攻科に開催の案内をし①②とも毎回、所定の報告書を担当教員へ提出する。</p> <p>関連科目： 環境倫理学など</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>提出されたそれぞれのレポートの内容を教育目的に応じて、A；7点、B；6点、C；5点、D；4点の4段階に評価する。</p> <p>評価基準：累積点60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1・2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科研究論文		シラバスコード	6A18	担当教員	機械工学科教員				
期間	1年通年・2年前期	授業形態	実験		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	10
<b>授業の目的</b>										
ものづくりや研究開発などの分野で、先端技術にも対応でき、創造性のある実践的エンジニアの育成を目的として、指導教員のもとで工学分野に関わるテーマについて研究活動を行う。研究成果の一部は、学位授与申請のための学習成果報告書として、大学評価・学位授与機構へ提出する。										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験などを計画・遂行する能力</li> <li>2. 実験などの結果を解析し、工学的に考察する能力</li> <li>3. 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力</li> <li>4. 日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議などのコミュニケーション能力</li> <li>5. 自主的, 継続的に学習できる能力</li> </ol>										D-2, E,F, G-1
<b>学習内容</b>										
例えば、 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究目的にそった研究計画の立案</li> <li>2. 研究題目に関係する文献や資料の調査</li> <li>3. 実験装置の設計と製作</li> <li>4. 理論解析モデルの構築と計算式</li> <li>5. 実験方法あるいは計算方法の確立</li> <li>6. 予備実験あるいは予備計算</li> <li>7. 実験結果あるいは計算結果の整理</li> <li>8. 実験結果あるいは計算結果の図表の作成</li> <li>9. 実験結果あるいは計算結果の検討および考察</li> <li>10. まとめ</li> <li>11. 研究論文の作成</li> <li>12. 学位授与申請のための学習成果報告書の作成</li> <li>13. 研究論文発表会の準備と口頭発表</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
関連する研究論文、特許情報、資料など										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
専攻科入学直後に、提示された研究題目の研究内容概要を読み、興味ある研究テーマを選択する。指導教員の承認を得た後、基本的には一人が一つのテーマで正式に配属が決定する。										
<b>評価方法</b>										
主指導教員を中心とした複数の教員で、研究内容および研究発表の評価を行う。主指導教員の成績を60%、複数の評価教員による成績を40%として、総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。場合によっては、再研究発表を行わせる。 60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	弾塑性力学		シラバスコード	6A19	担当教員	原田豊満			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 応力集中や塑性変形を取り扱うための知識を獲得する。具体的には、2次元弾性論と塑性力学の基礎的な内容を学ぶことにより、その知識を得ると同時に、実務において技術資料や有限要素法を使用する際に必要となる知識を得る。									
<b>到達目標</b> 1. 2次元の弾塑性力学の基本的な内容が理解できる。 2. 簡単な実際問題を解くことができる。 3. 技術資料や有限要素法を正しく使用することができる。								JABEE プログラム目標  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 弾塑性力学の概要、材料力学との相違点、有限要素法との関係 2. 応力成分とその変換 3. 主応力とひずみ成分、適合条件 4. 一般化されたフックの法則、平衡方程式 5. サンプソンの原理と境界条件、平面応力と平面ひずみ 6. Airyの応力関数、弾性力学の構造、円筒の問題 7. 円孔による応力集中 8. だ円孔による応力集中、き裂の応力関数、等価だ円の概念、有孔有限板 9. 古典理論による薄板の曲げと古典理論の適用限界1 10. 古典理論による薄板の曲げと古典理論の適用限界2 11. 塑性変形の概要、単軸応力の降伏 (教科書 第1章) 12. 八面体応力と偏差応力、ひずみ (教科書 第2章) 13. 多軸応力の降伏条件、相当応力 (教科書 第3章) 14. ひずみ増分理論 (教科書 第4章 p33~p37) 15. 全ひずみ理論、ひずみ増分理論と経路依存性 (教科書 第4章 p37~p40)									
<b>教材および参考図書</b> 弾性力学 (村上 敬宜, 養賢堂), 塑性学と塑性加工 (葉山益次郎, オーム社)									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 弾塑性力学の主要な内容をできるだけ平易に説明する。また平面問題や薄板問題においては、理論の適用限界を文献等により具体的な数値で示し、実感をともなった理解を図る。数式の導出などは配布資料とpowerpointで詳細に取り扱うが、重要なのは、理論の概念と適用範囲およびそれにもとづく、技術資料や有限要素法の取扱上の注意点などであるので、これらの点を見失わないようにすること。									
<b>評価方法</b> 定期試験70%、課題レポートまたは小テスト30%の比率で評価する。 再試験は1回とする。 評価基準: 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	破壊力学		シラバスコード	6A20	担当教員	橋村真治			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本講義は、「材料と強度」に関する専門応用科目であり、材料の破壊に関する微視的な破壊機構や破壊形態、応力拡大係数やエネルギー解放率によるき裂の取扱いについて講義を行う。また、構造材料の基礎的な疲労強度、高温強度と環境強度を習得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1) 材料の破壊機構や破壊形態を理解し、説明できる。 2) 応力拡大係数を用いて、基本的な構造物の状態を評価できる。 3) 材料の疲労強度、高温強度と環境強度を理解し、説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 破壊力学の概要 2. 理想的な破壊強度 3. 破壊の形態とそのメカニズム 4. エネルギー解放率とグリフィスの式 5. き裂先端の応力状態と応力拡大係数 6. 金属疲労の概要 7. 金属疲労の考え方 8. 高温強度の概要 9. 様々な高温強度 10. 環境強度									
<b>教材および参考図書</b> 教材：機械系大学講義シリーズ⑤ 材料強度（コロナ社、大路清嗣・中井善一著） プリント 参考図書：材料力学 上巻（中原 一郎，養賢堂）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義は、できるだけ図等を用いて視覚的に理解しやすいように実施します。演習および課題は、適宜実施し、できるだけ事例を交えて説明を行う。 なお、授業態度が悪い場合には授業の進行妨害とみなして退出を求める場合がある。その場合は早退として取扱うので注意すること。									
<b>評価方法</b> 課題の提出は必須とする。未提出の場合は評価を行わない。 期末テストの結果を100%として評価を行う。 定期試験は、FE試験と同等のレベルで出題する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用流動工学		シラバスコード	6A21	担当教員	中武靖仁			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 流動現象の基礎理論と応用について幅広く知識を取得させる。流体現象を深く理解し、理論的な説明と解釈を容易にして、流体を取り扱うために必要な技術力と応用力を身につける。									
<b>到達目標</b> 1. 流体関連機器の設計・開発を担当できる能力 2. 流体関連機器を運転、保守、制御する技術力 3. 流体現象に関連した問題を解決する能力								JABEE プログラム目標 C-4	
<b>学習内容</b> 1. 流体の運動方程式 (連続の式) 2. 流体の運動方程式 (粘性法則) 3. 流体の運動方程式 (ナビエ・ストークスの式) 4. 流体の運動方程式 (オイラーの式) 5. せん断流 (境界層) 6. せん断流 (噴流・後流) 7. ポテンシャル流れ (ポテンシャル流れの基礎式) 8. ポテンシャル流れ (速度ポテンシャル、流れ関数、複素ポテンシャル) 9. ポテンシャル流れ (基本的な2次元ポテンシャル流れ) 10. ポテンシャル流れ (円柱まわりの流れ、ジューコフスキー変換) 11. 圧縮性流体の流れ (マッハ数による流れの分類、圧縮性流れの基礎式) 12. 圧縮性流体の流れ (等エントロピー流れ、衝撃波の関係式)									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：JSMEテキストシリーズ「流体力学」(日本機械学会) 参考図書：市川常雄著「水力学・流体力学」(朝倉書店) 坂田光雄・坂本雅彦共著「流体の力学」(コロナ社)									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 予習および復習がしやすいように教科書を中心とした講義を行う。まず、流体に関する現象をなるべく身近な例で解説し、その基本となる内容について解説を加える。できるだけ多くの図表や数式を用いて、現象の理解と定量的に表現できるように進める。また、演習問題をなるべく多く取り入れ実問題になれるように進めるが、自分でもより多くの問題を解くことが重要である。									
<b>評価方法</b> 定期試験(100%)で評価する。 なお、総合評価が40点以上のものについては、再試験を原則1回のみ実施する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	移動現象論		シラバス コード	6A22	担当教員	松永 崇			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本科の流体力学および伝熱工学を基礎として、粘性流体の運動量移動、各種形態の熱移動さらに拡散等の物質移動について統一的に取り扱う。これら三つの移動現象の理解は、機械、化学、食品工業で使用される各種機器の設計、運転、保守などにおいて重要である。移動現象について理論的な説明と解釈を容易にするため、基礎理論と応用について幅広い知識を習得する。									
<b>到達目標</b> 1. 移動現象を理解する能力 2. 移動現象に関連した機器の設計・開発を担当できる能力 3. 移動現象に関連した機器を運転、保守、制御する技術力 4. 移動現象に関連した問題を解決する能力								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1, C-4	
<b>学習内容</b> 1. はじめに、移動現象とは 運動量移動論 2. 連続の式、粘性流体の運動方程式 3. 運動量移動における相似則、ベルヌーイの式、 4. 円管内層流と乱流 5. 管群間の流れ、充填層内の流れ 6. 以上の演習問題 熱移動論 7. 定常熱伝導、非定常熱伝導 8. 層流熱伝達 9. 乱流熱伝達 10. 沸騰・凝縮、気液二相流 11. 熱放射、熱交換器 12. 以上の演習問題 物質移動論 13. 拡散現象、拡散法則 14. 静止流体および層流における物質移動、乱流における物質移動 15. 以上の演習問題									
<b>教材および参考図書</b> 配布プリントを教材として用いる。 参考書：「移動現象論」：平岡正勝ほか、朝倉書店 「移動論」：小林清志ほか、朝倉書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 配布プリントにそって授業内容の要点を坂書し説明を行う。その際に具体的な現象を紹介し解説する。授業の中での質問、討論、例題の解説をとおして、考え方、解き方を学ばせる。また、演習問題を数回与え、レポートをにして提出させる。									
<b>評価方法</b> 定期試験 80 %、質問・討論に対する受け答え、課題レポート 20 %を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行い、上記と同様な評価方法で算出する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	設計システム工学		シラバス コード	6A23	担当教員	藤田 雅俊			
期間	後期	授業形態	講義と演習	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 商品の企画・設計から製造・販売・使用までの設計のシステム（デザイン）の概要を理解すること。特に、仕様決定から詳細設計までの過程で配慮すべき事柄について講義を行い、設計能力の向上を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 産業における設計・デザインプロセスの役割を理解する 2. 日本の産業における設計・デザインの特性を理解する 3. グローバル化に向けて設計・デザインプロセスの将来性を考察できる								JABEE プログラム目標 C-2 G-1	
<b>学習内容</b> 1. 日本の産業システムにおける設計・デザインプロセスの特徴-1 2. 日本の産業システムにおける設計・デザインプロセスの特徴-2 3. 日本の産業システムにおける設計・デザインプロセスの特徴-3 4. 政策的・経済的に視た日本型設計・デザインシステムの優劣-1 5. 政策的・経済的に視た日本型設計・デザインシステムの優劣-2 6. 政策的・経済的に視た日本型設計・デザインシステムの優劣-3 7. 設計・デザインシステムにおけるコンセプトワーク-1 8. 設計・デザインシステムにおけるコンセプトワーク-2 9. 設計・デザインシステムにおけるプレゼンテーションの活用-1 10. 設計・デザインシステムにおけるプレゼンテーションの活用-2									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜資料を配付									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 設計プロセスの概説後、講義の応用として提示課題についての調査・提案・設計を各自で行う。成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションを行う									
<b>評価方法</b> プレゼンテーション40%（コンセプト20%・表現力20%）授業レポート20% 課題レポート40% 60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	システム制御工学		シラバスコード	6A24	担当教員	江頭成人			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本授業においては、一般的なシステムを制御するために必要なシステム制御工学について学修する。具体的には、これまでに修得した制御工学の技術を基に、一般的な制御システムを構築する技術を修得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 制御理論をシステム制御へ摘要することができる。 2. 与えられたシステムに対して、システムを把握することができる。 3. それに適切な制御系を構築することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-3 C-5	
<b>学習内容</b> 1. システム制御の考え方 2. 自動制御について 3. システム同定について 4. 現代制御理論について 5. 状態方程式と観測方程式 6. 極配置レギュレータによる制御 7. オブザーバによる状態値推定 8. 最適レギュレータによる制御 9. 最適推定 10. 最適制御									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：自動制御、柏木 編著、朝倉書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書による講義を中心とする。微分方程式、ラプラス変換および確率統計等の応用数学と、古典制御理論を十分に復習しておくこと。									
<b>評価方法</b> 定期試験を70%、課題を30%として総合評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	デジタル制御		シラバス コード	6A25	担当教員	江頭成人			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本授業においては、コンピュータ等によるデジタル制御を実現するために必要な技術について学修する。 具体的には、これまでに修得したアナログ制御工学の技術を基に、コンピュータによるデジタル制御システムを構築する技術を修得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 与えられたアナログ制御システムをデジタル化することができる。 2. デジタル制御システムを構築することができる。 3. デジタル制御システムの安定性を論ずることができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-3 C-5	
<b>学習内容</b> 1. デジタル制御の考え方 2. アナログ制御システムのデジタル化 3. サンプル値制御系の構成 4. サンプリングとホールド回路 5. z変換 6. パルス伝達関数とその結合 7. サンプル値制御系の特性解析 8. サンプル値制御系の特性補償と設計 9. デジタルPID制御 10. デジタル制御におけるシステム同定									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：自動制御、柏木 編著、朝倉書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書による講義を中心とする。微分方程式、ラプラス変換および確率統計等の応用数学と、古典制御理論を十分に復習しておくこと。									
<b>評価方法</b> 定期試験を70%、課題を30%として総合評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	機械工学特論		シラバスコード	6A26	担当教員	機械工学科教員			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> サマーレクチャーと銘打ち、本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義を実施する。その目的は、各高専の特徴を生かした専門特論を少人数の専攻科学生を対象に広く深く教授し、特化専門分野の高度技術の習得、今日最先端技術についての実際的技量の習得、および専攻科学生の相互交流である。									
<b>到達目標</b> 1. 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる。 2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーションができる。 3. 自主的、継続的に学習できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C1~5	
<b>学習内容</b> 本校機械工学科の専門教育は、機械設計、材料強度、生産工学、熱流体、計測制御などにより構成されている。本科目は、サマーレクチャーとして開催し、ある専門分野に特化した教育研究を、他高専生を含む専攻科生に講義するものである。ある専門分野の基礎と応用及び最新技術を講義するとともに、さらに理解を深めるための実験・実習、演習、工場見学などを含む。特論テーマは実施年度によって異なるが、そのテーマにそって教育プログラムが作成され、本校教員、他高専教員、大学教授、研究所・民間企業の専門家がオムニバス形式で授業を担当する。									
<b>教材および参考図書</b> 授業内容をまとめたテキスト、資料など。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義、演習、実習、実験、見学会などにより実施する。 なお、本年度は、本特論は開講しない。									
<b>評価方法</b> 各担当講師がレポート、演習課題などで評価し、それらをまとめて総合的に評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	電気電子工学特論		シラバスコード	6A27	担当教員	電気電子工学科教員・学外講師			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 電気電子情報システムのうち、半導体、電力制御、画像・音声情報処理、レーザー、プラズマ、ネットワーク、電気磁気の各分野でのセンシング技術について学習する。研究中から実用の領域までを取り上げ専攻科生として資質の向上を図る。									
<b>到達目標</b> 1. 最近の画像・音声信号処理分野に関し事例を挙げて説明することができる。 2. 最近のレーザー技術に関し事例を挙げて説明することができる。 3. 最近のプラズマ技術に関し事例を挙げて説明することができる。 4. 最近の半導体技術に関し事例を挙げて説明することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-5	
<b>学習内容</b> 最近の研究や実用技術に関する事項をとりあげ、画像情報処理、レーザー技術、プラズマ技術、音声信号処理及び半導体技術を専門とする講師により講義する。また関連施設の見学を適宜実施する。									
<b>教材および参考図書</b> 講師配布のテキスト、資料など。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 本講義は、サマーレクチャーとして本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義として実施する。									
<b>評価方法</b> 各講師の課題レポート、演習問題などによって総合評価する。 再試験は原則実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	制御情報工学特論		シラバスコード	6A28	担当教員	制御情報工学科長他			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 平成15年度から九州高専間の特別聴講学生制度に基づく単位互換科目として、サマーレクチャーと銘打ち、本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義を実施している。その目的は、各高専の特徴を活かした専門特論を少人数の専攻科学生を対象に広く深く教授し、特化専門分野の高度技術の修得、今日最先端技術についての実際的技量の修得、および専攻科学生の相互交流である。									
<b>到達目標</b> 1. 該当する分野の専門技術に関する知識を修得し、それらの問題解決に応用できる能力を養う 2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を養う 3. 自主的、継続的に学習できる能力を養う								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-5	
<b>学習内容</b> 本講義では、画像処理やサーボ機構など、制御情報工学に関するテーマを設定し、基礎原理から産業界における実際について学ぶ。また、テーマに即した実習、施設見学も実施する。最先端の技術を含む高度な講義にするため、講師は他の教育機関、企業からも招聘する。									
<b>教材および参考図書</b> 授業内容をまとめたテキスト、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義、演習、実習、実験、見学会などにより実施される。 平成22年度は実施しない。									
<b>評価方法</b> 各担当講師がレポート、演習課題などを評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅲ		シラバスコード	7A01	担当教員	江島孝則			
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> ニケーションの場において自由に自分の考えを相手に伝えたり、相手の言うことを理解するための英語力を養成することにある。教科書のTOEIC問題の演習を通してコミュニケーションな英語を習得すること。									
<b>到達目標</b> 1. 英語で自分の考えを相手に伝えることができ、相手の言うこともある程度理解できる能力を習得すること。 2. TOEICで400点程度のスコアを取れる能力を養成すること。 3. 語彙力を強化すること。								<b>JABEEプログラム目標</b>  G-2	
<b>学習内容</b> Unit 1 Part 1 写真描写問題①、 Part 5 短文穴埋め問題① Unit 2 Part 1 写真描写問題②、 Part 5 短文穴埋め問題② Unit 3 Part 1 写真描写問題③、 Part 5 短文穴埋め問題③ Unit 4 Part 2 応答問題①、 Part 5 短文穴埋め問題④ Unit 5 Part 2 応答問題②、 Part 5 短文穴埋め問題⑤ Unit 6 Part 2 応答問題③、 Part 5 短文穴埋め問題⑥ Unit 7 Part 2 応答問題④、 Part 5 短文穴埋め問題⑦ Unit 8 Part 2 応答問題⑤、 Part 5 短文穴埋め問題⑧ Unit 9 Part 2 応答問題⑥、 Part 5 短文穴埋め問題⑨ Unit10 Part 3 会話問題①、 Part 5 短文穴埋め問題⑩ Unit11 Part 3 会話問題②、 Part 6 長文穴埋め問題① Unit12 Part 3 会話問題③、 Part 6 長文穴埋め問題② Unit13 Part 3 会話問題④、 Part 6 長文穴埋め問題③ Unit14 Part 3 会話問題⑤、 Part 6 長文穴埋め問題④ Unit15 Part 3 会話問題⑥、 Part 7 読解問題・1つの文書① Unit16 Part 3 会話問題⑦、 Part 7 読解問題・1つの文書② Unit17 Part 3 会話問題⑧、 Part 7 読解問題・1つの文書③ Unit18 Part 4 説明文問題①、 Part 7 読解問題・1つの文書④ Unit19 Part 4 説明文問題②、 Part 7 読解問題・1つの文書⑤ Unit20 Part 4 説明文問題③、 Part 7 読解問題・1つの文書⑥ Unit21 Part 4 説明文問題④、 Part 7 読解問題・1つの文書⑦ Unit22 Part 4 説明文問題⑤、 Part 7 読解問題・2つの文書① Unit23 Part 4 説明文問題⑥、 Part 7 読解問題・2つの文書② Unit24 Part 4 説明文問題⑦、 Part 7 読解問題・2つの文書③									
<b>教材および参考図書</b> The TOEIC Test Practice With Core Vocabulary Book 2(SEIBIDO) 及びプリント教材等									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業に遅れることなく参加することは基本である。出席は授業の最初にとる。 授業はテキストにそって進める。毎週、課題あり。適宜、TOEIC模擬テスト実施をする。									
<b>評価方法</b> 数回の模擬試験及び期末試験で80%、提出された課題レポート20%で評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	工学倫理		シラバスコード	7A02	担当教員	東島光雄			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 技術者倫理に関する事例研究の学習を通して、技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を身に付ける。									
<b>到達目標</b> 1. 技術者倫理に関する様々な事例を理解する。 2. 事例が意味することの分析の仕方を理解する。 3. 技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を自覚する能力を身に付ける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1 A-2 A-3	
<b>学習内容</b> 1. 技術者倫理とは 2. 専門家の責任（チャレンジャー号事故ビデオ） 3. 安全と設計（日航ジャンボ機墜落事故） 4. 消費者を守る責任（雪印乳業集団食中毒事件） 5. 製造物責任 6. 知的財産権 7. 倫理規定 8. 人々の安全が優先 9. 内部告発の条件 10. 専門家の責任									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：新はじめての工学倫理、齋藤了文他。昭和堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 事例研究をメインとする。 適宜ビデオ学習を併用する。 「事件事例を集めたHP」から事例を調べてレポート提出を課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般Ⅱ		シラバス コード	7A03	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理III		シラバスコード	7A04	担当教員	菺田智恵子			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> ベクトル場の微分積分であるベクトル解析を学ぶ。ベクトル解析は工学、理学で重要な道具であるため、理論の習得はもちろんの事、計算が出来るようになる事を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 線積分、面積分の理解及び計算ができるようになる。 2. ベクトル場、接空間、余接空間、微分形式を知識として得る。 3. 様々な数学書をあたり、疑問点を自分で調べ事が出来るようになる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. ベクトルの復習 2. ベクトルの微分 3. スカラー場とベクトル場 4. 勾配・発散・回転 5. 線積分の定義 6. グリーンの定理 7. 面積分の定義 8. ガウスの定理 9. ストークスの定理 10. 微分形式入門									
<b>教材および参考図書</b> 教科書は特に指定しない。しかし、授業中に、参考書は何冊か紹介する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 標準的なベクトル解析の参考書に沿って講義します。説明が中心となりますが、受講者の理解度に応じて、問題演習の時間を設けます。講義で解らないところは質問してもらおう事が第一ですが、図書館などでベクトル解析の本を読んで、自分で解決する事も希望します。									
<b>評価方法</b> 総合点で100点満点で60点以上を合格とする。筆記試験の点数をA(100点満点)、授業中に行う演習とレポート課題による評価をB(50点満点)としたとき、 (評価点) = A + (1 - 0.01A)B とする。 評価点が60点に満たないものに対しては再試験を行う。ただし、再試験による評価点の上限は60点とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	統計力学及び熱力学		シラバスコード	7A05	担当教員	越地尚宏			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 微視的世界と巨視的世界を結びつける橋としての統計力学・熱力学の基礎を学び、比熱や内部エネルギー、エントロピーの概念を学び、これらの巨視的な特徴を分子論的に導く									
<b>到達目標</b> 1. 物質の熱的性質を理解し、必要に応じて、解析と応用ができるようになる。 2. マクロな熱的性質の起源を分子論的見地から理解する 3. 上記の内容に関連した基礎的な演習問題が解けるようにする。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 熱力学の基礎 2. 熱力学の第1法則 3. 仕事とエネルギー 4. エネルギー保存則と仕事の原理 5. 熱力学の第2法則 6. 熱力学からみたエントロピー 7. 統計力学の考え方 8. 統計力学からみたエントロピー 9. 統計力学と熱力学の融合 10. 比熱についてミクロおよびマクロな視点から考える									
<b>教材および参考図書</b> 熱・統計力学 岩波書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を主体にして、また必要に応じてその理解を深めるために積極的に演習を行う。また適宜、演示実験、ビデオ教材、コンピューターシミュレーション等を活用していく。									
<b>評価方法</b> 定期試験による評価を80パーセント、上記の演習やレポートによる評価を20パーセントとし、これらを総合的に評価する。60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門 I		シラバス コード	7A06	担当教員	専攻科主事				
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2	
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 専門知識を広める。										
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -		
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。										
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論専門 I として認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。										
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門Ⅱ		シラバス コード	7A07	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，専門知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論専門Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	技術英語		シラバス コード	7A08	担当教員	平川 靖之				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b> 英語の長文を短時間で読み下し、その概略を把握して、他人に説明する能力を養うことは重要である。本講義は、長文の要約およびその内容に関する説明を行う能力を身につけることを目的とする。										
<b>到達目標</b> 1. 数式やグラフを英語で説明することができる。 2. 論文等の技術英語に使われる慣用表現を理解することができる。 3. 英語で手紙やメールを書くことができる。 4. 英語の長文を要約し、説明することができる。									<b>JABEE プログラム目標</b>  G-2	
<b>学習内容</b> 1. 科学技術英語の基本的な表現 (物体の形状) 2. 科学技術英語の基本的な表現 (物体の位置・運動・方向) 3. 科学技術英語の基本的な表現 (数字と数量) 4. 科学技術英語の基本的な表現 (数学記号・数式) 5. 科学技術英語の基本的な表現 (数学・物理) 6. 科学技術英語の基本的な表現 (グラフ) 7. 手紙やメールの基本的な構成、表現方法 8. 英語手紙の演習 9. 英語メールの演習 10. 英語論文の基本的な構成 11. 英文輪読 1 (英文音読後、和訳・解説) 12. 英文輪読 2 (英文音読後、和訳・解説) 13. 英文輪読 3 (英文音読後、和訳・解説)										
<b>教材および参考図書</b> 教科書：多田旭男 他共著「アクティブ科学英語」三共出版 その他、適宜プリント配布										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 前半は、教科書を用いて、科学技術英語の基礎と手紙・メールの書き方を学習する。メールについては、実際に英語でメール送信する課題を行う。 後半は、プリントで配布する技術英語の長文をゼミ形式の輪読で行う。輪読時には、英文の和訳、内容の説明ができるように、予習を十分に行っておく必要がある。										
<b>評価方法</b> 定期試験 (60%)、輪読・課題レポート (40%) を原則とし、欠課・遅刻を減点する評価法とする。 再試験は実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科インターンシップ	シラバスコード	7A09	担当教員	専攻科主事及び担当教員				
期間	後期	授業形態	実習	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	7
<b>授業の目的</b>									
<p>本学科と専攻科で学んだ工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを、企業等における長期インターンシップで経験し、実践的技術者としての資質を高めることを目的とする。本科目は、本学科と専攻科の最終科目であり、各学生は企業からの評価を受け、その結果を参考にして、学生の自己啓発および専攻科の教育改善を促す。</p>									
<b>到達目標</b>								<b>JABEE プログラム目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任が理解できる。</li> <li>2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる。</li> <li>3. 該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる。</li> <li>4. 日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを通してコミュニケーションを図ることができる。</li> <li>5. 自主的、継続的に学習することができる。</li> </ol>								<p>F G-1 H</p>	
<b>学習内容</b>									
<p>専攻科2年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務を行う。予めインターンシップ担当教員が引き受け実施機関の用意しているプログラムを検討・調整しておき、そのプログラムに従って実習する。主な内容は、下記のものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械部品などの組み立て・製作</li> <li>2. 設計・製図・図面の修正</li> <li>3. 制御回路の組み立て・修理</li> <li>4. 操作説明書の作成</li> <li>5. CADによる図面作成</li> <li>6. グラフィックスの作成</li> <li>7. 穴あけ・切削・溶接などの加工</li> <li>8. 実験・試験・測定・データ整理</li> <li>9. ワード・エクセルによる文書作成</li> <li>10. 製品の品質検査</li> <li>11. 計算プログラム作成</li> <li>12. 報告書及び最終報告書の作成</li> <li>13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表</li> </ol>									
<b>教材および参考図書</b>									
実習内容に関連する文献、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>									
<p>インターンシップ受け入れ機関を提示し、その中から、担当教員と学生が相談の上、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は10月中旬から2月上旬までの間で、期間は2ヶ月以上4ヶ月以内、企業あるいは研究機関などにおいて実際の業務に従事する。ただし、12月中旬の大学評価・学位授与機高の試験期間1週間は除く。担当教員は、時折、実施機関を訪問し、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、一ヶ月ごとに報告書を担当教員に提出する。インターンシップ終了後直ちに、学生は最終報告書および実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。</p>									
<b>評価方法</b>									
<p>複数のインターンシップ関連教員により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。60点以上を合格とする。</p>									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	生産加工学		シラバスコード	7A10	担当教員	石丸良平			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 現在、世界中で多くのモノが作られ、使用されている。その中でも、生産加工の代表として、自動車、工作機械、産業装置、測定機器などに欠かせない歯車に着目し、その歯形理論、工作法、強度等について学び、理解を深めることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 歯車の歯形理論、設計、加工法が理解できる。 2. 各種機械に用いられている機械要素としての歯車を理解できる。 3. ものづくりの重要性や必要性、意義を認識できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-3	
<b>学習内容</b> 1. 歯車の種類と特徴 2. 歯車の歯形理論 3. 歯車の形状設計 4. 歯車の強度設計 5. 歯車用材料および熱処理 6. 歯車の加工 7. 歯面仕上げ 8. 歯車の精度および検査 9. 歯車の損傷 10. 運転・潤滑									
<b>教材および参考図書</b> 教材：配布プリント 参考図書：歯車工学（上野拓編著、共立出版）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 配布プリントを中心に講義を行うが、各人に異なる課題を与え、その課題について学習してきたことを発表してもらう。発表した内容はレポートにして提出。									
<b>評価方法</b> 定期試験60%、レポート40%で評価を行う。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

授業科目名	計算力学		シラバス コード	7A11	担当教員	中尾哲也			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 有限要素法は、機械工学における機械研究、設計などの分野においてなくてはならないものとなっており、計算力学の主要分野でもある。本科目では、有限要素法の理論について基礎的部分を学び、3次元CADソフトSolidWorksで3次元モデルを作成し、モデルに対して様々な解析を施す。									
<b>到達目標</b> 1. 有限要素法に関して基礎的な知識を有し、シミュレーション結果について評価できる 2. 3次元CADでモデル化し、適当な境界条件を与え解析することができる 3. 自分で問題を提起し、シミュレーションによって問題解決することができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-3	
<b>学習内容</b> 第1週 有限要素法について 第2週 有限要素法の基礎的知識 第3週 弾性問題の基礎方程式1 第4週 弾性問題の基礎方程式2 第5週 Excelによる有限要素解析(トラス, 平面板) 第6週 SolidWorksによる3次元製図の基礎 第7週 SolidWorksSimulationによる構造解析1(強度解析) 第8週 SolidWorksSimulationによる構造解析2(座屈解析) 第9週 SolidWorksSimulationによる構造解析3(熱伝導解析) 第10週 SolidWorksSimulationによる構造解析4(振動解析) 第11週 SolidWorksSimulationによる流体解析 第12週 SolidWorksSimulationによる機構解析 第13週 課題設定 第14週 解析演習 第15週 解析演習まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材：配布プリント 参考図書：有限要素法概説—理工学における基礎と応用 菊池著 サイエンス社 有限要素法入門 三好著 培風館									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 有限要素法の基礎的な理論を理解し、実際にプログラム(トラス, 平面板)を作成する。使用言語は問わない。また、3次元CADソフトであるSolidWorksに付属しているSolidWorksSimulationにて種々の問題解析(構造解析, 座屈解析, 固有値解析, 落下解析, 熱解析など)に取り組む。最後に、自分で課題を設定し、解析結果を報告してもらう。解析方法などをまとめる。後半課題は性質上、SolidWorksに精通していることが求められる。									
<b>評価方法</b> トラス, 平面板に関するプログラム及び結果レポート 50% 3次元CADソフトによる問題～解析レポート 50% 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

機械工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	メカトロニクス工学		シラバスコード	7A12	担当教員	綾部 隆			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> メカトロ機器のアクチュエータに関する基礎知識を修得すると共に、機械・電気系のモデリング、モータの選定法、位置決め制御系の設計に関する基礎的な能力を身につける。									
<b>到達目標</b> 1. 機械・電気系のモデリングの基礎能力を身につける。 2. モータの選定ができる。 3. 位置決め制御系の設計法を理解する。								JABEE プログラム目標  C-5	
<b>学習内容</b> 1. 代表的なセンサ(1) 2. 代表的なセンサ(2) 3. アクチュエータの分類と特徴 4. DCモータの駆動回路 5. DCサーボモータの各種制御法と指令方式 6. サーボシステムの構成 7. ステッピングモータ 8. DCサーボモータ, およびDCサーボモータで駆動された機械系のモデリング(1) 9. DCサーボモータ, およびDCサーボモータで駆動された機械系のモデリング(2) 10. モータ軸からみた機械系の等価慣性モーメントと等価負荷トルクの計算法(1) 11. モータ軸からみた機械系の等価慣性モーメントと等価負荷トルクの計算法(2) 12. DCモータの所要トルク計算とモータの選定法 13. DCモータの所要トルク計算とモータの選定法 14. 位置決め制御系の簡易設計法									
<b>教材および参考図書</b> 教材プリント, ノート講義									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> ノート講義およびプリントを配布する。機械, 電気電子, 制御情報各コースの学生を対象としているので本科で学んだことの復習を行うと共に、他分野の基礎知識を修得させる。モータの選定法については実際に演習を行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験で評価する。100点法で60点以上の場合、上記の目標を達成したものとする。60点に満たない場合には再試を受けられるが、再試の成績が60点以上の場合、60点として評価する。									

## ■授業科目

# 電気電子工学コース

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語 I		シラバス コード	6E01	担当教員	福田 かおる			
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 実践的な場面で多用される英文法の重要項目を確認し、さらに語彙力の強化を図ることによって、英語のコミュニケーション能力を向上させる。									
<b>到達目標</b> 1. 英文法の要点を復習し、正しい知識を定着させる。 2. ビジネスの場で使用される基本的な語彙や慣用表現を習得する。 3. TOEICで400点以上取得できるよう、英語の理解力を向上させる。								JABEE プログラム目標  E	
<b>学習内容</b> 1. 時制 2. 仮定法 3. 受動態 4. 関係詞 5. 分詞 6. 助動詞 7. 主語と動詞の一致 8. 不定詞・動名詞 9. 比較 10. 形容詞・副詞 11. 名詞・冠詞 12. 接続詞 13. 否定 14. 模擬テスト(1) 15. 模擬テスト(2)									
<b>教材および参考図書</b> ESSENTIAL GRAMMAR FOR THE TOEIC TEST マクミラン・ランゲージハウス									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って、1回に1ユニットずつ進める。まず、文法事項の要点を説明し、確認するための演習問題を行う。必要に応じて、文法問題、語彙問題、リスニング問題を加える。									
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は実施しないが、定期試験の得点が60点に満たなかった学生が後日TOEICを受験して400点以上のスコアを提示した場合、成績を60点に修正し、合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅱ		シラバスコード	6E02	担当教員	福田 かおる			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 世界中から発信された健康・環境関連の英文ニュースを読むことによって、科学技術に関連した時事英語の理解力を養成する。									
<b>到達目標</b> 1. ニュース英語の読解力を養成する。 2. 環境や社会事象に関連した語彙を強化する。 3. 世界情勢や環境問題について理解を深める。								<b>JABEE プログラム目標</b>  E	
<b>学習内容</b> TOPIC 1. Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them 2. "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source 3. Offices Use Ice to Cool Down and Save Power 4. Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's 5. Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property 6. College Students Feel Better after Screaming Together 7. Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers 8. Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales 9. Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water 10. Aboriginies Still Rely on Bush Medicines for Remedies 11. African Farmers Seek Ways to Survive Droughts 12. Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health 13. Rising Seas May Force Island Nations Evacuate 14. Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating 15. Planned Chinese City Wants All Eco-Friendly Power									
<b>教材および参考図書</b> Heling Our World: Today's Helath and Environment News 南雲堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って毎回1Unit学習する。速読に自信のない学生は、予めReading部分を読んで、要点を把握するためのStep1, Step2の答えを考えてくることが求められる。読解の際は、前期に学習した文法事項が活用できるはずである。授業ではニュースの内容を確認した後、TOEIC形式の問題と、英作文問題を行う。語彙の定着とリスニング力強化のために、随時単語の確認問題をリスニング形式で実施する。									
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は1回のみ実施する。但し、試験の成績がクラスの平均より20点以上低い学生は、再試を受験できない。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	環境倫理学		シラバスコード	6E03	担当教員	東島光雄			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 環境倫理学は自然と人間の共生を求める。 この時自然の価値をいかに認識するかがカギとなる。 環境倫理学の目的は、人間中心の環境・自然の価値の理解から、生態系中心の環境・自然の価値の理解への転換である。									
<b>到達目標</b> 1. 環境倫理学の基本主張を学ぶ。 2. 自然の内在的価値を学ぶ。 3. 一般の生活者として、また将来の技術者として、自分の活動が環境・自然とどのような関係にあるかを認識する能力を身につける。								JABEE プログラム目標  F	
<b>学習内容</b> 1. 環境倫理学とは何か 2. 環境倫理学の三つの基本主張 3. 足尾鋇毒事件と水俣病 4. 資源の枯渇と環境破壊 5. 自然の権利 6. 世代間倫理 7. 土地倫理 8. 生物多様性保護の倫理 9. 自然保護のめざすもの 10. 人間中心主義から人間非中心主義へ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：なし 参考図書：環境と倫理、加藤尚武編、有斐閣									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的に講義の形で授業を行う。 適宜ビデオ学習を併用する。 企業の「環境報告書」について調査レポートを課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業デザイン演習	シラバスコード	6E04	担当教員	藤田 雅俊				
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 商品企画から商品サーベイ、商品研究、市場化を踏まえた実際の商品化提案までのプロセスをグループ単位での演習により修得する。社会的に要求される商品を自ら求め、そのニーズに相応しい商品を技術解析、情報収集を基にして具体化する。グループでの作業により、計画的、継続的に仕事を進める責任感を養い、最終的なプレゼンテーションでの資料のまとめ方、口頭発表能力、コミュニケーション能力を高める。									
<b>到達目標</b> 1. 商品の企画から最終デザインまでのプロセスの理解・習得 2. グループワークによるメンバー同士のコミュニケーション能力の習得 3. 自らの企画を効果的に伝達するプレゼンテーション能力の習得 4. 自律的・計画的に作業を推敲する能力の習得 5. アイデアを具現化する創造力と編集力の習得								JABEE プログラム目標 A,B,G	
<b>学習内容</b> 第1週；オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス） 第2週；商品企画対象の選定 第3週；商品化プロセス調査1 第4週；商品化プロセス調査2 第5週；商品化プロセス調査3（発表） 第6週；商品化企画演習1（要素技術の調査） 第7週；商品化企画演習2 第8週；商品化企画演習3（中間発表） 第9週；商品化企画演習4 第10週；商品化企画演習5 第11週；商品化企画演習6 第12週；プレゼンテーション1 第13週；プレゼンテーション2 第14週；講評及び評価 第15週；課題レポート									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜資料を配付									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業における商品デザインの講義、商品提案スタディ、テーマレポートを総合的に行う。企画の提案・プレゼンテーション評価には地域企業・公設機関の方に参加してもらう。									
<b>評価方法</b> 商品化プロセス調査20% 演習課題50%（外部評価・相互評価を含む） 課題レポート30% 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業財産権特論		シラバスコード	6E05	担当教員	伊藤義文・梶原克彦・大段恭二				
期間	前期	授業形態	講義と演習		必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b>										
専攻科1年の必修科目である「創造工学実験」と同時開講し、「実験」成果から発明を発掘し、展開し、明細書という模擬出願書類に取りまとめる。また、産業財産権制度に関する知識の習得や、インターネットでの技術情報の検索方法を同時に学習することで、特許制度に明るい実践的な人材を育成する。										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業財産権制度の基礎知識の習得</li> <li>2. インターネットによる特許検索能力の育成</li> <li>3. 特許出願書類の作成能力の育成</li> </ol>										F
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入コースー1</li> <li>2. 導入コースー2</li> <li>3. 基礎コースー1＋「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>4. 基礎コースー2＋「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>5. 産業財産権の調査方法＋「インターネットによる技術情報検索演習」</li> <li>6. パテントマップの作成方法＋「パテントマップの作成演習」</li> <li>7. パテントマップの作成方法＋「パテントマップの作成演習」</li> <li>8. 基礎コースー3</li> <li>9. 基礎コースー4</li> <li>10. 実践コースー1</li> <li>11. 実践コースー2</li> <li>12. 明細書の書き方指導ー1</li> <li>13. 明細書の書き方指導ー2</li> <li>14. 明細書の書き方指導ー3</li> <li>15. 発明報告会</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
教材：産業財産権標準テキスト(特許庁)・・・・・・無償配布										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
特許庁の産業財産権標準テキストに従い、産業財産権に関する講義と、創造工学実験でのアイデアを模擬出願書類にまとめる演習の2本立てで行う。										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義：産業財産権指導カリキュラムに従って講義し、毎回小テストを実施して理解度を深める。</li> <li>2. インターネットによる技術情報検索、パテントマップの作成は、外部講師を招聘して行う。</li> <li>3. 明細書の書き方指導は、外部講師(弁理士)を招聘して行う。</li> <li>4. 発明報告会は、担当教官、各学科の創造工学実験担当教官、外部講師に出席して貰い、評価を行う。</li> <li>5. 優秀特許は特許庁のpatentコンテストに応募する。”</li> </ol>										
<b>評価方法</b>										
小テスト30点、定期テスト30点、発明演習40点で合計100点満点とし、60点以上を合格とする。再試験は実施しない。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般 I		シラバスコード	6E06	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般 I として認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	地球環境と現代生物学		シラバスコード	6E07	担当教員	中 蔦 裕之			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年、環境問題を地球レベルで理解することが重要となっている。本講義では、様々な地球環境問題を生物学的立場から理解することを目的とする。また、バイオテクノロジーが地球環境の修復や持続的発展の可能な社会作りによどのように利用されているかについて学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 地球環境やエネルギー問題の現状について理解できる。 2. 環境修復や環境維持におけるバイオテクノロジーの役割を理解できる。 3. 実際の産業へどのように応用されているかを理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  D F	
<b>学習内容</b> 1. 地球環境の現状（環境問題， エネルギー問題） 2. 未来のエネルギー 3. エアロゾルⅠ 無機エアロゾル 4. エアロゾルⅡ 無機エアロゾルの成分 5. エアロゾルⅢ バイオエアロゾルとハウスダスト 6. エアロゾルⅣ バイオエアロゾルの地球規模の移動 7. エアロゾルⅤ 黄砂発生源におけるバイオエアロゾル拡散 8. 海洋環境Ⅰ 赤潮 9. 海洋環境Ⅱ 富栄養化 10. 海洋環境Ⅲ 水の華 11. 身近な有害有毒物質 12. 環境におけるバイオテクノロジーⅠ バイオレメディエーション 13. 環境におけるバイオテクノロジーⅡ 遺伝子工学 14. 特殊環境に棲息する生物Ⅰ 好アルカリ性微生物 15. 特殊環境に棲息する生物Ⅱ 好熱性微生物									
<b>教材および参考図書</b> 教材：単元ごとに作成したプリントを使用する。 参考図書： 今中利信他著，環境・エネルギー・健康20講，化学同人 清水達雄他著，微生物と環境保全（地球環境サイエンスシリーズ⑨），三共出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に行う。 地球環境を生物学的視点から講義するため，かなりの専門知識を有する。 専門学科以外の学生に対して細部の理解は求めないが，概念的な理解を示して欲しい。									
<b>評価方法</b> 定期試験を100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を修得とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	現代物理学		シラバスコード	6E08	担当教員	谷 太郎			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 現代物理学の基礎理論、「相対性理論」と「量子力学」のうち、相対性理論について解説する。この理論によって、時間と空間に関するそれまでの自然観が根底から覆され、また同時に、エネルギーの概念が新しく生まれ変わった。これらについて、発見者アインシュタインの思考の跡を辿りつつ学ぶ。また、現代のテクノロジー、最新の理論分野（宇宙論など）への応用について学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 「時空」の概念を獲得する。 2. 相対性理論のパラドックスについて説明することができる。 3. 「重力場」の概念を獲得する。								JABEE プログラム目標  D	
<b>学習内容</b> 1. 現代物理学概観 2. 特殊相対性理論 (1) マイケルソン・モーリーの実験と光の本性 3. 特殊相対性理論 (2) 相対性原理 4. 特殊相対性理論 (3) 同時性の崩壊、時計の遅れ、ローレンツ収縮 5. 特殊相対性理論 (4) ローレンツ変換 6. 特殊相対性理論 (5) ミンコフスキーダイアグラム 7. 特殊相対性理論 (6) 質量とエネルギー、運動方程式 8. 特殊相対性理論 (7) パラドックス (双子のパラドックス, ガレージのパラドックス) 9. 特殊相対性理論 (8) 応用 (核反応、素粒子物理学、GPSなど) 10. 一般相対性理論 (1) 等価原理と時空の歪み 11. 一般相対性理論 (2) アインシュタイン方程式 12. 一般相対性理論 (3) 応用 (宇宙論)									
<b>教材および参考図書</b> 適宜指示する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書とプリントを用いた講義形式。新しい概念に到達するプロセスを理解するよう心がけること。結果の知識を貯えることではなく、根本の考え方を身につけることを目標に取り組んでもらいたい。適宜レポート課題（宿題）を課す。									
<b>評価方法</b> 定期試験70%、レポート等30%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理演習		シラバスコード	6E09	担当教員	中尾哲也			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b>									
<p>近年、情報技術分野の発達によってあらゆる物理現象を簡単に数値解析できるようになった。本演習では、その数値解析の中でも常微分方程式、偏微分方程式について、その原理を理解し、Excelによって数値解析を行う。また、それらの数値解と解析解(厳密解)を比較することによって、数値解が近似解であることの意味を深める。また、技術的なレポート作成の方法の習得も本演習の目的である。</p>									
<b>到達目標</b>								<b>JABEE プログラム目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報処理技術(特に数値計算)に関して応用することができる。</li> <li>2. 数値解における誤差について評価することができる</li> <li>3. 科学技術系レポートを素早く作成することができる</li> </ol>								B D	
<b>学習内容</b>									
<p>第1週：Excelによる数値解析の手法について                  第2週：線形常微分方程式の解法について                  第3週：オイラー法、修正オイラー法について                  第4週：変形オイラー法について                  第5週：ルンゲクッタ法について                  第6週：高階の微分方程式への格調                  第7週：高階の微分方程式 ルンゲクッタギル法 オイラー法                  第8週：空気抵抗を含む放物運動                  第9週：振動問題解析                  第10週：演習(高階常微分方程式のまとめ)                  第11週：偏微分方程式の解法について                  第12週：差分法による解析                  第13週：クランクニコルソン法による解法                  第14週：反復法による解法                  第15週：演習(偏微分方程式のまとめ)</p>									
<b>教材および参考図書</b>									
<p>教材：配布プリントによる                  参考図書：機械系教科書シリーズ 数値計算法 藪, 伊藤共著 コロナ社                  パソコンによる数値計算 平田, 須田, 武本共著</p>									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>									
<p>配布プリントを中心に講義を行い、残りの時間は演習とする。本演習では、工学的に必要な微分・偏微分方程式を解き、理論解と数値解を比較・検討することを目的とするので、微分方程式の解き方などを復習して臨むこと。演習で行う数値解を求めるプログラムはExcelで作成する。レポートの作成には基本的にWordとExcelで行い、レポート作成方法、考察のポイント等も同時に習得するようにする。手書きは一切認めない</p>									
<b>評価方法</b>									
<p>100%レポートによる。レポートは6回提出する。                  レポートはWord文書(またはそれに準ずる文書)で、電子ファイルにて提出する。                  評価基準：60点以上を合格とする。</p>									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理I		シラバスコード	6E10	担当教員	酒井道宏			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学で現れる諸現象を記述する微分方程式が、解析的に解ける場合についてその解法を演習をもち込んで教授するとともに解の結果の考察から、数式化による諸現象の解明に対して、興味をいだかせることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 微分方程式を体系的に学習することによって、幅広い数学の知識を得る。 2. 自然現象に微分方程式を適用し、現象を解明する問題解決能力の向上を図る。 3. 適切な課題問題を解くことにより、継続的に学習できる自己学習能力の向上を図る。								JABEE プログラム目標 D	
<b>学習内容</b> 1. 変数分離形の1階常微分方程式 2. 1階線形微分方程式 3. 完全微分系 4. 1階線形微分方程式の応用例 5. 高階常微分方程式の階数降下法 6. 2階線形同次微分方程式と非同次微分方程式 7. 記号解法 8. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 1 9. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 2 10. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 3 11. 1階偏微分方程式 12. ラグランジュの偏微分方程式 13. 定数係数2階線形偏微分方程式 14. 波動方程式 15. 拡散方程式とラプラス方程式									
<b>教材および参考図書</b> 教科書 : 明解 微分方程式, 長崎憲一、横山利章、中村正彰 共著, 培風館 参考図書 : 微分方程式概論, 神保秀一著, サイエンス社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書を使用し、教科書にそって授業を進める。公式の導出や証明は省略せず説明を行い、授業の中での演習のみでは不足するため、多くの課題を与える。									
<b>評価方法</b> 筆記試験の結果を100%で評価する。 再試験を行う。評価方法は本試験の筆記試験の評価方法に同じ。 60点以上を合格とする。									

授業科目名	応用数理Ⅱ		シラバス コード	6E11	担当教員	榎崎 亮			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 数学は多くの工学系教育にとって欠かすことのできない科目である。本科目ではこれまでに学んだ平面ベクトルや空間ベクトルを抽象して一般のベクトル空間を考え、このベクトル空間の性質を学ぶことにより、抽象的概念と具体例がどのように結びつくのかを理解する。また、一般的な連立1次方程式の解法を習得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 抽象的概念が理解できる。 2. 線形写像の表現行列が求められる。 3. 連立1次方程式の解が求められる。								JABEE プログラム目標  D	
<b>学習内容</b> 1. 抽象的ベクトル空間 2. 1次結合と部分空間 3. 線形写像 4. 1次独立と1次従属 5. ベクトル空間の基底・次元 6. 基底の間の関係 7. 線形写像の行列表現 8. ランク (階数) 9. 連立1次方程式の解の存在定理 10. 連立1次方程式の解法									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：川久保勝夫 著「線形代数学」, 日本評論社 参考書：近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数1 ベクトル空間と行列式」, 数学書房 近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数2 線形写像と行列の標準化」, 数学書房									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業の進め方は講義が主である。抽象的概念の理解のためには具体的な例を用いた演習が必須であるため、授業でいくつかの例を説明するだけでなく課題レポートとして他の例にも触れてもらう。  本科目を受講するにあたって、今までに学んだ行列や行列式についての知識は前提とする。									
<b>評価方法</b> 期末試験70%, 課題レポート30%を目安として評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 なお、総合評価が40点以上60点未満のものについては、再試験を1回のみ実施する。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	量子力学		シラバスコード	6E12	担当教員	越地尚宏			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> IT産業や量子化学など、現代工学において量子力学は重要な役割を担っている。さらに「量子コンピューター」のようにミクロな世界での特異な性質を積極利用することによる飛躍的技術展開が試みられている。講義ではマクロの世界では想像できないミクロな世界での特異な振る舞いの理解から始まり、この振る舞いをどのように記述していくかという量子力学の基本的考え方から始めて、量子力学の基本体系の理解に努める。									
<b>到達目標</b> 1. 体験的に理解できるマクロな世界と異なる、特殊な性質を持つミクロな世界の現象に対する理解を深める。 2. シュレディンガー方程式による確率論的な現象記述による量子力学的現象やエネルギー準位等について理解する。 3. 上記の内容に関する基礎的な演習問題が解けるようにする。								<b>JABEE プログラム目標</b>  D	
<b>学習内容</b> 1. 光や電子にみる二面性      粒子性と波動性 2. 光の持つ粒子性              光電効果、コンプトン効果 3. 電子の持つ波動性           物質波 4. 波の数学的表現              波とは何か、三角関数を用いた表現、複素数を用いた表現 5. シュレディンガー方程式 6. ポテンシャル壁に閉じ込められた粒子 (1)      無限の高さのポテンシャル壁に閉じ込められた粒子 7. ポテンシャル壁に閉じ込められた粒子 (2)      トンネル効果      有限の高さのポテンシャル壁に閉じ込められた粒子 8. 水素原子の構造 (1)          動径方向と角度方向の解 9. 水素原子の構造 (2)          角運動量とその物理的意味 10. シュレディンガー方程式のもつ物理的意味の解釈      演算子と固有値、固有関数、不確定性原理									
<b>教材および参考図書</b> 必要に応じてプリントや資料を配付。 参考図書：初等量子力学 原島鮮 裳華房									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を主体にして、また必要に応じてその理解を深めるために積極的に演習を行う。また適宜、演示実験、ビデオ教材、コンピューターシミュレーション等を活用していく。									
<b>評価方法</b> 定期試験による評価を80パーセント、上記の演習やレポートによる評価を20パーセントとし、これらを総合的に評価する。60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。									

授業科目名	物性化学		シラバス コード	6E13	担当教員	辻 豊			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 化学の大きな柱である「化学結合論」と「化学熱力学」について物質の性質、身の回りの変化を通して学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 原子軌道、分子軌道が理解できる。 2. $\sigma$ 結合、 $\pi$ 結合が分子軌道により説明できる。 3. 電気伝導性などの物質の性質が分子軌道により理解できる。 4. 身の回りの変化が化学的に理解できる。 5. 化学変化を支配するものが理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  D	
<b>学習内容</b> 1. 原子の構造と周期表（周期表の謎） 2. 物質の性質と結合（結合の特徴） 3. 原子軌道と共有結合（炭素同素体の秘密） 4. 分子軌道入門1（導電性ポリマーの秘密） 5. 分子軌道入門2（光と物質の色） 6. 分子間力・水素結合（水の特異性） 7. 物質の三態（状態図の見方、氷はなぜすべるのか？） 8. 仕事と熱（エアコンはなぜ冷えるのか？） 9. 気体の法則（温度と圧力の関係） 10. 反応の速度（反応の速度は何によって決めるのか？） 11. 化学反応と熱の出入り（熱力学第一法則） 12. エントロピーと変化（熱力学第二法則） 13. 酸と塩基（ブレンステッドの定義と酸解離定数） 14. 酸と塩基（ルイスの定義とHSAB） 15. まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜配布します。参考図書：「ライフサイエンス基礎化学」青島 均・右田たい子著（化学同人）、「フォトサイエンス化学図録」（数研出版）、「フロンティア軌道論で化学を考える」友田修二著（講談社ライフサイエンス）、「入門化学熱力学」松永義夫著（朝倉書店）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的にチョークアンドトークにより進めて行きます。適宜スライドを用います。できるだけ日常生活の「変化」を化学的な観点から、説明して行きたいと思えます。日常の生活において「なぜ？」と感じたことがありましたら、質問してください。									
<b>評価方法</b> 成績評価は定期試験（100%）により行います。60点以上を修得とします。（選択科目なので再試は行いません。）									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	画像工学		シラバスコード	6E14	担当教員	黒木祥光			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 画像情報は単なるメディアの一つではなく、工学において、非常に重要な外部情報とみなすことが出来る。本科目では、2次元のデータであるデジタル画像と、3次元の実世界との対応関係、いわゆるコンピュータビジョンの基礎知識の習得を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 様々な射影法とカメラモデルについて説明できる。 2. 様々なカメラにおける変換群について説明できる。 3. エピポーラ幾何について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B, D	
<b>学習内容</b> 1 投影とカメラモデル 1.1 投影 1.2 無限遠と射影空間 1.3 斉次座標 1.4 透視カメラと射影カメラ 1.5 弱透視カメラとアフィンカメラ  2 視覚における不変性と対象物の認識 2.1 変換群 2.2 平面に対する不変量 2.3 平面でない対象物に対する不変量  3 エピポーラ幾何 3.1 エピポーラ幾何とは 3.2 透視カメラのエピポーラ幾何 3.3 射影カメラのエピポーラ幾何 3.4 アフィンカメラのエピポーラ幾何 3.5 並進カメラのエピポーラ幾何  4 形状復元 4.1 校正済みの射影カメラによる復元 4.2 校正済みアフィンカメラによる復元 4.3 ユークリッド復元  5 カメラの校正									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：佐藤 淳, コンピュータビジョン-視覚の幾何学- (コロナ社) 参考書：金谷健一, 画像理解-3次元認識の数理- (森北出版) 徐 剛, 辻 三郎, 3次元ビジョン (共立出版) 出口 光一郎, ロボットビジョンの基礎 (コロナ社)									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> コンピュータビジョンでは線形代数の知識が必須である。講義では出来る限り詳細かつ丁寧な説明を心掛けるので、ノートをしっかりとって欲しい。また、受講生には必要に応じて本科で学んだ線形代数の復習をお願いしたい。									
<b>評価方法</b> 定期試験100%にて評価する。再試験は定期試験と同形式とし、上限を60点とする。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理		シラバスコード	6E15	担当教員	松島 宏典			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 統計解析とグラフィックスのためのソフトウェアであり、様々なプラットフォーム上で動作させることができるR言語のプログラミング技術を、種々の数値計算方法・統計解析方法、画像処理手法と共に習得する。									
<b>到達目標</b> 1. 数値計算方法・統計解析方法について説明できる。 2. R言語によりデータマイニングができる。 3. R言語によりグラフィックス処理ができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B,D	
<b>学習内容</b> 1. Rの特徴と実行方法 2. 演算子・条件分岐・繰り返し 3. ベクトル 4. 行列 5. データフレーム 6. データマイニング 7. 確率分布 8. コホート分析 9. 回帰分析 10. 画像処理									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：プリント教材など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業は講義形式とし、演習を交えながら進めていく。適宜課題を課すものとする。R言語プログラミングは、制御情報実験室で行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験の結果80%、課題20%を目安として評価する。 60点以上を合格とし、再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	創造工学実験		シラバス コード	6E16	担当教員	橋村、田中、池田、大崎、福田、小田			
期間	前期	授業形態	実験	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行い、自主性、創造性ならびに行動力の向上を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 自主的な実験企画を行い、遂行し、結果を考察できる。 2. 成果報告書に技術報告書としてまとめることができる。 3. 成果を要約し所定の時間内に発表できる。								JABEE プログラム目標  C,E,G	
<b>学習内容</b> 1. スケジュール説明・プレゼンテーション技法指導・安全指導 2. 計画発表資料作成 3. 計画発表会 4. 実験装置図作成 5. 学外の技術者による技術指導 6. 実験装置の製作 7. 実験装置を使った実験・評価 8. 成果報告要旨作成、発表資料作成 9. 成果発表会 10. 成果報告書作成									
<b>教材および参考図書</b> 資料を配付する。 フライス盤、のこ盤、電気計測器を設置。 基本電気部品類は常備。研究者総覧、カタログ類。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 1. 入学前に各自が希望するテーマを3項目提出し、担当教員による審査後テーマを決定する。 2. 各自で装置・実験方法を企画し、計画発表会にて説明、必要があれば変更を行う。 3. その後、装置製作のための物品購入請求を行い、目的の実験を行う。 4. 専門分野についての指導は本校教職員全員が対応する。 5. 実験結果は成果発表会で要旨(A4・1枚)をもとに報告し、成果報告書(A4・8~14枚)を提出する。 6. 計画的に、自主的、積極的、創造的に行動することが大切である。									
<b>評価方法</b> テーマについて30% (独創性、難易度)、実験装置の完成度20%、報告書30% (調査量、技術文書表現力)、プレゼンテーション20% (発表手順、発表資料、発表技術、発表時間)。なお、評価が60点未満の場合、成果報告書の提出期限後一ヶ月以内に追加実験などを行い、成果報告書の再提出により、60点を限度として学年末成績評価で追認することがある。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	先端工学特論		シラバスコード	6E17	担当教員	専攻科主事補				
期間	後期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b>										
<p>本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。</p>										
<b>到達目標</b>										JABEE プログラム目標  D,F,G
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端技術、工学的・工業的諸問題、及びそれらが影響を与える社会問題等に関心をもち、工業技術者としての視野を広めることができる</li> <li>2. それぞれの専門分野の知識を基礎として、エネルギー、環境、新技術、自然科学などの問題に対して工学的に考察できる</li> <li>3. それぞれに関わる科学技術の要点を理解し、客観的な評価ができる</li> </ol>										
<b>学習内容</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送大学特別講義（ビデオ） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太陽光発電新時代</li> <li>2. レーザー核融合</li> <li>3. 大気汚染と保全</li> <li>4. 水の汚濁と浄化</li> <li>5. 廃棄物の処理とリサイクル</li> <li>6. 渇く大地・溺れる大地</li> <li>7. 色の科学（分光発色理論）</li> <li>8. 新技術による結晶構造解析</li> <li>9. 発見者が語るカーボンナノチューブ</li> <li>10. 世界最高速の計算機を創って進める科学</li> <li>11. うま味発見100年～その先端科学を探る</li> <li>12. 磁気不思議と医学応用</li> <li>13. ウェーブレットと錯視</li> <li>14. 数学で解く心の世界～計算エラーはなぜ起こるのか～</li> <li>15. 宇宙の新しい目「重力波望遠鏡」</li> </ol> </li> <li>・学内外における特別講義・特別講演等で構成</li> </ul>										
<b>教材および参考図書</b>										
先端工学特論報告集、講演会での配布資料										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>①放送大学特別講義（ビデオ）と②学内外における特別講義・特別講演等で構成されている。講演などでは福祉問題、環境問題、エネルギー問題、地域企業の先端技術、人文・社会問題、専門及び専門関連分野等の中から、自主的に興味のある学術・技術的題目を選んで聴講する。①のビデオ学習のレポートは、15回のレポートの内8編以内を受け、学生には前期授業時間割に従って15回開催を通知する。②は随時、専攻科に開催の案内をし①②とも毎回、所定の報告書を担当教員へ提出する。</p> <p>関連科目： 環境倫理学など</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>提出されたそれぞれのレポートの内容を教育目的に応じて、A；7点、B；6点、C；5点、D；4点の4段階に評価する。</p> <p>評価基準：累積点60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1・2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科研究論文		シラバスコード	6E18	担当教員	電気電子工学科・専攻科担当教員				
期間	1年通年・2年前期	授業形態	実験		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	10
<b>授業の目的</b>										
<p>物造りや研究開発などの分野で、先端技術にも対応でき、創造性のある実践的エンジニアの育成を目的として、指導教員のもとで工学分野に関わるテーマについて研究活動を行う。研究成果の一部は、学位取得のための学習成果・レポートとして、大学評価・学位授与機構へ提出する。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験などを計画・遂行し工学的に考察できる。</li> <li>2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表、討議などのコミュニケーションができる。</li> <li>3. 必要な実験や分析を企画管理できる。</li> </ol>										C,E,G
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験目的の把握</li> <li>2. 図表の作成</li> <li>3. 文献の調査</li> <li>4. 論文作成</li> <li>5. 実験計画</li> <li>6. 要約作成</li> <li>7. 実験</li> <li>8. プレゼンテーション資料の作成</li> <li>9. 実験データの整理、検討</li> <li>10. プレゼンテーションの仕方</li> <li>11. 論文の構成の検討</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
<p>関連する研究論文、特許情報、資料など</p>										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>専攻科入学直後に、提示された研究題目の研究内容概要を読み、興味ある研究テーマを選択する。指導教員の承認を得た後、基本的には一人が一つのテーマで正式に配属が決定する。この科目は2年前期まで継続して研究活動を行うが、最終的には研究論文を作成し、研究論文について口頭発表を行う。研究論文の書式および発表形式などについては別途定める。</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>主指導教員を中心とした複数の評価教員で、研究内容および研究発表評価を行う。主指導教員の成績を60%、複数の評価教官による成績を40%として、総合的に100点満点で成績評価する。60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	設計システム工学		シラバス コード	6E19	担当教員	藤田 雅俊			
期間	後期	授業形態	講義と演習	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 商品の企画・設計から製造・販売・使用までの設計のシステム（デザイン）の概要を理解すること。特に、仕様決定から詳細設計までの過程で配慮すべき事柄について講義を行い、設計能力の向上を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 産業における設計・デザインプロセスの役割を理解する 2. 日本の産業における設計・デザインの特性を理解する 3. グローバル化に向けて設計・デザインプロセスの将来性を考察できる								JABEE プログラム目標 A,B	
<b>学習内容</b> 1. 日本の産業システムにおける設計・デザインプロセスの特徴-1 2. 日本の産業システムにおける設計・デザインプロセスの特徴-2 3. 日本の産業システムにおける設計・デザインプロセスの特徴-3 4. 政策的・経済的に視た日本型設計・デザインシステムの優劣-1 5. 政策的・経済的に視た日本型設計・デザインシステムの優劣-2 6. 政策的・経済的に視た日本型設計・デザインシステムの優劣-3 7. 設計・デザインシステムにおけるコンセプトワーク-1 8. 設計・デザインシステムにおけるコンセプトワーク-2 9. 設計・デザインシステムにおけるプレゼンテーションの活用-1 10. 設計・デザインシステムにおけるプレゼンテーションの活用-2									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜資料を配付									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 設計プロセスの概説後、講義の応用として提示課題についての調査・提案・設計を各自で行う。成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションを行う									
<b>評価方法</b> プレゼンテーション40%（コンセプト20%・表現力20%）授業レポート20% 課題レポート40% 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	システム制御工学		シラバスコード	6E20	担当教員	江頭成人			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本授業においては、一般的なシステムを制御するために必要なシステム制御工学について学修する。具体的には、これまでに修得した制御工学の技術を基に、一般的な制御システムを構築する技術を修得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 制御理論をシステム制御へ摘要することができる。 2. 与えられたシステムに対して、システムを把握することができる。 3. それに適切な制御系を構築することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A	
<b>学習内容</b> 1. システム制御の考え方 2. 自動制御について 3. システム同定について 4. 現代制御理論について 5. 状態方程式と観測方程式 6. 極配置レギュレータによる制御 7. オブザーバによる状態値推定 8. 最適レギュレータによる制御 9. 最適推定 10. 最適制御									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：自動制御、柏木 編著、朝倉書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書による講義を中心とする。微分方程式、ラプラス変換および確率統計等の応用数学と、古典制御理論を十分に復習しておくこと。									
<b>評価方法</b> 定期試験を70%、課題を30%として総合評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	デジタル制御		シラバスコード	6E21	担当教員	江頭成人			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本授業においては、コンピュータ等によるデジタル制御を実現するために必要な技術について学修する。具体的には、これまでに修得したアナログ制御工学の技術を基に、コンピュータによるデジタル制御システムを構築する技術を修得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 与えられたアナログ制御システムをデジタル化することができる。 2. デジタル制御システムを構築することができる。 3. デジタル制御システムの安定性を論ずることができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A	
<b>学習内容</b> 1. デジタル制御の考え方 2. アナログ制御システムのデジタル化 3. サンプル値制御系の構成 4. サンプリングとホールド回路 5. z変換 6. パルス伝達関数とその結合 7. サンプル値制御系の特性解析 8. サンプル値制御系の特性補償と設計 9. デジタルPID制御 10. デジタル制御におけるシステム同定									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：自動制御、柏木 編著、朝倉書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書による講義を中心とする。微分方程式、ラプラス変換および確率統計等の応用数学と、古典制御理論を十分に復習しておくこと。									
<b>評価方法</b> 定期試験を70%、課題を30%として総合評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	形式言語とオートマトン		シラバスコード	6E22	担当教員	小田 幹雄			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 形式言語とオートマトンは、計算機科学を形成する基礎理論であり、情報工学の重要な科目である。本授業では、オートマトン、すなわち計算機械の数学的モデルに関して、各種モデルとその計算能力について講義する。また、形式言語は、自然言語やプログラミング言語のモデルである。オートマトンと緊密な関係にある形式言語について、形式文法による言語の生成能力について講義する。									
<b>到達目標</b> 1. 有限オートマトンについて、その機構と動作を説明できる。 2. プッシュダウンオートマトンについて、その機構と動作を説明できる。 3. チューリング機械について、その機構と動作を説明できる。 4. 正規文法、文脈自由文法、文脈依存文法、句構造文法について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B	
<b>学習内容</b> 1. オートマトン、語、言語、形式文法とは 2. 有限オートマトン 3. 非決定性有限オートマトン 4. 空動作のある非決定性有限オートマトン 5. 最簡形の有限オートマトン 6. プッシュダウンオートマトン 7. 非決定性プッシュダウンオートマトン 8. チューリング機械 9. 非決定性チューリング機械 10. 形式文法 11. 形式文法のクラスと形式言語のクラス 12. 正規文法と正規言語 13. 文脈自由文法と文脈自由言語 14. 文脈依存文法と文脈以前言語 15. 句構造文法と句構造言語									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：米田政明 監修 オートマトン・言語理論の基礎、近代科学社 補助教材：スライド、 <a href="http://www.kindaikagaku.co.jp">http://www.kindaikagaku.co.jp</a>									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿った講義を行う。講義の中で、スライドを用いたアニメーションによりオートマトンの動作を説明し、視覚的に理解を深めることも行う。また、オートマトンが受理する言語および文法により生成される言語に関する演習問題をできるだけ多く扱い、理解を深めるが、予習または復習による自学自習の機会に自ら演習問題に取り組むことを推奨する。									
<b>評価方法</b> 定期試験(80%)およびレポート(20%)により100点法で評価する。なお、レポート未提出者については評価しない。評価点が60点未満の者に対して、再試験を1回実施し、再試験(80%)、レポート(20%)により、60点を上限として評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用電磁気学		シラバスコード	6E23	担当教員	平川 靖之			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本科で電磁気学を習得した学生を対象に、より高度な電磁気学の入門として開講するもので、クーロンの法則、ガウスの法則などの基本法則から、それらの集大成であるマクスウェルの方程式までを、例題を豊富に取り上げることにより理解を深めることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. ベクトル解析の基本を理解できる。 2. 偏微分方程式を基礎とした電磁界の解法を理解できる。 3. 代表的な電磁気学の問題を映像法や仮想変位により解決することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  D	
<b>学習内容</b> 1. ベクトル解析 (積分) 2. ベクトル解析 (微分) 3. ベクトル解析 (勾配・発散・回転) 4. 真空中の導体系の静電界 (映像法の原理) 5. 真空中の導体系の静電界 (映像法演習問題) 6. 誘電体と静電界 (境界条件) 7. 磁性体 (境界条件) 8. 境界条件演習問題 9. 静電エネルギーと力 (仮想変位の原理) 10. 静電エネルギーと力 (仮想変位演習問題) 11. マクスウェル方程式 (微分形・積分形) 12. マクスウェル方程式 (波動方程式・拡散方程式) 13. マクスウェル方程式 (ポインティングベクトル) 14. マクスウェル方程式 (表皮効果) 15. マクスウェル方程式 (電磁波)									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：岡田龍雄、船木和夫 著 電気電子工学シリーズ「電磁気学」朝倉書店 参考書：前田三男 著 「電磁気学の基礎」昭晃堂 大木義路 編著 EE Text「電磁気学」オーム社 山口昌一郎著 「基礎電磁気学」電気学会									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に進めるが、例題を多めに行い、類似の演習問題を課題としてレポート提出を求める。									
<b>評価方法</b> 定期試験 (70%)、演習課題レポート (30%) を原則とし、欠課・遅刻を減点する評価法とする。 40点以上のものについては再試験を1回のみ実施する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	集積回路工学		シラバスコード	6E24	担当教員	長田芳裕			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 集積回路の製造において重要な技術であるウェハ製造技術と回路設計技術を理解する。 特に、MOS大規模集積回路(Metal Oxide Semiconductor Large Scale Integrated circuits) (MOS LSI)のウェハ製造技術と回路設計技術に関する基礎知識を修得する。									
<b>到達目標</b> 1. MOSトランジスタの動作を深く理解する。 2. アナログ回路とデジタル回路の設計技術を理解する。 3. MOS LSIの設計技術に関する基礎知識を修得する。 4. MOS LSIのウェハ製造技術を理解する。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B	
<b>学習内容</b> 1. MOS LSIの基礎 2. MOS構造の特性 3. MOSトランジスタの電気特性 4. アナログ基本回路と動作 5. デジタル基本回路と機能回路 6. MOS LSIのウェハ製造技術 7. スケーリング則 8. レイアウト設計基準 9. MOS LSIの設計技術 10. MOS LSIの設計関連技術									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：LSI工学、小谷教彦・西村正、森北出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教材を中心に講義を進める。適宜、補助教材を配付して使用する。  本科目をよく理解するためには、電気電子工学科の「半導体工学」「半導体デバイス」の知識を有することが必須である。									
<b>評価方法</b> 筆記試験（期末試験：100%）により評価する。 再試験は1回実施する（評価は最高で60点）。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	デジタル信号処理		シラバス コード	6E25	担当教員	池田 隆			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> デジタル信号処理は、今日の情報化社会を支える基本技術として必須のものである。この講義では基礎理論の修得とともに、実用的なデジタルフィルタ設計とその応用能力の確立を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. デジタル信号の基本的な特性を説明できる。 2. 簡単なデジタルフィルタを構成できる。 3. FFT及びリアルタイムシステムについて説明できる。								JABEE プログラム目標  B	
<b>学習内容</b> 1. デジタル信号処理の概要と特徴 2. 連続時間信号とシステム 3. フーリエ級数とフーリエ変換 4. 標本化 5. 離散時間信号 6. Z変換と逆Z変換 7. 差分方程式 8. デジタルフィルタ設計の基礎 9. 離散フーリエ変換と高速フーリエ変換 10. 信号処理の応用 11. DSPによるリアルタイム装置 12. 学習諸項目のまとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：デジタル信号処理 岩田 彰 コロナ社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心として、信号処理のデモンストレーションを用いながら、解説を進める。課題により、基本事項の確認と、基礎力の充実を図る。									
<b>評価方法</b> 期末試験100[%]で100点満点評価し60点以上を合格とする。 再試験は100点満点で1回行い、60点以上を合格、評価の上限は60点とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	機械工学特論		シラバスコード	6E26	担当教員	機械工学科教員			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> サマーレクチャーと銘打ち、本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義を実施する。その目的は、各高専の特徴を生かした専門特論を少人数の専攻科学生を対象に広く深く教授し、特化専門分野の高度技術の習得、今日最先端技術についての実際的技量の習得、および専攻科学生の相互交流である。									
<b>到達目標</b> 1. 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる。 2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーションができる。 3. 自主的、継続的に学習できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  D,E,G	
<b>学習内容</b> 本校機械工学科の専門教育は、機械設計、材料強度、生産工学、熱流体、計測制御などにより構成されている。本科目は、サマーレクチャーとして開催し、ある専門分野に特化した教育研究を、他高専生を含む専攻科生に講義するものである。ある専門分野の基礎と応用及び最新技術を講義するとともに、さらに理解を深めるための実験・実習、演習、工場見学などを含む。特論テーマは実施年度によって異なるが、そのテーマにそって教育プログラムが作成され、本校教員、他高専教員、大学教授、研究所・民間企業の専門家がオムニバス形式で授業を担当する。									
<b>教材および参考図書</b> 授業内容をまとめたテキスト、資料など。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義、演習、実習、実験、見学会などにより実施する。 なお、本年度は、本特論は開講しない。									
<b>評価方法</b> 各担当講師がレポート、演習課題などで評価し、それらをまとめて総合的に評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	電気電子工学特論		シラバスコード	6E27	担当教員	電気電子工学科教員・学外講師			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 電気電子情報システムのうち、半導体、電力制御、画像・音声情報処理、レーザー、プラズマ、ネットワーク、電気磁気の各分野でのセンシング技術について学習する。研究中から実用の領域までを取り上げ専攻科生として資質の向上を図る。									
<b>到達目標</b> 1. 最近の画像・音声信号処理分野に関し事例を挙げて説明することができる。 2. 最近のレーザー技術に関し事例を挙げて説明することができる。 3. 最近のプラズマ技術に関し事例を挙げて説明することができる。 4. 最近の半導体技術に関し事例を挙げて説明することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A,B	
<b>学習内容</b> 最近の研究や実用技術に関する事項をとりあげ、画像情報処理、レーザー技術、プラズマ技術、音声信号処理及び半導体技術を専門とする講師により講義する。また関連施設の見学を適宜実施する。									
<b>教材および参考図書</b> 講師配布のテキスト、資料など。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 本講義は、サマーレクチャーとして本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義として実施する。									
<b>評価方法</b> 各講師の課題レポート、演習問題などによって総合評価する。 再試験は原則実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	制御情報工学特論		シラバス コード	6E28	担当教員	制御情報工学科長他			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 平成15年度から九州高専間の特別聴講学生制度に基づく単位互換科目として、サマーレクチャーと銘打ち、本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義を実施している。その目的は、各高専の特徴を活かした専門特論を少人数の専攻科学生を対象に広く深く教授し、特化専門分野の高度技術の修得、今日最先端技術についての実際的技量の修得、および専攻科学生の相互交流である。									
<b>到達目標</b> 1. 該当する分野の専門技術に関する知識を修得し、それらの問題解決に応用できる能力を養う 2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を養う 3. 自主的、継続的に学習できる能力を養う								<b>JABEE プログラム目標</b>  D,G,E	
<b>学習内容</b> 本講義では、画像処理やサーボ機構など、制御情報工学に関するテーマを設定し、基礎原理から産業界における実際について学ぶ。また、テーマに即した実習、施設見学も実施する。最先端の技術を含む高度な講義にするため、講師は他の教育機関、企業からも招聘する。									
<b>教材および参考図書</b> 授業内容をまとめたテキスト、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義、演習、実習、実験、見学会などにより実施される。 平成22年度は実施しない。									
<b>評価方法</b> 各担当講師がレポート、演習課題などを評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	工学倫理		シラバスコード	7E02	担当教員	東島光雄			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 技術者倫理に関する事例研究の学習を通して、技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を身に付ける。									
<b>到達目標</b> 1. 技術者倫理に関する様々な事例を理解する。 2. 事例が意味することの分析の仕方を理解する。 3. 技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を自覚する能力を身に付ける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  F	
<b>学習内容</b> 1. 技術者倫理とは 2. 専門家の責任（チャレンジャー号事故ビデオ） 3. 安全と設計（日航ジャンボ機墜落事故） 4. 消費者を守る責任（雪印乳業集団食中毒事件） 5. 製造物責任 6. 知的財産権 7. 倫理規定 8. 人々の安全が優先 9. 内部告発の条件 10. 専門家の責任									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：新はじめての工学倫理、齋藤了文他。昭和堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 事例研究をメインとする。 適宜ビデオ学習を併用する。 「事件事例を集めたHP」から事例を調べてレポート提出を課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般Ⅱ		シラバス コード	7E03	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理III		シラバスコード	7E04	担当教員	菺田智恵子			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> ベクトル場の微分積分であるベクトル解析を学ぶ。ベクトル解析は工学、理学で重要な道具であるため、理論の習得はもちろんの事、計算が出来るようになる事を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 線積分、面積分の理解及び計算ができるようになる。 2. ベクトル場、接空間、余接空間、微分形式を知識として得る。 3. 様々な数学書をあたり、疑問点を自分で調べ事が出来るようになる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  D	
<b>学習内容</b> 1. ベクトルの復習 2. ベクトルの微分 3. スカラー場とベクトル場 4. 勾配・発散・回転 5. 線積分の定義 6. グリーンの定理 7. 面積分の定義 8. ガウスの定理 9. ストークスの定理 10. 微分形式入門									
<b>教材および参考図書</b> 教科書は特に指定しない。しかし、授業中に、参考書は何冊か紹介する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 標準的なベクトル解析の参考書に沿って講義します。説明が中心となりますが、受講者の理解度に応じて、問題演習の時間を設けます。講義で解らないところは質問してもらおう事が第一ですが、図書館などでベクトル解析の本を読んで、自分で解決する事も希望します。									
<b>評価方法</b> 総合点で100点満点で60点以上を合格とする。筆記試験の点数をA(100点満点)、授業中に行う演習とレポート課題による評価をB(50点満点)としたとき、 $(\text{評価点}) = A + (1 - 0.01A)B$ とする。 評価点が60点に満たないものに対しては再試験を行う。ただし、再試験による評価点の上限は60点とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	統計力学及び熱力学		シラバスコード	7E05	担当教員	越地尚宏			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 微視的世界と巨視的世界を結びつける橋としての統計力学・熱力学の基礎を学び、比熱や内部エネルギー、エントロピーの概念を学び、これらの巨視的な特徴を分子論的に導く									
<b>到達目標</b> 1. 物質の熱的性質を理解し、必要に応じて、解析と応用ができるようになる。 2. マクロな熱的性質の起源を分子論的見地から理解する 3. 上記の内容に関連した基礎的な演習問題が解けるようにする。								<b>JABEE プログラム目標</b>  D	
<b>学習内容</b> 1. 熱力学の基礎 2. 熱力学の第1法則 3. 仕事とエネルギー 4. エネルギー保存則と仕事の原理 5. 熱力学の第2法則 6. 熱力学からみたエントロピー 7. 統計力学の考え方 8. 統計力学からみたエントロピー 9. 統計力学と熱力学の融合 10. 比熱についてミクロおよびマクロな視点から考える									
<b>教材および参考図書</b> 熱・統計力学 岩波書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を主体にして、また必要に応じてその理解を深めるために積極的に演習を行う。また適宜、演示実験、ビデオ教材、コンピューターシミュレーション等を活用していく。									
<b>評価方法</b> 定期試験による評価を80パーセント、上記の演習やレポートによる評価を20パーセントとし、これらを総合的に評価する。60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門 I		シラバス コード	7E06	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 専門知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論専門 I として認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門Ⅱ		シラバス コード	7E07	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，専門知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論専門Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	技術英語		シラバス コード	7E08	担当教員	平川 靖之				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b>										
英語の長文を短時間で読み下し、その概略を把握して、他人に説明する能力を養うことは重要である。本講義は、長文の要約およびその内容に関する説明を行う能力を身につけることを目的とする。										
<b>到達目標</b>										JABEE プログラム目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数式やグラフを英語で説明することができる。</li> <li>2. 論文等の技術英語に使われる慣用表現を理解することができる。</li> <li>3. 英語で手紙やメールを書くことができる。</li> <li>4. 英語の長文を要約し、説明することができる。</li> </ol>										E
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学技術英語の基本的な表現 (物体の形状)</li> <li>2. 科学技術英語の基本的な表現 (物体の位置・運動・方向)</li> <li>3. 科学技術英語の基本的な表現 (数字と数量)</li> <li>4. 科学技術英語の基本的な表現 (数学記号・数式)</li> <li>5. 科学技術英語の基本的な表現 (数学・物理)</li> <li>6. 科学技術英語の基本的な表現 (グラフ)</li> <li>7. 手紙やメールの基本的な構成、表現方法</li> <li>8. 英語手紙の演習</li> <li>9. 英語メールの演習</li> <li>10. 英語論文の基本的な構成</li> <li>11. 英文輪読 1 (英文音読後、和訳・解説)</li> <li>12. 英文輪読 2 (英文音読後、和訳・解説)</li> <li>13. 英文輪読 3 (英文音読後、和訳・解説)</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
教科書：多田旭男 他共著「アクティブ科学英語」三共出版 その他、適宜プリント配布										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
前半は、教科書を用いて、科学技術英語の基礎と手紙・メールの書き方を学習する。メールについては、実際に英語でメール送信する課題を行う。 後半は、プリントで配布する技術英語の長文をゼミ形式の輪読で行う。輪読時には、英文の和訳、内容の説明ができるように、予習を十分に行っておく必要がある。										
<b>評価方法</b>										
定期試験 (60%)、輪読・課題レポート (40%) を原則とし、欠課・遅刻を減点する評価法とする。 再試験は実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科インターンシップ	シラバスコード	7E09	担当教員	専攻科主事及び担当教員				
期間	後期	授業形態	実習	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	7
<b>授業の目的</b> 本学科と専攻科で学んだ工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを、企業等における長期インターンシップで経験し、実践的技術者としての資質を高めることを目的とする。本科目は、本学科と専攻科の最終科目であり、各学生は企業からの評価を受け、その結果を参考にして、学生の自己啓発および専攻科の教育改善を促す。									
<b>到達目標</b> 1. 技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任が理解できる 2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる 3. 該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる 4. 日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを通してコミュニケーションを図ることができる 5. 自主的、継続的に学習することができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  G,E	
<b>学習内容</b> 専攻科2年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務を行う。予めインターンシップ担当教官が引き受け実施機関の用意しているプログラムを検討・調整しておき、そのプログラムに従って実習する。主な内容は、下記のものとする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械部品などの組み立て・製作</li> <li>2. 設計・製図・図面の修正</li> <li>3. 制御回路の組み立て・修理</li> <li>4. 操作説明書の作成</li> <li>5. CADによる図面作成</li> <li>6. グラフィックスの作成</li> <li>7. 穴あけ・切削・溶接などの加工</li> <li>8. 実験・試験・測定・データ整理</li> <li>9. ワード・エクセルによる文書作成</li> <li>10. 製品の品質検査</li> <li>11. 計算プログラム作成</li> <li>12. 報告書及び最終報告書の作成</li> <li>13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表</li> </ol>									
<b>教材および参考図書</b> 実習内容に関連する文献、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> インターンシップ受け入れ機関を提示し、その中から、担当教官と学生が相談の上、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は10月中旬から2月上旬までの間で、期間は2ヶ月以上4ヶ月以内、企業あるいは研究機関などにおいて実際の業務に従事する。ただし、12月中旬の大学評価・学位授与機高の試験期間1週間は除く。担当教官は、時折、実施機関を訪問し、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、一ヶ月ごとに報告書を担当教官に提出する。インターンシップ終了後直ちに、学生は最終報告書および実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。									
<b>評価方法</b> 複数のインターンシップ関連教員により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	メカトロニクス工学		シラバスコード	7E10	担当教員	綾部 隆			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> メカトロ機器のアクチュエータに関する基礎知識を修得すると共に、機械・電気系のモデリング、モータの選定法、位置決め制御系の設計に関する基礎的な能力を身につける。									
<b>到達目標</b> 1. 機械・電気系のモデリングの基礎能力を身につける。 2. モータの選定ができる。 3. 位置決め制御系の設計法を理解する。								JABEE プログラム目標  A	
<b>学習内容</b> 1. 代表的なセンサ(1) 2. 代表的なセンサ(2) 3. アクチュエータの分類と特徴 4. DCモータの駆動回路 5. DCサーボモータの各種制御法と指令方式 6. サーボシステムの構成 7. ステッピングモータ 8. DCサーボモータ, およびDCサーボモータで駆動された機械系のモデリング(1) 9. DCサーボモータ, およびDCサーボモータで駆動された機械系のモデリング(2) 10. モータ軸からみた機械系の等価慣性モーメントと等価負荷トルクの計算法(1) 11. モータ軸からみた機械系の等価慣性モーメントと等価負荷トルクの計算法(2) 12. DCモータの所要トルク計算とモータの選定法 13. DCモータの所要トルク計算とモータの選定法 14. 位置決め制御系の簡易設計法									
<b>教材および参考図書</b> 教材プリント, ノート講義									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> ノート講義およびプリントを配布する。機械, 電気電子, 制御情報各コースの学生を対象としているので本科で学んだことの復習を行うと共に、他分野の基礎知識を修得させる。モータの選定法については実際に演習を行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験で評価する。100点法で60点以上の場合、上記の目標を達成したものとする。60点に満たない場合には再試を受けられるが、再試の成績が60点以上の場合、60点として評価する。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	光エレクトロニクス		シラバスコード	7E11	担当教員	平川 靖之			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> レーザは、光通信や溶接などの物質加工、医療分野など、幅広く応用されている。この講義では、光・レーザの基本的な事柄から、光通信などの情動的な応用、加工などのエネルギー応用、計測応用について、広く学ぶことを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. レーザ光の特徴を説明することができる。 2. レーザの原理と種類を説明することができる。 3. ガウスビームとその伝搬を説明することができる。 4. レーザ光の応用について幾つか例を挙げ、説明することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B	
<b>学習内容</b> 1. 光エレクトロニクス概要（歴史、レーザ光の特徴） 2. 光波の基本的性質（平面波、偏光、屈折、回折） 3. 光ビームの伝搬と制御（ガウスビーム） 4. 光ビームの伝搬と制御（光ファイバ） 5. 光ビームの伝搬と制御（光共振器） 6. 光増幅器とレーザ（エネルギー準位） 7. 光増幅器とレーザ（光の吸収と放出） 8. 光増幅器とレーザ（光の増幅） 9. 光増幅器とレーザ（レーザ発振） 10. 光増幅器とレーザ（レーザの動作特性） 11. 光増幅器とレーザ（各種レーザ） 12. 光通信システム 13. 光メモリ 14. レーザエネルギー応用 15. レーザセンシング応用									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：岡田龍雄編著 EE Text「光エレクトロニクス」オーム社 参考書：前田三男著 「量子エレクトロニクス」昭晃堂 多田邦雄、神谷武志共訳、A. Yariv著「光エレクトロニクスの基礎」丸善 西原 浩、裏 升吾共著 「光エレクトロニクス入門」コロナ社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に進める。必要に応じて、プロジェクタを使った形式の講義や、装置等の実物を見てもらう。また、講義内容に即したレポート提出を求めることもある。									
<b>評価方法</b> 定期試験（70%）、課題レポート（30%）を原則とし、欠課・遅刻を減点する評価法とする。 40点以上のものについては再試験を1回のみ実施する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

電気電子工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	プラズマ工学		シラバスコード	7E12	担当教員	宮崎 浩一			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> プラズマを用いたエッチング、薄膜形成、表面改質などは、半導体産業や真空技術に大きなインパクトを与えている。今後、応用に適したプラズマを巧みに生成・制御することが期待されている。本講義では、このようなプラズマの状態を数学的に記述してその挙動を理解し、プラズマを利用する上で必要な基礎を習得する。									
<b>到達目標</b> 1. プラズマを特徴づける量について計算できる。 2. 電子やイオンの運動方程式や流体方程式によりプラズマで起こる現象を説明できる。 3. 放電プラズマの特性や計測法について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A	
<b>学習内容</b> 1. プラズマとは何か 2. プラズマの基本的性質 3. 気体分子の速度分布 4. 衝突断面積と平均自由行程 5. プラズマ中の粒子の反応過程 6. プラズマ状態の特徴 7. 一様な直流電磁界中における荷電粒子の運動 8. 不均一な直流磁界中における荷電粒子の運動 9. 電子およびイオンの流体方程式 10. プラズマ中の荷電粒子の電界駆動と拡散 11. プラズマ中の波動現象 12. プラズマにおける電磁波現象 13. 低気圧放電における電子温度とイオン温度 14. プラズマの応用 15. プラズマ計測									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：赤崎正則・村岡克紀・渡辺征夫・蛭原健治共著、プラズマ工学の基礎、産業図書 参考書：高村秀一，プラズマ理工学入門，森北出版 M. A. Lieberman著，佐藤久明訳，プラズマ／プロセスの原理，EDリサーチ社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書やプリントを用いて講義を行う。毎回理解度を確認するために演習問題などの課題を与え、次の授業日の2日前までに提出、次の授業の最初に学生自身に解答してもらう。  関連科目：電気磁気学、気体電子工学、高電圧工学									
<b>評価方法</b> 定期試験80%、課題レポート20%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行い、100点満点で60点以上を60点とする。 評価基準：60点以上を合格とする。									

# ■ 授業科目

## 制御情報工学コース

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語 I		シラバス コード	6S01	担当教員	福田 かつる			
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 実践的な場面で多用される英文法の重要項目を確認し、さらに語彙力の強化を図ることによって、英語のコミュニケーション能力を向上させる。									
<b>到達目標</b> 1. 英文法の要点を復習し、正しい知識を定着させる。 2. ビジネスの場で使用される基本的な語彙や慣用表現を習得する。 3. TOEICで400点以上取得できるよう、英語の理解力を向上させる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  E-2	
<b>学習内容</b> 1. 時制 2. 仮定法 3. 受動態 4. 関係詞 5. 分詞 6. 助動詞 7. 主語と動詞の一致 8. 不定詞・動名詞 9. 比較 10. 形容詞・副詞 11. 名詞・冠詞 12. 接続詞 13. 否定 14. 模擬テスト(1) 15. 模擬テスト(2)									
<b>教材および参考図書</b> ESSENTIAL GRAMMAR FOR THE TOEIC TEST マクミラン・ランゲージハウス									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って、1回に1ユニットずつ進める。まず、文法事項の要点を説明し、確認するための演習問題を行う。必要に応じて、文法問題、語彙問題、リスニング問題を加える。									
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は実施しないが、定期試験の得点が60点に満たなかった学生が後日TOEICを受験して400点以上のスコアを提示した場合、成績を60点に修正し、合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅱ		シラバスコード	6S02	担当教員	福田 かおる			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 世界中から発信された健康・環境関連の英文ニュースを読むことによって、科学技術に関連した時事英語の理解力を養成する。									
<b>到達目標</b> 1. ニュース英語の読解力を養成する。 2. 環境や社会事象に関連した語彙を強化する。 3. 世界情勢や環境問題について理解を深める。								<b>JABEE プログラム目標</b>  E-2	
<b>学習内容</b> TOPIC 1. Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them 2. "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source 3. Offices Use Ice to Cool Down and Save Power 4. Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's 5. Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property 6. College Students Feel Better after Screaming Together 7. Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers 8. Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales 9. Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water 10. Aboriginies Still Rely on Bush Medicines for Remedies 11. African Farmers Seek Ways to Survive Droughts 12. Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health 13. Rising Seas May Force Island Nations Evacuate 14. Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating 15. Planned Chinese City Wants All Eco-Friendly Power									
<b>教材および参考図書</b> Heling Our World: Today's Helath and Environment News 南雲堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って毎回1Unit学習する。速読に自信のない学生は、予めReading部分を読んで、要点を把握するためのStep1, Step2の答えを考えてくることが求められる。読解の際は、前期に学習した文法事項が活用できるはずである。授業ではニュースの内容を確認した後、TOEIC形式の問題と、英作文問題を行う。語彙の定着とリスニング力強化のために、随時単語の確認問題をリスニング形式で実施する。									
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は1回のみ実施する。但し、試験の成績がクラスの平均より20点以上低い学生は、再試を受験できない。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	環境倫理学		シラバスコード	6S03	担当教員	東島光雄			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 環境倫理学は自然と人間の共生を求める。 この時自然の価値をいかに認識するかがカギとなる。 環境倫理学の目的は、人間中心の環境・自然の価値の理解から、生態系中心の環境・自然の価値の理解への転換である。									
<b>到達目標</b> 1. 環境倫理学の基本主張を学ぶ。 2. 自然の内在的価値を学ぶ。 3. 一般の生活者として、また将来の技術者として、自分の活動が環境・自然とどのような関係にあるかを認識する能力を身につける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 1. 環境倫理学とは何か 2. 環境倫理学の三つの基本主張 3. 足尾鋇毒事件と水俣病 4. 資源の枯渇と環境破壊 5. 自然の権利 6. 世代間倫理 7. 土地倫理 8. 生物多様性保護の倫理 9. 自然保護のめざすもの 10. 人間中心主義から人間非中心主義へ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：なし 参考図書：環境と倫理、加藤尚武編、有斐閣									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的に講義の形で授業を行う。 適宜ビデオ学習を併用する。 企業の「環境報告書」について調査レポートを課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業デザイン演習		シラバス コード	6S04	担当教員	藤田 雅俊			
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 商品企画から商品サーベイ、商品研究、市場化を踏まえた実際の商品化提案までのプロセスをグループ単位での演習により修得する。社会的に要求される商品を自ら求め、そのニーズに相応しい商品を技術解析、情報収集を基にして具体化する。グループでの作業により、計画的、継続的に仕事を進める責任感を養い、最終的なプレゼンテーションでの資料のまとめ方、口頭発表能力、コミュニケーション能力を高める。									
<b>到達目標</b> 1. 商品の企画から最終デザインまでのプロセスの理解・習得 2. グループワークによるメンバー同士のコミュニケーション能力の習得 3. 自らの企画を効果的に伝達するプレゼンテーション能力の習得 4. 自律的・計画的に作業を推敲する能力の習得 5. アイデアを具現化する創造力と編集力の習得								JABEE プログラム目標 D,F-1	
<b>学習内容</b> 第1週；オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス） 第2週；商品企画対象の選定 第3週；商品化プロセス調査1 第4週；商品化プロセス調査2 第5週；商品化プロセス調査3（発表） 第6週；商品化企画演習1（要素技術の調査） 第7週；商品化企画演習2 第8週；商品化企画演習3（中間発表） 第9週；商品化企画演習4 第10週；商品化企画演習5 第11週；商品化企画演習6 第12週；プレゼンテーション1 第13週；プレゼンテーション2 第14週；講評及び評価 第15週；課題レポート									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜資料を配付									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業における商品デザインの講義、商品提案スタディ、テーマレポートを総合的に行う。企画の提案・プレゼンテーション評価には地域企業・公設機関の方に参加してもらう。									
<b>評価方法</b> 商品化プロセス調査20% 演習課題50%（外部評価・相互評価を含む） 課題レポート30% 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業財産権特論		シラバスコード	6S05	担当教員	伊藤義文・梶原克彦・大段恭二				
期間	前期	授業形態	講義と演習		必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b>										
専攻科1年の必修科目である「創造工学実験」と同時開講し、「実験」成果から発明を発掘し、展開し、明細書という模擬出願書類に取りまとめる。また、産業財産権制度に関する知識の習得や、インターネットでの技術情報の検索方法を同時に学習することで、特許制度に明るい実践的な人材を育成する。										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業財産権制度の基礎知識の習得</li> <li>2. インターネットによる特許検索能力の育成</li> <li>3. 特許出願書類の作成能力の育成</li> </ol>										A-2
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入コースー1</li> <li>2. 導入コースー2</li> <li>3. 基礎コースー1 + 「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>4. 基礎コースー2 + 「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>5. 産業財産権の調査方法 + 「インターネットによる技術情報検索演習」</li> <li>6. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」</li> <li>7. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」</li> <li>8. 基礎コースー3</li> <li>9. 基礎コースー4</li> <li>10. 実践コースー1</li> <li>11. 実践コースー2</li> <li>12. 明細書の書き方指導ー1</li> <li>13. 明細書の書き方指導ー2</li> <li>14. 明細書の書き方指導ー3</li> <li>15. 発明報告会</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
教材：産業財産権標準テキスト(特許庁)・・・無償配布										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
特許庁の産業財産権標準テキストに従い、産業財産権に関する講義と、創造工学実験でのアイデアを模擬出願書類にまとめる演習の2本立てで行う。										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義：産業財産権指導カリキュラムに従って講義し、毎回小テストを実施して理解度を深める。</li> <li>2. インターネットによる技術情報検索、パテントマップの作成は、外部講師を招聘して行う。</li> <li>3. 明細書の書き方指導は、外部講師(弁理士)を招聘して行う。</li> <li>4. 発明報告会は、担当教官、各学科の創造工学実験担当教官、外部講師に出席して貰い、評価を行う。</li> <li>5. 優秀特許は特許庁のpatentコンテストに応募する。</li> </ol>										
<b>評価方法</b>										
小テスト30点、定期テスト30点、発明演習40点で合計100点満点とし、60点以上を合格とする。再試験は実施しない。										



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般 I		シラバス コード	6S06	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般 I として認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	地球環境と現代生物学		シラバスコード	6S07	担当教員	中 蔦 裕 之			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年、環境問題を地球レベルで理解することが重要となっている。本講義では、様々な地球環境問題を生物学的立場から理解することを目的とする。また、バイオテクノロジーが地球環境の修復や持続的発展の可能な社会作りによどのように利用されているかについて学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 地球環境やエネルギー問題の現状について理解できる。 2. 環境修復や環境維持におけるバイオテクノロジーの役割を理解できる。 3. 実際の産業へどのように応用されているかを理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1 B-1	
<b>学習内容</b> 1. 地球環境の現状（環境問題， エネルギー問題） 2. 未来のエネルギー 3. エアロゾルⅠ 無機エアロゾル 4. エアロゾルⅡ 無機エアロゾルの成分 5. エアロゾルⅢ バイオエアロゾルとハウスダスト 6. エアロゾルⅣ バイオエアロゾルの地球規模の移動 7. エアロゾルⅤ 黄砂発生源におけるバイオエアロゾル拡散 8. 海洋環境Ⅰ 赤潮 9. 海洋環境Ⅱ 富栄養化 10. 海洋環境Ⅲ 水の華 11. 身近な有害有毒物質 12. 環境におけるバイオテクノロジーⅠ バイオレメディエーション 13. 環境におけるバイオテクノロジーⅡ 遺伝子工学 14. 特殊環境に棲息する生物Ⅰ 好アルカリ性微生物 15. 特殊環境に棲息する生物Ⅱ 好熱性微生物									
<b>教材および参考図書</b> 教材：単元ごとに作成したプリントを使用する。 参考図書： 今中利信他著，環境・エネルギー・健康20講，化学同人 清水達雄他著，微生物と環境保全（地球環境サイエンスシリーズ⑨），三共出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に行う。 地球環境を生物学的視点から講義するため，かなりの専門知識を有する。 専門学科以外の学生に対して細部の理解は求めないが，概念的な理解を示して欲しい。									
<b>評価方法</b> 定期試験を100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を修得とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	現代物理学		シラバスコード	6S08	担当教員	谷 太郎			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 現代物理学の基礎理論、「相対性理論」と「量子力学」のうち、相対性理論について解説する。この理論によって、時間と空間に関するそれまでの自然観が根底から覆され、また同時に、エネルギーの概念が新しく生まれ変わった。これらについて、発見者アインシュタインの思考の跡を辿りつつ学ぶ。また、現代のテクノロジー、最新の理論分野（宇宙論など）への応用について学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 「時空」の概念を獲得する。 2. 相対性理論のパラドックスについて説明することができる。 3. 「重力場」の概念を獲得する。								JABEE プログラム目標  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 現代物理学概観 2. 特殊相対性理論 (1) マイケルソン・モーリーの実験と光の本性 3. 特殊相対性理論 (2) 相対性原理 4. 特殊相対性理論 (3) 同時性の崩壊、時計の遅れ、ローレンツ収縮 5. 特殊相対性理論 (4) ローレンツ変換 6. 特殊相対性理論 (5) ミンコフスキーダイアグラム 7. 特殊相対性理論 (6) 質量とエネルギー、運動方程式 8. 特殊相対性理論 (7) パラドックス (双子のパラドックス, ガレージのパラドックス) 9. 特殊相対性理論 (8) 応用 (核反応、素粒子物理学、GPSなど) 10. 一般相対性理論 (1) 等価原理と時空の歪み 11. 一般相対性理論 (2) アインシュタイン方程式 12. 一般相対性理論 (3) 応用 (宇宙論)									
<b>教材および参考図書</b> 適宜指示する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書とプリントを用いた講義形式。新しい概念に到達するプロセスを理解するよう心がけること。結果の知識を貯えることではなく、根本の考え方を身につけることを目標に取り組んでもらいたい。適宜レポート課題（宿題）を課す。									
<b>評価方法</b> 定期試験70%、レポート等30%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理演習		シラバスコード	6S09	担当教員	中尾哲也			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年、情報技術分野の発達によってあらゆる物理現象を簡単に数値解析できるようになった。本演習では、その数値解析の中でも常微分方程式、偏微分方程式について、その原理を理解し、Excelによって数値解析を行う。また、それらの数値解と解析解(厳密解)を比較することによって、数値解が近似解であることの意味を深める。また、技術的なレポート作成の方法の習得も本演習の目的である。									
<b>到達目標</b> 1. 情報処理技術(特に数値計算)に関して応用することができる。 2. 数値解における誤差について評価することができる 3. 科学技術系レポートを素早く作成することができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 第1週：Excelによる数値解析の手法について 第2週：線形常微分方程式の解法について 第3週：オイラー法、修正オイラー法について 第4週：変形オイラー法について 第5週：ルンゲクッタ法について 第6週：高階の微分方程式への格調 第7週：高階の微分方程式 ルンゲクッタギル法 オイラー法 第8週：空気抵抗を含む放物運動 第9週：振動問題解析 第10週：演習(高階常微分方程式のまとめ) 第11週：偏微分方程式の解法について 第12週：差分法による解析 第13週：クランクニコルソン法による解法 第14週：反復法による解法 第15週：演習(偏微分方程式のまとめ)									
<b>教材および参考図書</b> 教材：配布プリントによる 参考図書：機械系教科書シリーズ 数値計算法 藪, 伊藤共著 コロナ社 パソコンによる数値計算 平田, 須田, 武本共著									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 配布プリントを中心に講義を行い、残りの時間は演習とする。本演習では、工学的に必要な微分・偏微分方程式を解き、理論解と数値解を比較・検討することを目的とするので、微分方程式の解き方などを復習して臨むこと。演習で行う数値解を求めるプログラムはExcelで作成する。レポートの作成には基本的にWordとExcelで行い、レポート作成方法、考察のポイント等も同時に習得するようにする。手書きは一切認めない									
<b>評価方法</b> 100%レポートによる。レポートは6回提出する。 レポートはWord文書(またはそれに準ずる文書)で、電子ファイルにて提出する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理I		シラバスコード	6S10	担当教員	酒井道宏			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学で現れる諸現象を記述する微分方程式が、解析的に解ける場合についてその解法を演習をもち込んで教授するとともに解の結果の考察から、数式化による諸現象の解明に対して、興味をいだかせることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 微分方程式を体系的に学習することによって、幅広い数学の知識を得る。 2. 自然現象に微分方程式を適用し、現象を解明する問題解決能力の向上を図る。 3. 適切な課題問題を解くことにより、継続的に学習できる自己学習能力の向上を図る。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 変数分離形の1階常微分方程式 2. 1階線形微分方程式 3. 完全微分系 4. 1階線形微分方程式の応用例 5. 高階常微分方程式の階数降下法 6. 2階線形同次微分方程式と非同次微分方程式 7. 記号解法 8. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 1 9. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 2 10. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 3 11. 1階偏微分方程式 12. ラグランジュの偏微分方程式 13. 定数係数2階線形偏微分方程式 14. 波動方程式 15. 拡散方程式とラプラス方程式									
<b>教材および参考図書</b> 教科書 : 明解 微分方程式, 長崎憲一、横山利章、中村正彰 共著, 培風館 参考図書 : 微分方程式概論, 神保秀一著, サイエンス社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書を使用し、教科書にそって授業を進める。公式の導出や証明は省略せず説明を行い、授業の中での演習のみでは不足するため、多くの課題を与える。									
<b>評価方法</b> 筆記試験の結果を100%で評価する。 再試験を行う。評価方法は本試験の筆記試験の評価方法に同じ。 60点以上を合格とする。									

授業科目名	応用数理Ⅱ		シラバス コード	6S11	担当教員	榎崎 亮			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 数学は多くの工学系教育にとって欠かすことのできない科目である。本科目ではこれまでに学んだ平面ベクトルや空間ベクトルを抽象して一般のベクトル空間を考え、このベクトル空間の性質を学ぶことにより、抽象的概念と具体例がどのように結びつくのかを理解する。また、一般的な連立1次方程式の解法を習得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 抽象的概念が理解できる。 2. 線形写像の表現行列が求められる。 3. 連立1次方程式の解が求められる。								JABEE プログラム目標  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 抽象的ベクトル空間 2. 1次結合と部分空間 3. 線形写像 4. 1次独立と1次従属 5. ベクトル空間の基底・次元 6. 基底の間の関係 7. 線形写像の行列表現 8. ランク (階数) 9. 連立1次方程式の解の存在定理 10. 連立1次方程式の解法									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：川久保勝夫 著「線形代数学」, 日本評論社 参考書：近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数1 ベクトル空間と行列式」, 数学書房 近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数2 線形写像と行列の標準化」, 数学書房									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業の進め方は講義が主である。抽象的概念の理解のためには具体的な例を用いた演習が必須であるため、授業でいくつかの例を説明するだけでなく課題レポートとして他の例にも触れてもらう。  本科目を受講するにあたって、今までに学んだ行列や行列式についての知識は前提とする。									
<b>評価方法</b> 期末試験70%, 課題レポート30%を目安として評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 なお、総合評価が40点以上60点未満のものについては、再試験を1回のみ実施する。									



授業科目名	物性化学		シラバスコード	6S13	担当教員	辻 豊			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 化学の大きな柱である「化学結合論」と「化学熱力学」について物質の性質、身の回りの変化を通して学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 原子軌道、分子軌道が理解できる。 2. $\sigma$ 結合、 $\pi$ 結合が分子軌道により説明できる。 3. 電気伝導性などの物質の性質が分子軌道により理解できる。 4. 身の回りの変化が化学的に理解できる。 5. 化学変化を支配するものが理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 原子の構造と周期表（周期表の謎） 2. 物質の性質と結合（結合の特徴） 3. 原子軌道と共有結合（炭素同素体の秘密） 4. 分子軌道入門1（導電性ポリマーの秘密） 5. 分子軌道入門2（光と物質の色） 6. 分子間力・水素結合（水の特異性） 7. 物質の三態（状態図の見方、氷はなぜすべるのか？） 8. 仕事と熱（エアコンはなぜ冷えるのか？） 9. 気体の法則（温度と圧力の関係） 10. 反応の速度（反応の速度は何によって決めるのか？） 11. 化学反応と熱の出入り（熱力学第一法則） 12. エントロピーと変化（熱力学第二法則） 13. 酸と塩基（ブレンステッドの定義と酸解離定数） 14. 酸と塩基（ルイスの定義とHSAB） 15. まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜配布します。参考図書：「ライフサイエンス基礎化学」青島 均・右田たい子著（化学同人）、「フォトサイエンス化学図録」（数研出版）、「フロンティア軌道論で化学を考える」友田修二著（講談社ライフサイエンス）、「入門化学熱力学」松永義夫著（朝倉書店）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的にチョークアンドトークにより進めて行きます。適宜スライドを用います。できるだけ日常生活の「変化」を化学的な観点から、説明して行きたいと思えます。日常の生活において「なぜ？」と感じたことがありましたら、質問してください。									
<b>評価方法</b> 成績評価は定期試験（100%）により行います。60点以上を修得とします。（選択科目なので再試は行いません。）									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	画像工学		シラバスコード	6S14	担当教員	黒木祥光			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 画像情報は単なるメディアの一つではなく、工学において、非常に重要な外部情報とみなすことが出来る。本科目では、2次元のデータであるデジタル画像と、3次元の実世界との対応関係、いわゆるコンピュータビジョンの基礎知識の習得を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 様々な射影法とカメラモデルについて説明できる。 2. 様々なカメラにおける変換群について説明できる。 3. エピポーラ幾何について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1 投影とカメラモデル 1.1 投影 1.2 無限遠と射影空間 1.3 斉次座標 1.4 透視カメラと射影カメラ 1.5 弱透視カメラとアフィンカメラ 2 視覚における不変性と対象物の認識 2.1 変換群 2.2 平面に対する不変量 2.3 平面でない対象物に対する不変量 3 エピポーラ幾何 3.1 エピポーラ幾何とは 3.2 透視カメラのエピポーラ幾何 3.3 射影カメラのエピポーラ幾何 3.4 アフィンカメラのエピポーラ幾何 3.5 並進カメラのエピポーラ幾何 4 形状復元 4.1 校正済みの射影カメラによる復元 4.2 校正済みアフィンカメラによる復元 4.3 ユークリッド復元 5 カメラの校正									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：佐藤 淳，コンピュータビジョン-視覚の幾何学-（コロナ社） 参考書：金谷健一，画像理解-3次元認識の数理-（森北出版） 徐 剛，辻 三郎，3次元ビジョン（共立出版） 出口 光一郎，ロボットビジョンの基礎（コロナ社）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> コンピュータビジョンでは線形代数の知識が必須である。講義では出来る限り詳細かつ丁寧な説明を心掛けるので、ノートをしっかりとして欲しい。また、受講生には必要に応じて本科で学んだ線形代数の復習をお願いしたい。									
<b>評価方法</b> 定期試験100%にて評価する。再試験は定期試験と同形式とし、上限を60点とする。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理		シラバスコード	6S15	担当教員	松島 宏典			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 統計解析とグラフィックスのためのソフトウェアであり、様々なプラットフォーム上で動作させることができるR言語のプログラミング技術を、種々の数値計算方法・統計解析方法、画像処理手法と共に習得する。									
<b>到達目標</b> 1. 数値計算方法・統計解析方法について説明できる。 2. R言語によりデータマイニングができる。 3. R言語によりグラフィックス処理ができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. Rの特徴と実行方法 2. 演算子・条件分岐・繰り返し 3. ベクトル 4. 行列 5. データフレーム 6. データマイニング 7. 確率分布 8. コホート分析 9. 回帰分析 10. 画像処理									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：プリント教材など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業は講義形式とし、演習を交えながら進めていく。適宜課題を課すものとする。R言語プログラミングは、制御情報実験室で行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験の結果80%、課題20%を目安として評価する。 60点以上を合格とし、再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	創造工学実験		シラバスコード	6S16	担当教員	橋村、田中、池田、大崎、福田、小田			
期間	前期	授業形態	実験	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b>									
工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行い、自主性、創造性ならびに行動力の向上を目的とする。									
<b>到達目標</b>								<b>JABEE プログラム目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主的な実験企画を行い、遂行し、結果を考察できる。</li> <li>2. 成果報告書に技術報告書としてまとめることができる。</li> <li>3. 成果を要約し所定の時間内に発表できる。</li> </ol>								D	
<b>学習内容</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スケジュール説明・プレゼンテーション技法指導・安全指導</li> <li>2. 計画発表資料作成</li> <li>3. 計画発表会</li> <li>4. 実験装置図作成</li> <li>5. 学外の技術者による技術指導</li> <li>6. 実験装置の製作</li> <li>7. 実験装置を使った実験・評価</li> <li>8. 成果報告要旨作成、発表資料作成</li> <li>9. 成果発表会</li> <li>10. 成果報告書作成</li> </ol>									
<b>教材および参考図書</b>									
資料を配付する。 フライス盤、のこ盤、電気計測器を設置。 基本電気部品類は常備。研究者総覧、カタログ類。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入学前に各自が希望するテーマを3項目提出し、担当教員による審査後テーマを決定する。</li> <li>2. 各自で装置・実験方法を企画し、計画発表会にて説明、必要があれば変更を行う。</li> <li>3. その後、装置製作のための物品購入請求を行い、目的の実験を行う。</li> <li>4. 専門分野についての指導は本校教職員全員が対応する。</li> <li>5. 実験結果は成果発表会で要旨(A4・1枚)をもとに報告し、成果報告書(A4・8~14枚)を提出する。</li> <li>6. 計画的に、自主的、積極的、創造的に行動することが大切である。</li> </ol>									
<b>評価方法</b>									
テーマについて30%（独創性、難易度）、実験装置の完成度20%、報告書30%（調査量、技術文書表現力）、プレゼンテーション20%（発表手順、発表資料、発表技術、発表時間）。なお、評価が60点未満の場合、成果報告書の提出期限後一ヶ月以内に追加実験などを行い、成果報告書の再提出により、60点を限度として学年末成績評価で追認することがある。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	先端工学特論		シラバスコード	6S17	担当教員	専攻科主事補				
期間	後期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b>										
<p>本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端技術、工学的・工業的諸問題、及びそれらが影響を与える社会問題等に関心をもち、工業技術者としての視野を広めることができる</li> <li>2. それぞれの専門分野の知識を基礎として、エネルギー、環境、新技術、自然科学などの問題に対して工学的に考察できる</li> <li>3. それぞれに関わる科学技術の要点を理解し、客観的な評価ができる</li> </ol>										A-1
<b>学習内容</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送大学特別講義（ビデオ） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太陽光発電新時代</li> <li>2. レーザー核融合</li> <li>3. 大気汚染と保全</li> <li>4. 水の汚濁と浄化</li> <li>5. 廃棄物の処理とリサイクル</li> <li>6. 渇く大地・溺れる大地</li> <li>7. 色の科学（分光発色理論）</li> <li>8. 新技術による結晶構造解析</li> <li>9. 発見者が語るカーボンナノチューブ</li> <li>10. 世界最高速の計算機を創って進める科学</li> <li>11. うま味発見100年～その先端科学を探る</li> <li>12. 磁気不思議と医学応用</li> <li>13. ウェーブレットと錯視</li> <li>14. 数学で解く心の世界～計算エラーはなぜ起こるのか～</li> <li>15. 宇宙の新しい目「重力波望遠鏡」</li> </ol> </li> <li>・学内外における特別講義・特別講演等で構成</li> </ul>										
<b>教材および参考図書</b>										
先端工学特論報告集、講演会での配布資料										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>①放送大学特別講義（ビデオ）と②学内外における特別講義・特別講演等で構成されている。講演などでは福祉問題、環境問題、エネルギー問題、地域企業の先端技術、人文・社会問題、専門及び専門関連分野等の中から、自主的に興味のある学術・技術的題目を選んで聴講する。①のビデオ学習のレポートは、15回のレポートの内8編以内を受け、学生には前期授業時間割に従って15回開催を通知する。②は随時、専攻科に開催の案内をし①②とも毎回、所定の報告書を担当教員へ提出する。</p> <p>関連科目：環境倫理学など</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>提出されたそれぞれのレポートの内容を教育目的に応じて、A；7点、B；6点、C；5点、D；4点の4段階に評価する。</p> <p>評価基準：累積点60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1・2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科研究論文		シラバスコード	6S18	担当教員	全教員				
期間	1年通年・2年前期	授業形態	実験		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	10
<b>授業の目的</b>										
<p>物造りや研究開発などの分野で、先端技術にも対応でき、創造性のある実践的エンジニアの育成を目的として、指導教官のもとで工学分野に関わるテーマについて研究活動を行う。研究成果の一部は、学位授与機構のための学習成果・レポートとして、大学評価・学位授与機構に提出する。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<p>1. 日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、コミュニケーションに関する基礎能力がある。</p> <p>2. 該当する数学、自然科学、機械工学、電気電子工学、制御工学および情報工学に関する知識を応用したり問題解決に結びつける基礎能力がある。</p>										<p>E-1</p> <p>F-2</p> <p>F-3</p>
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献の調査</li> <li>2. 実験計画</li> <li>3. 実験の問題点の検討</li> <li>4. 実験データの整理, 検討</li> <li>5. 論文の構成の検討</li> <li>6. 図表の作成</li> <li>7. 論文作成</li> <li>8. 要約作成</li> <li>9. プレゼンテーション資料の作成</li> <li>10. プレゼンテーションの仕方</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
<p>テーマごとに指導教員が文献・資料を準備する。</p>										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>教育方法：専攻科入学直後に、提示された研究題目の研究内容概要を読み、興味ある研究テーマを選択する。指導教官の承認を得た後、基本的には一人が一つのテーマで正式に配属が決定する。この科目は2年前期まで継続して研究活動を行うが、最終的には研究論文を作成し、研究論文について口頭発表を行う。研究論文の書式および発表形式などについては別途定める。</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>指導教員と複数の関連教員で評価する。指導教員は研究内容の評価を40点満点、指導教員と2名の関連教員で発表を通しての評価を60点満点、合計100点満点で行う。60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	システム制御工学		シラバス コード	6S19	担当教員	江頭成人			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本授業においては、一般的なシステムを制御するために必要なシステム制御工学について学修する。具体的には、これまでに修得した制御工学の技術を基に、一般的な制御システムを構築する技術を修得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 制御理論をシステム制御へ摘要することができる。 2. 与えられたシステムに対して、システムを把握することができる。 3. それに適切な制御系を構築することができる。								JABEE プログラム目標  C-1	
<b>学習内容</b> 1. システム制御の考え方 2. 自動制御について 3. システム同定について 4. 現代制御理論について 5. 状態方程式と観測方程式 6. 極配置レギュレータによる制御 7. オブザーバによる状態値推定 8. 最適レギュレータによる制御 9. 最適推定 10. 最適制御									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：自動制御、柏木 編著、朝倉書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書による講義を中心とする。微分方程式、ラプラス変換および確率統計等の応用数学と、古典制御理論を十分に復習しておくこと。									
<b>評価方法</b> 定期試験を70%、課題を30%として総合評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	デジタル制御		シラバスコード	6S20	担当教員	江頭成人			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本授業においては、コンピュータ等によるデジタル制御を実現するために必要な技術について学修する。具体的には、これまでに修得したアナログ制御工学の技術を基に、コンピュータによるデジタル制御システムを構築する技術を修得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 与えられたアナログ制御システムをデジタル化することができる。 2. デジタル制御システムを構築することができる。 3. デジタル制御システムの安定性を論ずることができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. デジタル制御の考え方 2. アナログ制御システムのデジタル化 3. サンプル値制御系の構成 4. サンプリングとホールド回路 5. z変換 6. パルス伝達関数とその結合 7. サンプル値制御系の特性解析 8. サンプル値制御系の特性補償と設計 9. デジタルPID制御 10. デジタル制御におけるシステム同定									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：自動制御、柏木 編著、朝倉書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書による講義を中心とする。微分方程式、ラプラス変換および確率統計等の応用数学と、古典制御理論を十分に復習しておくこと。									
<b>評価方法</b> 定期試験を70%、課題を30%として総合評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	形式言語とオートマトン		シラバスコード	6S21	担当教員	小田 幹雄			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 形式言語とオートマトンは、計算機科学を形成する基礎理論であり、情報工学の重要な科目である。本授業では、オートマトン、すなわち計算機械の数学的モデルに関して、各種モデルとその計算能力について講義する。また、形式言語は、自然言語やプログラミング言語のモデルである。オートマトンと緊密な関係にある形式言語について、形式文法による言語の生成能力について講義する。									
<b>到達目標</b> 1. 有限オートマトンについて、その機構と動作を説明できる。 2. プッシュダウンオートマトンについて、その機構と動作を説明できる。 3. チューリング機械について、その機構と動作を説明できる。 4. 正規文法、文脈自由文法、文脈依存文法、句構造文法について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. オートマトン、語、言語、形式文法とは 2. 有限オートマトン 3. 非決定性有限オートマトン 4. 空動作のある非決定性有限オートマトン 5. 最簡形の有限オートマトン 6. プッシュダウンオートマトン 7. 非決定性プッシュダウンオートマトン 8. チューリング機械 9. 非決定性チューリング機械 10. 形式文法 11. 形式文法のクラスと形式言語のクラス 12. 正規文法と正規言語 13. 文脈自由文法と文脈自由言語 14. 文脈依存文法と文脈以前言語 15. 句構造文法と句構造言語									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：米田政明 監修 オートマトン・言語理論の基礎、近代科学社 補助教材：スライド、 <a href="http://www.kindaikagaku.co.jp">http://www.kindaikagaku.co.jp</a>									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿った講義を行う。講義の中で、スライドを用いたアニメーションによりオートマトンの動作を説明し、視覚的に理解を深めることも行う。また、オートマトンが受理する言語および文法により生成される言語に関する演習問題をできるだけ多く扱い、理解を深めるが、予習または復習による自学自習の機会に自ら演習問題に取り組むことを推奨する。									
<b>評価方法</b> 定期試験(80%)およびレポート(20%)により100点法で評価する。なお、レポート未提出者については評価しない。評価点が60点未満の者に対して、再試験を1回実施し、再試験(80%)、レポート(20%)により、60点を上限として評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	データベース		シラバスコード	6S22	担当教員	中野 明			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> データベースならびにデータベースシステムは、大量の情報を蓄積し、効率的に利用するための基盤技術の一つである。そのため、産業界において広く普及している。本授業では、このデータベースならびにデータベースシステムに関する知識の習得と技術力を高めることを授業の目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. データベースシステムの基本概念を理解する。 2. データモデルを理解し利用することができる。 3. リレーショナルデータベース言語を理解し利用することができる。								JABEE プログラム目標  C-1	
<b>学習内容</b> 1. ガイダンス 2. データベースシステムとデータベース管理システム 3. ファイルシステムの問題・データベースの機能 4. 概念モデル 5. 論理モデル 6. リレーショナルデータモデル 7. リレーショナル代数 8. 正規化 9. リレーショナルデータベース言語 10. AccessによるSQLの演習									
<b>教材および参考図書</b> 参考資料：北川博之著「データベースシステム」(昭晃堂)									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 参考図書、配布プリントなどを用いた講義を行う。また、データベースならびにデータベースシステムへの理解を深めるため、Accessを用いた演習を状況に応じて行う。本科目は、本科5学年の科目であるソフトウェア工学の受講を前提としている。									
<b>評価方法</b> 定期試験90%、課題レポート10%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用電磁気学		シラバスコード	6S23	担当教員	平川 靖之			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本科で電磁気学を習得した学生を対象に、より高度な電磁気学の入門として開講するもので、クーロンの法則、ガウスの法則などの基本法則から、それらの集大成であるマクスウェルの方程式までを、例題を豊富に取り上げることにより理解を深めることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. ベクトル解析の基本を理解できる。 2. 偏微分方程式を基礎とした電磁界の解法を理解できる。 3. 代表的な電磁気学の問題を映像法や仮想変位により解決することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. ベクトル解析 (積分) 2. ベクトル解析 (微分) 3. ベクトル解析 (勾配・発散・回転) 4. 真空中の導体系の静電界 (映像法の原理) 5. 真空中の導体系の静電界 (映像法演習問題) 6. 誘電体と静電界 (境界条件) 7. 磁性体 (境界条件) 8. 境界条件演習問題 9. 静電エネルギーと力 (仮想変位の原理) 10. 静電エネルギーと力 (仮想変位演習問題) 11. マクスウェル方程式 (微分形・積分形) 12. マクスウェル方程式 (波動方程式・拡散方程式) 13. マクスウェル方程式 (ポインティングベクトル) 14. マクスウェル方程式 (表皮効果) 15. マクスウェル方程式 (電磁波)									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：岡田龍雄、船木和夫 著 電気電子工学シリーズ「電磁気学」朝倉書店 参考書：前田三男 著 「電磁気学の基礎」昭晃堂 大木義路 編著 EE Text「電磁気学」オーム社 山口昌一郎著 「基礎電磁気学」電気学会									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に進めるが、例題を多めに行い、類似の演習問題を課題としてレポート提出を求める。									
<b>評価方法</b> 定期試験 (70%)、演習課題レポート (30%) を原則とし、欠課・遅刻を減点する評価法とする。 40点以上のものについては再試験を1回のみ実施する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	デジタル信号処理	シラバス コード	6S24	担当教員	池田 隆				
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> デジタル信号処理は、今日の情報化社会を支える基本技術として必須のものである。この講義では基礎理論の修得とともに、実用的なデジタルフィルタ設計とその応用能力の確立を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. デジタル信号の基本的な特性を説明できる。 2. 簡単なデジタルフィルタを構成できる。 3. FFT及びリアルタイムシステムについて説明できる。								JABEE プログラム目標  C-1	
<b>学習内容</b> 1. デジタル信号処理の概要と特徴 2. 連続時間信号とシステム 3. フーリエ級数とフーリエ変換 4. 標本化 5. 離散時間信号 6. Z変換と逆Z変換 7. 差分方程式 8. デジタルフィルタ設計の基礎 9. 離散フーリエ変換と高速フーリエ変換 10. 信号処理の応用 11. DSPによるリアルタイム装置 12. 学習諸項目のまとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：デジタル信号処理 岩田 彰 コロナ社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心として、信号処理のデモンストレーションを用いながら、解説を進める。課題により、基本事項の確認と、基礎力の充実を図る。									
<b>評価方法</b> 期末試験100[%]で100点満点評価し60点以上を合格とする。 再試験は100点満点で1回行い、60点以上を合格、評価の上限は60点とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	機械工学特論		シラバスコード	6S25	担当教員	機械工学科教員			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> サマーレクチャーと銘打ち、本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義を実施する。その目的は、各高専の特徴を生かした専門特論を少人数の専攻科学生を対象に広く深く教授し、特化専門分野の高度技術の習得、今日最先端技術についての実際的技量の習得、および専攻科学生の相互交流である。									
<b>到達目標</b> 1. 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる。 2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーションができる。 3. 自主的、継続的に学習できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 本校機械工学科の専門教育は、機械設計、材料強度、生産工学、熱流体、計測制御などにより構成されている。本科目は、サマーレクチャーとして開催し、ある専門分野に特化した教育研究を、他高専生を含む専攻科生に講義するものである。ある専門分野の基礎と応用及び最新技術を講義するとともに、さらに理解を深めるための実験・実習、演習、工場見学などを含む。特論テーマは実施年度によって異なるが、そのテーマにそって教育プログラムが作成され、本校教員、他高専教員、大学教授、研究所・民間企業の専門家がオムニバス形式で授業を担当する。									
<b>教材および参考図書</b> 授業内容をまとめたテキスト、資料など。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義、演習、実習、実験、見学会などにより実施する。 なお、本年度は、本特論は開講しない。									
<b>評価方法</b> 各担当講師がレポート、演習課題などで評価し、それらをまとめて総合的に評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	電気電子工学特論		シラバスコード	6S26	担当教員	電気電子工学科教員・学外講師			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 電気電子情報システムのうち、半導体、電力制御、画像・音声情報処理、レーザー、プラズマ、ネットワーク、電気磁気の各分野でのセンシング技術について学習する。研究中から実用の領域までを取り上げ専攻科生として資質の向上を図る。									
<b>到達目標</b> 1. 最近の画像・音声信号処理分野に関し事例を挙げて説明することができる。 2. 最近のレーザー技術に関し事例を挙げて説明することができる。 3. 最近のプラズマ技術に関し事例を挙げて説明することができる。 4. 最近の半導体技術に関し事例を挙げて説明することができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 最近の研究や実用技術に関する事項をとりあげ、画像情報処理、レーザー技術、プラズマ技術、音声信号処理及び半導体技術を専門とする講師により講義する。また関連施設の見学を適宜実施する。									
<b>教材および参考図書</b> 講師配布のテキスト、資料など。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 本講義は、サマーレクチャーとして本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義として実施する。									
<b>評価方法</b> 各講師の課題レポート、演習問題などによって総合評価する。 再試験は原則実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	制御情報工学特論		シラバス コード	6S27	担当教員	制御情報工学科長他			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 平成15年度から九州高専間の特別聴講学生制度に基づく単位互換科目として、サマーレクチャーと銘打ち、本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義を実施している。その目的は、各高専の特徴を活かした専門特論を少人数の専攻科学生を対象に広く深く教授し、特化専門分野の高度技術の修得、今日最先端技術についての実際的技量の修得、および専攻科学生の相互交流である。									
<b>到達目標</b> 1. 該当する分野の専門技術に関する知識を修得し、それらの問題解決に応用できる能力を養う 2. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を養う 3. 自主的、継続的に学習できる能力を養う								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 本講義では、画像処理やサーボ機構など、制御情報工学に関するテーマを設定し、基礎原理から産業界における実際について学ぶ。また、テーマに即した実習、施設見学も実施する。最先端の技術を含む高度な講義にするため、講師は他の教育機関、企業からも招聘する。									
<b>教材および参考図書</b> 授業内容をまとめたテキスト、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義、演習、実習、実験、見学会などにより実施される。 平成22年度は実施しない。									
<b>評価方法</b> 各担当講師がレポート、演習課題などを評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅲ		シラバスコード	7S01	担当教員	江島孝則				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b>										
<p>ニケーションの場において自由に自分の考えを相手に伝えたり、相手の言うことを理解するための英語力を養成することにある。教科書のTOEIC問題の演習を通してコミュニケーションな英語を習得すること。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>英語で自分の考えを相手に伝えることができ、相手の言うこともある程度理解できる能力を習得すること。</li> <li>TOEICで400点程度のスコアを取れる能力を養成すること。</li> <li>語彙力を強化すること。</li> </ol>										E-2
<b>学習内容</b>										
Unit 1 Part 1 写真描写問題①、 Part 5 短文穴埋め問題① Unit 2 Part 1 写真描写問題②、 Part 5 短文穴埋め問題② Unit 3 Part 1 写真描写問題③、 Part 5 短文穴埋め問題③ Unit 4 Part 2 応答問題①、 Part 5 短文穴埋め問題④ Unit 5 Part 2 応答問題②、 Part 5 短文穴埋め問題⑤ Unit 6 Part 2 応答問題③、 Part 5 短文穴埋め問題⑥ Unit 7 Part 2 応答問題④、 Part 5 短文穴埋め問題⑦ Unit 8 Part 2 応答問題⑤、 Part 5 短文穴埋め問題⑧ Unit 9 Part 2 応答問題⑥、 Part 5 短文穴埋め問題⑨ Unit10 Part 3 会話問題①、 Part 5 短文穴埋め問題⑩ Unit11 Part 3 会話問題②、 Part 6 長文穴埋め問題① Unit12 Part 3 会話問題③、 Part 6 長文穴埋め問題② Unit13 Part 3 会話問題④、 Part 6 長文穴埋め問題③ Unit14 Part 3 会話問題⑤、 Part 6 長文穴埋め問題④ Unit15 Part 3 会話問題⑥、 Part 7 読解問題・1つの文書① Unit16 Part 3 会話問題⑦、 Part 7 読解問題・1つの文書② Unit17 Part 3 会話問題⑧、 Part 7 読解問題・1つの文書③ Unit18 Part 4 説明文問題①、 Part 7 読解問題・1つの文書④ Unit19 Part 4 説明文問題②、 Part 7 読解問題・1つの文書⑤ Unit20 Part 4 説明文問題③、 Part 7 読解問題・1つの文書⑥ Unit21 Part 4 説明文問題④、 Part 7 読解問題・1つの文書⑦ Unit22 Part 4 説明文問題⑤、 Part 7 読解問題・2つの文書① Unit23 Part 4 説明文問題⑥、 Part 7 読解問題・2つの文書② Unit24 Part 4 説明文問題⑦、 Part 7 読解問題・2つの文書③										
<b>教材および参考図書</b>										
The TOEIC Test Practice With Core Vocabulary Book 2(SEIBIDO) 及びプリント教材等										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>授業に遅れることなく参加することは基本である。出席は授業の最初にとる。            授業はテキストにそって進める。毎週、課題あり。適宜、TOEIC模擬テスト実施をする。</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>数回の模擬試験及び期末試験で80%、提出された課題レポート20%で評価する。            再試験は必要に応じて行う。            評価基準：60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	工学倫理		シラバス コード	7S02	担当教員	東島光雄			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 技術者倫理に関する事例研究の学習を通して、技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を身に付ける。									
<b>到達目標</b> 1. 技術者倫理に関する様々な事例を理解する。 2. 事例が意味することの分析の仕方を理解する。 3. 技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を自覚する能力を身に付ける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 1. 技術者倫理とは 2. 専門家の責任（チャレンジャー号事故ビデオ） 3. 安全と設計（日航ジャンボ機墜落事故） 4. 消費者を守る責任（雪印乳業集団食中毒事件） 5. 製造物責任 6. 知的財産権 7. 倫理規定 8. 人々の安全が優先 9. 内部告発の条件 10. 専門家の責任									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：新はじめての工学倫理、齋藤了文他。昭和堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 事例研究をメインとする。 適宜ビデオ学習を併用する。 「事件事例を集めたHP」から事例を調べてレポート提出を課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般Ⅱ		シラバス コード	7S03	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理III		シラバスコード	7S04	担当教員	菟田智恵子			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> ベクトル場の微分積分であるベクトル解析を学ぶ。ベクトル解析は工学、理学で重要な道具であるため、理論の習得はもちろんの事、計算が出来るようになる事を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 線積分、面積分の理解及び計算ができるようになる。 2. ベクトル場、接空間、余接空間、微分形式を知識として得る。 3. 様々な数学書をあたり、疑問点を自分で調べ事が出来るようになる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. ベクトルの復習 2. ベクトルの微分 3. スカラー場とベクトル場 4. 勾配・発散・回転 5. 線積分の定義 6. グリーンの定理 7. 面積分の定義 8. ガウスの定理 9. ストークスの定理 10. 微分形式入門									
<b>教材および参考図書</b> 教科書は特に指定しない。しかし、授業中に、参考書は何冊か紹介する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 標準的なベクトル解析の参考書に沿って講義します。説明が中心となりますが、受講者の理解度に応じて、問題演習の時間を設けます。講義で解らないところは質問してもらおう事が第一ですが、図書館などでベクトル解析の本を読んで、自分で解決する事も希望します。									
<b>評価方法</b> 総合点で100点満点で60点以上を合格とする。筆記試験の点数をA(100点満点)、授業中に行う演習とレポート課題による評価をB(50点満点)としたとき、 $(\text{評価点}) = A + (1 - 0.01A)B$ とする。 評価点が60点に満たないものに対しては再試験を行う。ただし、再試験による評価点の上限は60点とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	統計力学及び熱力学		シラバスコード	7S05	担当教員	越地尚宏			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 微視的世界と巨視的世界を結びつける橋としての統計力学・熱力学の基礎を学び、比熱や内部エネルギー、エントロピーの概念を学び、これらの巨視的な特徴を分子論的に導く									
<b>到達目標</b> 1. 物質の熱的性質を理解し、必要に応じて、解析と応用ができるようになる。 2. マクロな熱的性質の起源を分子論的見地から理解する 3. 上記の内容に関連した基礎的な演習問題が解けるようにする。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 熱力学の基礎 2. 熱力学の第1法則 3. 仕事とエネルギー 4. エネルギー保存則と仕事の原理 5. 熱力学の第2法則 6. 熱力学からみたエントロピー 7. 統計力学の考え方 8. 統計力学からみたエントロピー 9. 統計力学と熱力学の融合 10. 比熱についてミクロおよびマクロな視点から考える									
<b>教材および参考図書</b> 熱・統計力学 岩波書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を主体にして、また必要に応じてその理解を深めるために積極的に演習を行う。また適宜、演示実験、ビデオ教材、コンピューターシミュレーション等を活用していく。									
<b>評価方法</b> 定期試験による評価を80パーセント、上記の演習やレポートによる評価を20パーセントとし、これらを総合的に評価する。60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門 I		シラバス コード	7S06	担当教員	専攻科主事				
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2	
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 専門知識を広める。										
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -		
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。										
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論専門 I として認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。										
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門Ⅱ		シラバス コード	7S07	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，専門知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  -	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論専門Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	技術英語		シラバス コード	7S08	担当教員	平川 靖之				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b> 英語の長文を短時間で読み下し、その概略を把握して、他人に説明する能力を養うことは重要である。本講義は、長文の要約およびその内容に関する説明を行う能力を身につけることを目的とする。										
<b>到達目標</b> 1. 数式やグラフを英語で説明することができる。 2. 論文等の技術英語に使われる慣用表現を理解することができる。 3. 英語で手紙やメールを書くことができる。 4. 英語の長文を要約し、説明することができる。									<b>JABEE プログラム目標</b>  E-2	
<b>学習内容</b> 1. 科学技術英語の基本的な表現 (物体の形状) 2. 科学技術英語の基本的な表現 (物体の位置・運動・方向) 3. 科学技術英語の基本的な表現 (数字と数量) 4. 科学技術英語の基本的な表現 (数学記号・数式) 5. 科学技術英語の基本的な表現 (数学・物理) 6. 科学技術英語の基本的な表現 (グラフ) 7. 手紙やメールの基本的な構成、表現方法 8. 英語手紙の演習 9. 英語メールの演習 10. 英語論文の基本的な構成 11. 英文輪読 1 (英文音読後、和訳・解説) 12. 英文輪読 2 (英文音読後、和訳・解説) 13. 英文輪読 3 (英文音読後、和訳・解説)										
<b>教材および参考図書</b> 教科書：多田旭男 他共著「アクティブ科学英語」三共出版 その他、適宜プリント配布										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 前半は、教科書を用いて、科学技術英語の基礎と手紙・メールの書き方を学習する。メールについては、実際に英語でメール送信する課題を行う。 後半は、プリントで配布する技術英語の長文をゼミ形式の輪読で行う。輪読時には、英文の和訳、内容の説明ができるように、予習を十分に行っておく必要がある。										
<b>評価方法</b> 定期試験 (60%)、輪読・課題レポート (40%) を原則とし、欠課・遅刻を減点する評価法とする。 再試験は実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科インターンシップ		シラバスコード	7S09	担当教員	専攻科主事及び担当教員			
期間	後期	授業形態	実習	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	7
<b>授業の目的</b>									
<p>本学科と専攻科で学んだ工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを、企業等における長期インターンシップで経験し、実践的技術者としての資質を高めることを目的とする。本科目は、本学科と専攻科の最終科目であり、各学生は企業からの評価を受け、その結果を参考にして、学生の自己啓発および専攻科の教育改善を促す。</p>									
<b>到達目標</b>								<b>JABEE プログラム目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任が理解できる</li> <li>2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる</li> <li>3. 該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる</li> <li>4. 日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを通してコミュニケーションを図ることができる</li> <li>5. 自主的、継続的に学習することができる</li> </ol>								E-1 F-1 F-3	
<b>学習内容</b>									
<p>専攻科2年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務を行う。予めインターンシップ担当教官が引き受け実施機関の用意しているプログラムを検討・調整しておき、そのプログラムに従って実習する。主な内容は、下記のものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械部品などの組み立て・製作</li> <li>2. 設計・製図・図面の修正</li> <li>3. 制御回路の組み立て・修理</li> <li>4. 操作説明書の作成</li> <li>5. CADによる図面作成</li> <li>6. グラフィックスの作成</li> <li>7. 穴あけ・切削・溶接などの加工</li> <li>8. 実験・試験・測定・データ整理</li> <li>9. ワード・エクセルによる文書作成</li> <li>10. 製品の品質検査</li> <li>11. 計算プログラム作成</li> <li>12. 報告書及び最終報告書の作成</li> <li>13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表</li> </ol>									
<b>教材および参考図書</b>									
実習内容に関連する文献、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>									
<p>インターンシップ受け入れ機関を提示し、その中から、担当教官と学生が相談の上、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は10月中旬から2月上旬までの間で、期間は2ヶ月以上4ヶ月以内、企業あるいは研究機関などにおいて実際の業務に従事する。ただし、12月中旬の大学評価・学位授与機高の試験期間1週間は除く。担当教官は、時折、実施機関を訪問し、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、一ヶ月ごとに報告書を担当教官に提出する。インターンシップ終了後直ちに、学生は最終報告書および実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。</p>									
<b>評価方法</b>									
<p>複数のインターンシップ関連教員により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。60点以上を合格とする。</p>									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	計算力学		シラバスコード	7S10	担当教員	中尾哲也			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 有限要素法は、機械工学における機械研究、設計などの分野においてなくてはならないものとなっており、計算力学の主要分野でもある。本科目では、有限要素法の理論について基礎的部分を学び、3次元CADソフトSolidWorksで3次元モデルを作成し、モデルに対して様々な解析を施す。									
<b>到達目標</b> 1. 有限要素法に関して基礎的な知識を有し、シミュレーション結果について評価できる 2. 3次元CADでモデル化し、適当な境界条件を与え解析することができる 3. 自分で問題を提起し、シミュレーションによって問題解決することができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 第1週 有限要素法について 第2週 有限要素法の基礎的知識 第3週 弾性問題の基礎方程式1 第4週 弾性問題の基礎方程式2 第5週 Excelによる有限要素解析(トラス, 平面板) 第6週 SolidWorksによる3次元製図の基礎 第7週 SolidWorksSimulationによる構造解析1(強度解析) 第8週 SolidWorksSimulationによる構造解析2(座屈解析) 第9週 SolidWorksSimulationによる構造解析3(熱伝導解析) 第10週 SolidWorksSimulationによる構造解析4(振動解析) 第11週 SolidWorksSimulationによる流体解析 第12週 SolidWorksSimulationによる機構解析 第13週 課題設定 第14週 解析演習 第15週 解析演習まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材：配布プリント 参考図書：有限要素法概説—理工学における基礎と応用 菊池著 サイエンス社 有限要素法入門 三好著 培風館									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 有限要素法の基礎的な理論を理解し、実際にプログラム(トラス, 平面板)を作成する。使用言語は問わない。また、3次元CADソフトであるSolidWorksに付属しているSolidWorksSimulationにて種々の問題解析(構造解析, 座屈解析, 固有値解析, 落下解析, 熱解析など)に取り組む。最後に、自分で課題を設定し、解析結果を報告してもらう。解析方法などをまとめる。後半課題は性質上、SolidWorksに精通していることが求められる。									
<b>評価方法</b> トラス, 平面板に関するプログラム及び結果レポート 50% 3次元CADソフトによる問題～解析レポート 50% 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	メカトロニクス工学		シラバスコード	7S11	担当教員	綾部 隆			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> メカトロ機器のアクチュエータに関する基礎知識を修得すると共に、機械・電気系のモデリング、モータの選定法、位置決め制御系の設計に関する基礎的な能力を身につける。									
<b>到達目標</b> 1. 機械・電気系のモデリングの基礎能力を身につける。 2. モータの選定ができる。 3. 位置決め制御系の設計法を理解する。								JABEE プログラム目標  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 代表的なセンサ(1) 2. 代表的なセンサ(2) 3. アクチュエータの分類と特徴 4. DCモータの駆動回路 5. DCサーボモータの各種制御法と指令方式 6. サーボシステムの構成 7. ステッピングモータ 8. DCサーボモータ, およびDCサーボモータで駆動された機械系のモデリング(1) 9. DCサーボモータ, およびDCサーボモータで駆動された機械系のモデリング(2) 10. モータ軸からみた機械系の等価慣性モーメントと等価負荷トルクの計算法(1) 11. モータ軸からみた機械系の等価慣性モーメントと等価負荷トルクの計算法(2) 12. DCモータの所要トルク計算とモータの選定法 13. DCモータの所要トルク計算とモータの選定法 14. 位置決め制御系の簡易設計法									
<b>教材および参考図書</b> 教材プリント, ノート講義									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> ノート講義およびプリントを配布する。機械, 電気電子, 制御情報各コースの学生を対象としているので本科で学んだことの復習を行うと共に、他分野の基礎知識を修得させる。モータの選定法については実際に演習を行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験で評価する。100点法で60点以上の場合、上記の目標を達成したものとする。60点に満たない場合には再試を受けられるが、再試の成績が60点以上の場合、60点として評価する。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	コンピュータグラフィックス		シラバスコード	7S12	担当教員	黒木祥光					
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2		
<b>授業の目的</b>											
<p>人間にとって、映像から得る視覚情報は他の感覚器官からの情報に比べ、質・量ともにはるかに多い。コンピュータの処理能力の向上と相俟って、コンピュータグラフィックスは今後ますます多くの分野で使われるものと思われる。</p> <p>本科目では、コンピュータを用いた画像生成の基礎理論の習得を目的とする。</p>											
<b>到達目標</b>								JABEE プログラム目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>3次元幾何変換と2次元への射影について説明できる。</li> <li>ソリッドモデルなどの形状モデリングについて説明できる。</li> <li>レンダリングの手法について説明できる。</li> <li>アニメーションの手法について説明できる。</li> </ol>								C - 1			
<b>学習内容</b>											
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラモデル                             <ol style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラモデル</li> <li>CGと画像処理</li> </ol> </li> <li>座標変換                             <ol style="list-style-type: none"> <li>2次元座標変換</li> <li>3次元座標変換</li> <li>投影</li> <li>ビューイングパイプライン</li> </ol> </li> <li>モデリング                             <ol style="list-style-type: none"> <li>形状モデリング</li> <li>ソリッドモデルの形状表現</li> <li>境界表現の局所変形</li> <li>曲線・曲面</li> <li>ポリゴン曲面の表現</li> <li>そのほかの形状表現法</li> </ol> </li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>レンダリング                             <ol style="list-style-type: none"> <li>写実的表現法</li> <li>隠面消去</li> <li>シェーディング</li> <li>影付け</li> <li>大域照明モデル</li> <li>マッピング</li> </ol> </li> <li>アニメーション                             <ol style="list-style-type: none"> <li>CGアニメーションの構成</li> <li>カメラコントロールによるアニメーション</li> <li>キーフレームアニメーション</li> <li>特殊効果のアニメーション</li> <li>手続き型アニメーション</li> <li>キャラクターのアニメーション</li> <li>リアルタイムアニメーション</li> <li>実写画像との合成</li> </ol> </li> </ol> </td> </tr> </table>										<ol style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラモデル                             <ol style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラモデル</li> <li>CGと画像処理</li> </ol> </li> <li>座標変換                             <ol style="list-style-type: none"> <li>2次元座標変換</li> <li>3次元座標変換</li> <li>投影</li> <li>ビューイングパイプライン</li> </ol> </li> <li>モデリング                             <ol style="list-style-type: none"> <li>形状モデリング</li> <li>ソリッドモデルの形状表現</li> <li>境界表現の局所変形</li> <li>曲線・曲面</li> <li>ポリゴン曲面の表現</li> <li>そのほかの形状表現法</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>レンダリング                             <ol style="list-style-type: none"> <li>写実的表現法</li> <li>隠面消去</li> <li>シェーディング</li> <li>影付け</li> <li>大域照明モデル</li> <li>マッピング</li> </ol> </li> <li>アニメーション                             <ol style="list-style-type: none"> <li>CGアニメーションの構成</li> <li>カメラコントロールによるアニメーション</li> <li>キーフレームアニメーション</li> <li>特殊効果のアニメーション</li> <li>手続き型アニメーション</li> <li>キャラクターのアニメーション</li> <li>リアルタイムアニメーション</li> <li>実写画像との合成</li> </ol> </li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラモデル                             <ol style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラモデル</li> <li>CGと画像処理</li> </ol> </li> <li>座標変換                             <ol style="list-style-type: none"> <li>2次元座標変換</li> <li>3次元座標変換</li> <li>投影</li> <li>ビューイングパイプライン</li> </ol> </li> <li>モデリング                             <ol style="list-style-type: none"> <li>形状モデリング</li> <li>ソリッドモデルの形状表現</li> <li>境界表現の局所変形</li> <li>曲線・曲面</li> <li>ポリゴン曲面の表現</li> <li>そのほかの形状表現法</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>レンダリング                             <ol style="list-style-type: none"> <li>写実的表現法</li> <li>隠面消去</li> <li>シェーディング</li> <li>影付け</li> <li>大域照明モデル</li> <li>マッピング</li> </ol> </li> <li>アニメーション                             <ol style="list-style-type: none"> <li>CGアニメーションの構成</li> <li>カメラコントロールによるアニメーション</li> <li>キーフレームアニメーション</li> <li>特殊効果のアニメーション</li> <li>手続き型アニメーション</li> <li>キャラクターのアニメーション</li> <li>リアルタイムアニメーション</li> <li>実写画像との合成</li> </ol> </li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>											
<p>教科書：コンピュータグラフィックス編集委員会，コンピュータグラフィックス（CG-ARTS協会）</p> <p>参考書：荒屋真二，明解 3次元コンピュータグラフィックス（共立出版）</p> <p>今野晃市，3次元形状処理入門（サイエンス社）</p>											
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>											
<p>履修学生が少人数であるため、ゼミ形式にて行う。担当の学生は配布資料を事前に担当教員に提出すること。ゼミでは丁寧な説明を心がけてもらいたい。</p>											
<b>評価方法</b>											
<p>定期試験100%にて評価する。再試験は定期試験と同形式とし、上限を60点とする。</p> <p>評価基準：60点以上を合格とする。</p>											

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 機械・電気システム工学専攻

制御情報工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	パターン認識		シラバスコード	7S13	担当教員	丸山 延康			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本授業では、視覚パターンを対象とする画像認識に着目し、パターンの入力から認識に至るまでの処理プロセスを講述することにより、パターン認識における基礎となる概念・原理及び応用的技術を教授する。									
<b>到達目標</b> 1. パターン認識の処理プロセスを理解する。 2. パターン認識の代表的なアルゴリズムや技法を習得する。 3. CまたはC++言語を用いてパターン認識のプログラムを作成できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. パターン認識の基礎 2. 画像の前処理：濃度変換、2値化画像、カラー画像 3. パターン認識の簡単な例：特徴ベクトル、テンプレートマッチング 4. フーリエ記述子による数字認識 5. ニューラルネットによる数字認識：ニューロンモデル 6. ニューラルネットによる数字認識：パーセプトロンの学習 7. ニューラルネットによる数字認識：誤差逆伝搬法、数字認識 8. 離散コサイン変換による顔認識：離散コサイン変換 9. 離散コサイン変換による顔認識：DCTによる顔認識システム 10. KL変換による顔認識：KL変換の定式化 11. KL変換による顔認識：顔認識への応用 12. 2次元フーリエ変換によるテクスチャマッチング：空間周波数とスペクトル 13. 2次元フーリエ変換によるテクスチャマッチング：2次元画像信号に対するフーリエ変換 14. 2次元フーリエ変換によるテクスチャマッチング：テクスチャマッピング 15. ラスタベクトル変換による図形認識									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：酒井幸市, 画像処理とパターン認識(森北出版株式会社), 配布資料等 参考書：白井良明, 谷内田正彦, パターン情報処理(Ohmsha)									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に基づいた講義は主である。授業内容の進行に伴い、プログラム作成などでパターン認識の基本技法を確認する。授業外の課題や練習問題を課す。									
<b>評価方法</b> 定期試験50%、課題50%、合計100点満点で評価を行う。60点以上を合格とする。再試験は行わない。									

## ■授業科目

# 生物応用化学コース

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語 I		シラバス コード	6C01	担当教員	福田 かおる				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 実践的な場面で多用される英文法の重要項目を確認し、さらに語彙力の強化を図ることによって、英語のコミュニケーション能力を向上させる。										
<b>到達目標</b> 1. 英文法の要点を復習し、正しい知識を定着させる。 2. ビジネスの場で使用される基本的な語彙や慣用表現を習得する。 3. TOEICで400点以上取得できるよう、英語の理解力を向上させる。									JABEE プログラム目標   E	
<b>学習内容</b> 1. 時制 2. 仮定法 3. 受動態 4. 関係詞 5. 分詞 6. 助動詞 7. 主語と動詞の一致 8. 不定詞・動名詞 9. 比較 10. 形容詞・副詞 11. 名詞・冠詞 12. 接続詞 13. 否定 14. 模擬テスト(1) 15. 模擬テスト(2)										
<b>教材および参考図書</b> ESSENTIAL GRAMMAR FOR THE TOEIC TEST マクミラン・ランゲージハウス										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って、1回に1ユニットずつ進める。まず、文法事項の要点を説明し、確認するための演習問題を行う。必要に応じて、文法問題、語彙問題、リスニング問題を加える。										
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は実施しないが、定期試験の得点が60点に満たなかった学生が後日TOEICを受験して400点以上のスコアを提示した場合、成績を60点に修正し、合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅱ		シラバスコード	6C02	担当教員	福田 かおる			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 世界中から発信された健康・環境関連の英文ニュースを読むことによって、科学技術に関連した時事英語の理解力を養成する。									
<b>到達目標</b> 1. ニュース英語の読解力を養成する。 2. 環境や社会事象に関連した語彙を強化する。 3. 世界情勢や環境問題について理解を深める。								<b>JABEE プログラム目標</b>  E	
<b>学習内容</b> TOPIC 1. Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them 2. "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source 3. Offices Use Ice to Cool Down and Save Power 4. Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's 5. Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property 6. College Students Feel Better after Screaming Together 7. Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers 8. Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales 9. Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water 10. Aboriginies Still Rely on Bush Medicines for Remedies 11. African Farmers Seek Ways to Survive Droughts 12. Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health 13. Rising Seas May Force Island Nations Evacuate 14. Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating 15. Planned Chinese City Wants All Eco-Friendly Power									
<b>教材および参考図書</b> Heling Our World: Today's Helath and Environment News 南雲堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って毎回1Unit学習する。速読に自信のない学生は、予めReading部分を読んで、要点を把握するためのStep1, Step2の答えを考えてくることが求められる。読解の際は、前期に学習した文法事項が活用できるはずである。授業ではニュースの内容を確認した後、TOEIC形式の問題と、英作文問題を行う。語彙の定着とリスニング力強化のために、随時単語の確認問題をリスニング形式で実施する。									
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は1回のみ実施する。但し、試験の成績がクラスの平均より20点以上低い学生は、再試を受験できない。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	環境倫理学		シラバスコード	6C03	担当教員	東島光雄			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 環境倫理学は自然と人間の共生を求める。 この時自然の価値をいかに認識するかがカギとなる。 環境倫理学の目的は、人間中心の環境・自然の価値の理解から、生態系中心の環境・自然の価値の理解への転換である。									
<b>到達目標</b> 1. 環境倫理学の基本主張を学ぶ。 2. 自然の内在的価値を学ぶ。 3. 一般の生活者として、また将来の技術者として、自分の活動が環境・自然とどのような関係にあるかを認識する能力を身につける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1	
<b>学習内容</b> 1. 環境倫理学とは何か 2. 環境倫理学の三つの基本主張 3. 足尾鋇毒事件と水俣病 4. 資源の枯渇と環境破壊 5. 自然の権利 6. 世代間倫理 7. 土地倫理 8. 生物多様性保護の倫理 9. 自然保護のめざすもの 10. 人間中心主義から人間非中心主義へ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：なし 参考図書：環境と倫理、加藤尚武編、有斐閣									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的に講義の形で授業を行う。 適宜ビデオ学習を併用する。 企業の「環境報告書」について調査レポートを課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業デザイン演習		シラバス コード	6C04	担当教員	藤田 雅俊			
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 商品企画から商品サーベイ、商品研究、市場化を踏まえた実際の商品化提案までのプロセスをグループ単位での演習により修得する。社会的に要求される商品を自ら求め、そのニーズに相応しい商品を技術解析、情報収集を基にして具体化する。グループでの作業により、計画的、継続的に仕事を進める責任感を養い、最終的なプレゼンテーションでの資料のまとめ方、口頭発表能力、コミュニケーション能力を高める。									
<b>到達目標</b> 1. 商品の企画から最終デザインまでのプロセスの理解・習得 2. グループワークによるメンバー同士のコミュニケーション能力の習得 3. 自らの企画を効果的に伝達するプレゼンテーション能力の習得 4. 自律的・計画的に作業を推敲する能力の習得 5. アイデアを具現化する創造力と編集力の習得								JABEE プログラム目標  A-2 F	
<b>学習内容</b> 第1週；オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス） 第2週；商品企画対象の選定 第3週；商品化プロセス調査1 第4週；商品化プロセス調査2 第5週；商品化プロセス調査3（発表） 第6週；商品化企画演習1（要素技術の調査） 第7週；商品化企画演習2 第8週；商品化企画演習3（中間発表） 第9週；商品化企画演習4 第10週；商品化企画演習5 第11週；商品化企画演習6 第12週；プレゼンテーション1 第13週；プレゼンテーション2 第14週；講評及び評価 第15週；課題レポート									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜資料を配付									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業における商品デザインの講義、商品提案スタディ、テーマレポートを総合的に行う。企画の提案・プレゼンテーション評価には地域企業・公設機関の方に参加してもらう。									
<b>評価方法</b> 商品化プロセス調査20% 演習課題50%（外部評価・相互評価を含む） 課題レポート30% 60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業財産権特論		シラバスコード	6C05	担当教員	伊藤義文・梶原克彦・大段恭二			
期間	前期	授業形態	講義と演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 専攻科1年の必修科目である「創造工学実験」と同時開講し、「実験」成果から発明を発掘し、展開し、明細書という模擬出願書類に取りまとめる。また、産業財産権制度に関する知識の習得や、インターネットでの技術情報の検索方法を同時に学習することで、特許制度に明るい実践的な人材を育成する。									
<b>到達目標</b> 1. 産業財産権制度の基礎知識の習得 2. インターネットによる特許検索能力の育成 3. 特許出願書類の作成能力の育成								JABEE プログラム目標  A-2 F	
<b>学習内容</b> 1. 導入コースー1 2. 導入コースー2 3. 基礎コースー1 + 「アイデアの掘り起こし演習」 4. 基礎コースー2 + 「アイデアの掘り起こし演習」 5. 産業財産権の調査方法 + 「インターネットによる技術情報検索演習」 6. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」 7. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」 8. 基礎コースー3 9. 基礎コースー4 10. 実践コースー1 11. 実践コースー2 12. 明細書の書き方指導ー1 13. 明細書の書き方指導ー2 14. 明細書の書き方指導ー3 15. 発明報告会									
<b>教材および参考図書</b> 教材：産業財産権標準テキスト(特許庁)・・・無償配布									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 特許庁の産業財産権標準テキストに従い、産業財産権に関する講義と、創造工学実験でのアイデアを模擬出願書類にまとめる演習の2本立てで行う。 1. 講義：産業財産権指導カリキュラムに従って講義し、毎回小テストを実施して理解度を深める。 2. インターネットによる技術情報検索、パテントマップの作成は、外部講師を招聘して行う。 3. 明細書の書き方指導は、外部講師(弁理士)を招聘して行う。 4. 発明報告会は、担当教官、各学科の創造工学実験担当教官、外部講師に出席して貰い、評価を行う。 5. 優秀特許は特許庁のpatentコンテストに応募する。									
<b>評価方法</b> 小テスト30点、定期テスト30点、発明演習40点で合計100点満点とし、60点以上を合格とする。再試験は実施しない									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般 I		シラバス コード	6C06	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論一般 I として認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	地球環境と現代生物学		シラバスコード	6C07	担当教員	中 蔦 裕 之			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年、環境問題を地球レベルで理解することが重要となっている。本講義では、様々な地球環境問題を生物学的立場から理解することを目的とする。また、バイオテクノロジーが地球環境の修復や持続的発展の可能な社会作りによどのように利用されているかについて学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 地球環境やエネルギー問題の現状について理解できる。 2. 環境修復や環境維持におけるバイオテクノロジーの役割を理解できる。 3. 実際の産業へどのように応用されているかを理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2 B-1	
<b>学習内容</b> 1. 地球環境の現状（環境問題， エネルギー問題） 2. 未来のエネルギー 3. エアロゾルⅠ 無機エアロゾル 4. エアロゾルⅡ 無機エアロゾルの成分 5. エアロゾルⅢ バイオエアロゾルとハウスダスト 6. エアロゾルⅣ バイオエアロゾルの地球規模の移動 7. エアロゾルⅤ 黄砂発生源におけるバイオエアロゾル拡散 8. 海洋環境Ⅰ 赤潮 9. 海洋環境Ⅱ 富栄養化 10. 海洋環境Ⅲ 水の華 11. 身近な有害有毒物質 12. 環境におけるバイオテクノロジーⅠ バイオレメディエーション 13. 環境におけるバイオテクノロジーⅡ 遺伝子工学 14. 特殊環境に棲息する生物Ⅰ 好アルカリ性微生物 15. 特殊環境に棲息する生物Ⅱ 好熱性微生物									
<b>教材および参考図書</b> 教材：単元ごとに作成したプリントを使用する。 参考図書： 今中利信他著，環境・エネルギー・健康20講，化学同人 清水達雄他著，微生物と環境保全（地球環境サイエンスシリーズ⑨），三共出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に行う。 地球環境を生物学的視点から講義するため，かなりの専門知識を有する。 専門学科以外の学生に対して細部の理解は求めないが，概念的な理解を示して欲しい。									
<b>評価方法</b> 定期試験を100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を修得とする。									

授業科目名	現代物理学		シラバスコード	6C08	担当教員	谷 太郎			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 現代物理学の基礎理論、「相対性理論」と「量子力学」のうち、相対性理論について解説する。この理論によって、時間と空間に関するそれまでの自然観が根底から覆され、また同時に、エネルギーの概念が新しく生まれ変わった。これらについて、発見者アインシュタインの思考の跡を辿りつつ学ぶ。また、現代のテクノロジー、最新の理論分野（宇宙論など）への応用について学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 「時空」の概念を獲得する。 2. 相対性理論のパラドックスについて説明することができる。 3. 「重力場」の概念を獲得する。								JABEE プログラム目標  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 現代物理学概観 2. 特殊相対性理論 (1) マイケルソン・モーリーの実験と光の本性 3. 特殊相対性理論 (2) 相対性原理 4. 特殊相対性理論 (3) 同時性の崩壊、時計の遅れ、ローレンツ収縮 5. 特殊相対性理論 (4) ローレンツ変換 6. 特殊相対性理論 (5) ミンコフスキーダイアグラム 7. 特殊相対性理論 (6) 質量とエネルギー、運動方程式 8. 特殊相対性理論 (7) パラドックス (双子のパラドックス, ガレージのパラドックス) 9. 特殊相対性理論 (8) 応用 (核反応、素粒子物理学、GPSなど) 10. 一般相対性理論 (1) 等価原理と時空の歪み 11. 一般相対性理論 (2) アインシュタイン方程式 12. 一般相対性理論 (3) 応用 (宇宙論)									
<b>教材および参考図書</b> 適宜指示する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書とプリントを用いた講義形式。新しい概念に到達するプロセスを理解するよう心がけること。結果の知識を貯えることではなく、根本の考え方を身につけることを目標に取り組んでもらいたい。適宜レポート課題（宿題）を課す。									
<b>評価方法</b> 定期試験70%、レポート等30%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理演習		シラバスコード	6C09	担当教員	奥山哲也、富岡寛治			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b>									
<p>無数の実験データの統計解析や実験結果の視覚化などはコンピュータの得意分野であるが、ユーザー側の活用法によってはその機能が十分発揮できない場合がある。また、インターネット上にはX線結晶構造をはじめとする多くのデータ蓄積がなされている。本講義では、コンピュータプログラム及び表計算ソフトを活用した実験データ解析法やビジネス文書作成技術・プレゼンテーション技法を中心にコンピュータ利用技術の習得を目指すとともに、インターネット上のデータベースからデータを取得し、可視化する技術の習得を目指す。</p>									
<b>到達目標</b>								<b>JABEE プログラム目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報技術に関する基礎知識の習得と応用ができる</li> <li>2. データ解析ができる</li> <li>3. プレゼンテーションができる</li> <li>4. インターネット上のX線構造データを取得し、可視化できる</li> </ol>								B-2	
<b>学習内容</b>									
<p>前半（奥山担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスおよびデータベースの基礎</li> <li>2. データベースの活用とデータ抽出</li> <li>3. 行列と連立方程式</li> <li>4. 統計と回帰分析</li> <li>5. 微分積分と方程式の解法</li> <li>6. 多変量解析の手法</li> <li>7. 確認試験（1）</li> </ol> <p>後半（富岡担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Excel-VBとマクロによる表計算の自動化</li> <li>2. 補間法，外挿の注意</li> <li>3. 連立1次方程式の解き方（クラメール，ガウスジョルタン法）</li> <li>4. X線結晶構造データベース（CCDC，PDB）</li> <li>5. 可視化ソフト（RasMol，MOLEKEL，ORTEP）の活用</li> <li>6. ヘモグロビンの酸素運搬の構造理解と鎌状赤血球のメカニズム</li> <li>7. 確認試験（2）</li> </ol>									
<b>教材および参考図書</b>									
<p>テキスト，教材等は使用しない。 必要時に資料を配布する。</p>									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>									
<p>パソコンを利用した演習中心の講義形態で行う。 各自でUSBメモリ等の記録メディアを準備すること。 基本は、自己学習形式であり与えられた課題について計画的に遂行することが重要である。 学習途中に成果発表としてプレゼンテーションを実施する場合がある。</p>									
<b>評価方法</b>									
<p>評価： 確認試験（1）50%、確認試験（2）50%、総合評価100%として評価する。 評価基準： 総合評価で60点以上を合格とする。 再試験： 2年生終了時まで2回程度実施し、60点以上を合格、最高60点とする。</p>									

授業科目名	応用数理I		シラバスコード	6C10	担当教員	酒井道宏			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学で現れる諸現象を記述する微分方程式が、解析的に解ける場合についてその解法を演習をもち込んで教授するとともに解の結果の考察から、数式化による諸現象の解明に対して、興味をいだかせることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 微分方程式を体系的に学習することによって、幅広い数学の知識を得る。 2. 自然現象に微分方程式を適用し、現象を解明する問題解決能力の向上を図る。 3. 適切な課題問題を解くことにより、継続的に学習できる自己学習能力の向上を図る。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 変数分離形の1階常微分方程式 2. 1階線形微分方程式 3. 完全微分系 4. 1階線形微分方程式の応用例 5. 高階常微分方程式の階数降下法 6. 2階線形同次微分方程式と非同次微分方程式 7. 記号解法 8. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 1 9. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 2 10. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 3 11. 1階偏微分方程式 12. ラグランジュの偏微分方程式 13. 定数係数2階線形偏微分方程式 14. 波動方程式 15. 拡散方程式とラプラス方程式									
<b>教材および参考図書</b> 教科書 : 明解 微分方程式, 長崎憲一、横山利章、中村正彰 共著, 培風館 参考図書 : 微分方程式概論, 神保秀一著, サイエンス社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書を使用し、教科書にそって授業を進める。公式の導出や証明は省略せず説明を行い、授業の中での演習のみでは不足するため、多くの課題を与える。									
<b>評価方法</b> 筆記試験の結果を100%で評価する。 再試験を行う。評価方法は本試験の筆記試験の評価方法に同じ。 60点以上を合格とする。									

授業科目名	応用数理Ⅱ		シラバス コード	6C11	担当教員	檜崎 亮			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 数学は多くの工学系教育にとって欠かすことのできない科目である。本科目ではこれまでに学んだ平面ベクトルや空間ベクトルを抽象して一般のベクトル空間を考え、このベクトル空間の性質を学ぶことにより、抽象的概念と具体例がどのように結びつくのかを理解する。また、一般的な連立1次方程式の解法を習得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 抽象的概念が理解できる。 2. 線形写像の表現行列が求められる。 3. 連立1次方程式の解が求められる。								JABEE プログラム目標  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 抽象的ベクトル空間 2. 1次結合と部分空間 3. 線形写像 4. 1次独立と1次従属 5. ベクトル空間の基底・次元 6. 基底の間の関係 7. 線形写像の行列表現 8. ランク (階数) 9. 連立1次方程式の解の存在定理 10. 連立1次方程式の解法									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：川久保勝夫 著「線形代数学」, 日本評論社 参考書：近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数1 ベクトル空間と行列式」, 数学書房 近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数2 線形写像と行列の標準化」, 数学書房									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業の進め方は講義が主である。抽象的概念の理解のためには具体的な例を用いた演習が必須であるため、授業でいくつかの例を説明するだけでなく課題レポートとして他の例にも触れてもらう。  本科目を受講するにあたって、今までに学んだ行列や行列式についての知識は前提とする。									
<b>評価方法</b> 期末試験70%, 課題レポート30%を目安として評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 なお、総合評価が40点以上60点未満のものについては、再試験を1回のみ実施する。									





授業科目名	物性化学		シラバス コード	6C13	担当教員	辻 豊			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 化学の大きな柱である「化学結合論」と「化学熱力学」について物質の性質、身の回りの変化を通して学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 原子軌道、分子軌道が理解できる。 2. $\sigma$ 結合、 $\pi$ 結合が分子軌道により説明できる。 3. 電気伝導性などの物質の性質が分子軌道により理解できる。 4. 身の回りの変化が化学的に理解できる。 5. 化学変化を支配するものが理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 原子の構造と周期表（周期表の謎） 2. 物質の性質と結合（結合の特徴） 3. 原子軌道と共有結合（炭素同素体の秘密） 4. 分子軌道入門1（導電性ポリマーの秘密） 5. 分子軌道入門2（光と物質の色） 6. 分子間力・水素結合（水の特異性） 7. 物質の三態（状態図の見方、氷はなぜすべるのか？） 8. 仕事と熱（エアコンはなぜ冷えるのか？） 9. 気体の法則（温度と圧力の関係） 10. 反応の速度（反応の速度は何によって決めるのか？） 11. 化学反応と熱の出入り（熱力学第一法則） 12. エントロピーと変化（熱力学第二法則） 13. 酸と塩基（ブレンステッドの定義と酸解離定数） 14. 酸と塩基（ルイスの定義とHSAB） 15. まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜配布します。参考図書：「ライフサイエンス基礎化学」青島 均・右田たい子著（化学同人）、「フォトサイエンス化学図録」（数研出版）、「フロンティア軌道論で化学を考える」友田修二著（講談社ライフサイエンス）、「入門化学熱力学」松永義夫著（朝倉書店）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的にチョークアンドトークにより進めて行きます。適宜スライドを用います。できるだけ日常生活の「変化」を化学的な観点から、説明して行きたいと思えます。日常の生活において「なぜ？」と感じたことがありましたら、質問してください。									
<b>評価方法</b> 成績評価は定期試験（100%）により行います。60点以上を修得とします。（選択科目なので再試は行いません。）									

授業科目名	画像工学		シラバスコード	6C14	担当教員	黒木祥光			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 画像情報は単なるメディアの一つではなく、工学において、非常に重要な外部情報とみなすことが出来る。本科目では、2次元のデータであるデジタル画像と、3次元の実世界との対応関係、いわゆるコンピュータビジョンの基礎知識の習得を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 様々な射影法とカメラモデルについて説明できる。 2. 様々なカメラにおける変換群について説明できる。 3. エピポーラ幾何について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1 投影とカメラモデル 1.1 投影 1.2 無限遠と射影空間 1.3 斉次座標 1.4 透視カメラと射影カメラ 1.5 弱透視カメラとアフィンカメラ  2 視覚における不変性と対象物の認識 2.1 変換群 2.2 平面に対する不変量 2.3 平面でない対象物に対する不変量  3 エピポーラ幾何 3.1 エピポーラ幾何とは 3.2 透視カメラのエピポーラ幾何 3.3 射影カメラのエピポーラ幾何 3.4 アフィンカメラのエピポーラ幾何 3.5 並進カメラのエピポーラ幾何  4 形状復元 4.1 校正済みの射影カメラによる復元 4.2 校正済みアフィンカメラによる復元 4.3 ユークリッド復元  5 カメラの校正									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：佐藤 淳, コンピュータビジョン-視覚の幾何学- (コロナ社) 参考書：金谷健一, 画像理解-3次元認識の数理- (森北出版) 徐 剛, 辻 三郎, 3次元ビジョン (共立出版) 出口 光一郎, ロボットビジョンの基礎 (コロナ社)									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> コンピュータビジョンでは線形代数の知識が必須である。講義では出来る限り詳細かつ丁寧な説明を心掛けるので、ノートをしっかりとして欲しい。また、受講生には必要に応じて本科で学んだ線形代数の復習をお願いしたい。									
<b>評価方法</b> 定期試験100%にて評価する。再試験は定期試験と同形式とし、上限を60点とする。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理		シラバスコード	6C15	担当教員	松島 宏典			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 統計解析とグラフィックスのためのソフトウェアであり、様々なプラットフォーム上で動作させることができるR言語のプログラミング技術を、種々の数値計算方法・統計解析方法、画像処理手法と共に習得する。									
<b>到達目標</b> 1. 数値計算方法・統計解析方法について説明できる。 2. R言語によりデータマイニングができる。 3. R言語によりグラフィックス処理ができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. Rの特徴と実行方法 2. 演算子・条件分岐・繰り返し 3. ベクトル 4. 行列 5. データフレーム 6. データマイニング 7. 確率分布 8. コホート分析 9. 回帰分析 10. 画像処理									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：プリント教材など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業は講義形式とし、演習を交えながら進めていく。適宜課題を課すものとする。R言語プログラミングは、制御情報実験室で行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験の結果80%、課題20%を目安として評価する。 60点以上を合格とし、再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	創造工学実験		シラバスコード	6C16	担当教員	津田祐輔・伊藤義文			
期間	前期	授業形態	実験	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 与えられた研究テーマではなく、自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施し、プレゼンテーション、報告書（必要に応じて特許）にまとめることができる能力の育成									
<b>到達目標</b> 1. 自主的にテーマを企画立案しプロポーザルにまとめることができる。 2. 立案したテーマを実施するために、必要な情報の収集、実験準備を自主的に行うことができ、かつ、継続して実施することができる。 3. 成果をプレゼンテーション、報告書（必要に応じて特許）にまとめることができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  F	
<b>学習内容</b> 1. イントロダクション（プルポーザル、進捗報告会、最終発表会、報告書など） 2. ポロポーザル作成のためのディスカッション、調査、アドバイス 3. ポロポーザル作成のためのディスカッション、調査、アドバイス 4. プロポーザルの提出及び説明、生物応用化学プログラム関係教職員への公開 5. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 6. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 7. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 8. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 9. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 10. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 11. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 12. 進捗報告（毎週1回）、ディスカッション、アドバイス 13. プレゼンテーション 14. 報告書まとめ 15. 報告書提出									
<b>教材および参考図書</b> これまでの創造工学実験報告書（製本している）。 文献検索（インターネット、JSTなど）・特許検索（特許庁ホームページ）など。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教員はアドバイスをするに留め、企画・立案、実験器材・材料の発注（教員、技術職員の補助で）、実験、まとめ、（特許作成）まで学生の自主性に任せる。実験を行うにあたっては事前に当該分野に習熟している教員、技術職員のアドバイスを受ける。									
<b>評価方法</b> 実験の進捗（50%）、発表（25%）、論文（25%）を2教員の平均点で評価する（必要に応じ各専門分野の教員を加える）。不適当な場合には特別教育期間などを利用し、再実験を行なう。 評価基準：60点以上を合格とする									

授業科目名	先端工学特論		シラバスコード	6C17	担当教員	専攻科主事補				
期間	後期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b>										
<p>本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端技術、工学的・工業的諸問題、及びそれらが影響を与える社会問題等に関心をもち、工業技術者としての視野を広めることができる</li> <li>2. それぞれの専門分野の知識を基礎として、エネルギー、環境、新技術、自然科学などの問題に対して工学的に考察できる</li> <li>3. それぞれに関わる科学技術の要点を理解し、客観的な評価ができる</li> </ol>										A-2
<b>学習内容</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送大学特別講義（ビデオ） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太陽光発電新時代</li> <li>2. レーザー核融合</li> <li>3. 大気汚染と保全</li> <li>4. 水の汚濁と浄化</li> <li>5. 廃棄物の処理とリサイクル</li> <li>6. 渇く大地・溺れる大地</li> <li>7. 色の科学（分光発色理論）</li> <li>8. 新技術による結晶構造解析</li> <li>9. 発見者が語るカーボンナノチューブ</li> <li>10. 世界最高速の計算機を創って進める科学</li> <li>11. うま味発見100年～その先端科学を探る</li> <li>12. 磁気不思議と医学応用</li> <li>13. ウェーブレットと錯視</li> <li>14. 数学で解く心の世界～計算エラーはなぜ起こるのか～</li> <li>15. 宇宙の新しい目「重力波望遠鏡」</li> </ol> </li> <li>・学内外における特別講義・特別講演等で構成</li> </ul>										
<b>教材および参考図書</b>										
先端工学特論報告集、講演会での配布資料										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>①放送大学特別講義（ビデオ）と②学内外における特別講義・特別講演等で構成されている。講演などでは福祉問題、環境問題、エネルギー問題、地域企業の先端技術、人文・社会問題、専門及び専門関連分野等の中から、自主的に興味のある学術・技術的題目を選んで聴講する。①のビデオ学習のレポートは、15回のレポートの内8編以内を受け、学生には前期授業時間割に従って15回開催を通知する。②は随時、専攻科に開催の案内をし①②とも毎回、所定の報告書を担当教員へ提出する。</p> <p>関連科目：環境倫理学など</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>提出されたそれぞれのレポートの内容を教育目的に応じて、A；7点、B；6点、C；5点、D；4点の4段階に評価する。</p> <p>評価基準：累積点60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1・2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科研究論文		シラバスコード	6C18	担当教員	生物応用化学科全員				
期間	1年通年・2年前期	授業形態	実験		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	10
<b>授業の目的</b>										
○実験などを自ら計画・遂行できる。○実験などの結果を解析し、工学的に考察できる。○該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる。○日本語による論理的な記述力、口頭発表、討議などのコミュニケーション能力をつける。○自主的、継続的に学習できる能力を身に付ける										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任が理解できる</li> <li>2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる</li> <li>3. 該当する分野の専門技術に関する知識を問題解決に応用することができる</li> <li>4. 日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを通してコミュニケーションを図ることができる</li> <li>5. 自主的、継続的に学習することができる</li> </ol>										D, F
<b>学習内容</b>										
<p>選択したテーマを対象に、一年半に亘り教員の指導の下に研究を推進し、研究論文としてまとめ上げるが、概ね以下の項目に沿って実施、学習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験目的の把握</li> <li>2. 文献の調査</li> <li>3. 実験計画の立案</li> <li>4. 実験の遂行</li> <li>5. 実験データの整理および考察</li> <li>6. 論文構成の検討</li> <li>7. 図表の作成</li> <li>8. 論文の作成</li> <li>9. 要約の作成</li> <li>10. プレゼンテーション資料の作成</li> <li>11. プレゼンテーションの仕方</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
教科書 ; 特になし。自ら関連する論文、資料をさがす。										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>専攻科入学後に提示された研究題目の研究内容概要を読み、興味ある研究テーマを選択する。指導教員の承認を得た後、基本的には一人が一つのテーマで正式に配属が決定する。この科目は2年前期まで継続して研究活動を行うが、最終的には研究論文を作成し、研究論文について口頭発表を行う。研究論文の書式および発表形式などについては別途定める。</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>専攻科研究論文の評価は2年の前期にまとめて実施する。評価方法は以下のとおり。1. 卒業研究論文についての評価（卒業研究への取組み姿勢、実験ノート記載能力、計画性、基礎工学知識による問題解決能力、自己学習能力、論文構成及び内容）：60点 2. 試問評価（要旨内容構成、発表態度、プレゼン用資料、質疑応答）：40点 1と2を合わせて100点で評価し、60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	有機反応化学		シラバスコード	6C19	担当教員	石井努			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 現在、有機化学において数百万以上に及ぶ有機合成反応が知られている。これらの有機反応より様々な有機化合物が合成され、人類の生活を支える物質の重要な構成成分として利用されている。本講義では、現在知られている様々な有機反応を反応様式により分類して、それらの反応機構を有機反応論及び有機電子論の立場から学ぶことを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 広範囲の有機反応を学び、それら反応機構を有機反応論の立場から理解できる。 2. 電子の動きを示す矢印を用いて反応機構を説明できる。 3. 協奏反応を有機電子論の立場から理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. イントロダクション：有機反応機構と有機反応論 2. 1分子的求核置換反応 3. 2分子的求核置換反応 4. 1分子的脱離反応 5. 2分子的脱離反応 6. 求核付加反応 7. 求核付加-脱離反応 8. 中間まとめ 9. 協奏反応：Woodward-Hoffmann則 10. 協奏反応：付加環化反応 10. 協奏反応：電子環状反応 11. 協奏反応：シグマトロピー転位 13. 求電子付加反応 14. 芳香族置換反応 15. 全体のまとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書： 有機反応論、加納航治著、三共出版 参考書： 有機反応のメカニズム、加藤明良 著、三共出版 有機電子論解析、井本稔 著、東京化学同人									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書とプリントを併用し、授業内容を白板に板書し、またはプロジェクターで投射して、それらについて説明する。有機反応論を理解するために、反応機構の説明では電子移動を矢印で示す。 予習と復習を前提とした授業を行う。 毎週、前回の講義内容について試験を行う。 関連科目： 有機化学、有機構造化学									
<b>評価方法</b> 毎週の試験から評価する（評価基準： 平均点・60点以上を修得とする）。 必要に応じて再試験を行う。60点以上を合格（60点）とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	生体機能分子学		シラバスコード	6C20	担当教員	中 蔭 裕 之			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 生体の機能を分子レベルで理解するために、生体内に存在する水分子及び高分子物質等の基礎知識並びにそれらの相互作用に関する知見を学習する。									
<b>到達目標</b> 1. 生体高分子等重要な分子の構造と物性、機能を理解・説明できる。 2. 細胞内での生体分子の状態を総合的にイメージすることができる。 3. 代謝における生体分子の役割を理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 細胞の構造 2. オルガネラの構造と働き 3. オルガネラの起源 4. 膜の構造 5. 膜のタンパク質 6. 細胞膜の機能 7. 膜における物質輸送 8. 糖代謝 9. 脂質, アミノ酸の代謝 10. エネルギーの代謝 11. 核酸の構造 12. 遺伝学の歴史 13. 遺伝子の働き 14. 転写・翻訳 15. まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材：作成したプリント 参考図書：分子生物学講義中継part0上・下巻 井出利憲著 羊土社 生化学 八木達彦, 尾形真理著 裳華房 コンスタンプの生化学 田宮信雄, 八木達彦訳 東京化学同人									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 作成したプリントを基に講義を進める。前半は、本科で学んだ細胞の構造及び働きを復習し、後半は、代謝に関する復習から遺伝学の基礎についての講義を行う。専攻科1年前期の「生体物質化学」と継続させた内容にする。従って、本科の内容を復習しておき、各単元を関連付けることができるように整理しておくこと。									
<b>評価方法</b> 定期試験を100%をとして評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を修得とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	生体物質化学		シラバスコード	6C21	担当教員	笈木 宏和			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 生体物質を取り扱う技術者に必要な基礎的な生体物質の特性、機能および単離法、化学修飾について学び、工業への応用を身につける。									
<b>到達目標</b> 1. 生体物質を取り扱う技術者に必要な基礎的な生体物質の特性、機能について学ぶ。 2. 生体内における酵素反応、代謝反応の仕組みについて学ぶ。 3. 生体触媒を工業的利用への応用について学ぶ								<b>JABEE プログラム目標</b>  C -1	
<b>学習内容</b> 1. ガイダンス 2. 糖の構造と分類、代謝 3. 炭水化物の構造と分類、代謝 4. 脂質の構造と分類、代謝I 5. 脂質の構造と分類、代謝II 6. アミノ酸の分類、代謝 7. 抗生物質 8. 内容のまとめ 9. ビタミン 10. 医薬品 11. 生理活性物質（植物・動物ホルモン、神経伝達物質など）I 12. 生理活性物質（植物・動物ホルモン、神経伝達物質など）II 13. 環境汚染と代謝 14. 難分解化合物の代謝 15. 内容の総まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：マクマリー 生物有機化学 II 生化学編 菅原二三男 監訳 丸善株式会社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義形式にて行う。本科の生物応用化学科生物コースで学んでいた内容を基本として、生体有機物質の役割および代謝メカニズムについて学んでいく。コース毎に理解度の差が出るのが考えるため、相互に意見を交換しあったり、わからないことはきちんと質問して下さい。  関連科目：生物有機化学II、代謝工学、機能性高分子									
<b>評価方法</b> 定期試験（中間試験＋期末試験）90%、課題レポート10%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	機能有機材料特論		シラバスコード	6C22	担当教員	津田祐輔			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 有機化学・物理化学・生物化学・高分子化学などの基礎知識に基づき、化学工業において広範に用いられている機能有機材料について見識を深め、化学の機能有機材料工学への応用について知る。特に高専本科であまり学ぶ機会が少ない分野（油脂、界面化学材料、香料、化粧品、色素、印写、医薬・農薬、有機ケイ素材料、有機フッ素材料）にも焦点をあてる。									
<b>到達目標</b> 1. 有機化学・物理化学・生物化学・高分子化学などの基礎知識を再確認する。 2. 化学（科学）の機能有機材料への応用を知る。 3. 最先端の機能有機材料に関する知識を身につける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. ナノテクノロジーと有機化合物（1） 2. ナノテクノロジーと有機化合物（2） 3. 油脂と界面化学材料（1） 4. 油脂と界面化学材料（2） 5. 香料・化粧品（1） 6. 香料・化粧品（2） 7. 色素材料（1） 8. 色素材料（2） 9. 印写材料（1） 10. 印写材料（2） 11. 有機ケイ素材料（1） 12. 有機ケイ素材料（2） 13. 有機フッ素材料（1） 14. 有機フッ素材料（2） 15. 機能有機材料総括									
<b>教材および参考図書</b> 「ナノテクノロジーと有機材料」 服部憲治郎・山本靖 著 米田出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書を中心とした講義形式だが、随所にパワーポイント教材、ビデオ教材を加える。 有機化学、高分子化学の復習も随所に加える。									
<b>評価方法</b> 定期試験 100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う（上限60点）。 評価基準：60点以上を合格とする。									

授業科目名	高分子材料特論		シラバスコード	6C23	担当教員	森 哲夫			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 高分子材料の用途は今後も広がると予想される。高分子材料を取り扱う技術者に必要な高分子の熱的性質や機械的性質を理解する。									
<b>到達目標</b> 1. 高分子化合物のガラス転移現象の重要性、意味を習得する 2. 高分子化合物が粘弾性物質であることを理解し、その熱的、機械的挙動を理解する能力を習得する 3. 材料としての高分子を選択や問題解決能力を身につける								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 高分子の一次・二次・高次構造について 2. 高分子の熱的性質：ガラス転移温度について 3. 高分子の応力-ひずみ曲線 4. 無定形高分子の弾性率-温度曲線に及ぼす架橋、結晶度、可塑剤の影響 5. 無定形高分子の弾性率-温度曲線に及ぼす共重合組成、ブレンド組成の影響 6. 無定形高分子の弾性率-温度曲線に及ぼす架橋、結晶度、相分離の影響 7. 高分子の粘弾性モデル：マックスウエルモデル、フォークトモデル 8. 弾性体、粘性体、粘弾性モデルの変形：一定応力を加える 9. 弾性体、粘性体、粘弾性モデルの変形：一定ひずみを加える 10. 弾性体、粘性体、粘弾性モデルの変形：一定ひずみ速度を加える 11. 高分子の動的粘弾性：バネ、ダッシュポット、マックスウエルモデルに周期的ひずみを加える 12. 高分子の動的粘弾性：フォークトモデルに周期的ひずみを加える 13. 力学モデルと電気回路の対応：バネ、ダッシュポット、マックスウエルモデル 14. 力学モデルと電気回路の対応：フォークトモデル 15. ゴム弾性について									
<b>教材および参考図書</b> 教材：基本的な重要事項はおよそ50ページプリントを配布する。 参考図書：高分子と複合材料の力学的性質（小野木重治訳、化学同人） はじめての高分子化学（井上祥平著、化学同人）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 高分子の不均質性をキーワードに授業を進める。 高分子の熱的性質（例えば、弾性率・誘電正接の温度変化曲線）のデータを示しそのデータから、何が解るかを解説したり自分で考えたり、対話方式を取り入れながら授業を進める。									
<b>評価方法</b> 定期試験100%で評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	機能材料学		シラバスコード	6C24	担当教員	奥山哲也			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年の情報伝達や機械制御等の工業技術を支えているコンピュータの発達は、半導体・誘電体・磁性体材料等の機能的物性を活用したエレクトロニクス技術を基礎としている。エレクトロニクス技術の基盤となるのは機能性材料である。本講義では、導電体・半導体など各種機能性材料の基礎的性質から最近の高度技術について学習する。									
<b>到達目標</b> 1. 機能性材料について説明できる。 2. 導電体・半導体材料の電気伝導機構について説明できる。 3. 誘電体・磁性体材料についての概要を説明できる。 4. 光学材料の特徴について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 結晶学の基礎(含 規則構造) 2. 機能性材料の種類 3. スtringsポテンシャル近似 4. XRD回折の応用 5. 量子力学の基礎 6. 結晶構造中の電子の振舞い 7. 金属中の電気伝導 8. 周期ポテンシャル 9. 導電体材料の基礎知識 10. 抵抗材料の基礎知識 11. 半導体材料の基礎知識 12. 誘電体材料の基礎知識 13. 光学材料の基礎知識 14. 磁性材料の基礎知識									
<b>教材および参考図書</b> 参考書：機能材料の基礎知識 神藤欣一 著 (産業図書) プリントを適宜配布する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> プリントを適宜配布しながら講義を実施する。途中レポート提出を課す場合がある。 出欠はきびしくとり、他の学生に迷惑がかかるような学習態度が見られる場合は途中退席を命じる。 講義において不明な点は授業の妨げにならない程度でその都度質問に応じる。 講義内容は固体物性を基本とし、基礎知識を十分身につけていないとついていけないため、状況に応じてレポートを課す場合がある。授業内容の復習を欠かさないと推奨する。 課題遂行状況に応じて中間試験実施の有無を決定する 関連科目 材料物性学 I, II A, II B、金属物理学									
<b>評価方法</b> 中間試験を実施した場合は中間試験50%、期末試験50%として評価し、実施しなかった場合は期末試験のみで評価する。 再試験は原則的に実施しないが、該当者の成績次第によっては必要に応じて全範囲について1回のみ行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	生物応用化学特論		シラバスコード	6C25	担当教員	生物応用化学科長 他			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 生物応用化学コースのバイオテクノロジー分野で、先端領域及び実用化生産技術について学習し、実践的工業技術者の資質向上を図る。									
<b>到達目標</b> 1. 特にバイオテクノロジーの先端知識を習得する。 2. シミュレーターを使った生産技術の開発知識を体験する。 3. 専門知識を活用し、社会の要求を解決する方法を知る。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 生物応用化学コースのバイオテクノロジー分野で、先端領域及び実用化生産技術について講義・演習・実験を行う。 最先端のバイオ研究の視野を広げるため、大学の研究施設を見学する。									
<b>教材および参考図書</b> 各講義の配布資料をテキストとする。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 外部講師を企業・研究機関から数名招聘し、最先端の技術を幅広く知る。 聴講、レポート作成に当たっては、高専本科（準学士課程）で身に着けた基礎知識を活用し、不備な点があれば復習する。 本講義は、サマーレクチャーとして本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義として実施する。 但し、本年度は、本講義は実施しない。									
<b>評価方法</b> 各講義、施設見学のレポートを複数教員で平均して評価する。 再試験は原則実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	材料工学特論		シラバス コード	6C26	担当教員	材料工学科長			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b>									
材料工学科分野の高度技術や先端技術について習得する。									
<b>到達目標</b>								<b>JABEE プログラム目標</b>	
1. 材料工学に関する実用的なトピックスについて説明できる。 2. 材料工学に関する実用的な諸問題について説明できる。 3. 材料工学に関する実用的な先端技術について説明できる。								C-1	
<b>学習内容</b>									
実用面から特化した構造材料や機能性材料についてテーマを選定し、基礎・応用および最新技術について講義する。講師は他の教育機関、企業からも招聘する。									
<b>教材および参考図書</b>									
教科書： 各講義の配布プリント									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>									
講義および見学会を含んだ集中講義形式で実施する。 なお、本科目は毎年開講されるものではない。 平成22年度については開講予定なし。									
<b>評価方法</b>									
評価： 各講師から課されるレポート・演習問題等によって総合的に評価する。 評価基準： 総合評価で60点以上を合格とする。 再試験： 原則実施しない。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅲ		シラバスコード	7C01	担当教員	江島孝則				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b>										
<p>ニケーションの場において自由に自分の考えを相手に伝えたり、相手の言うことを理解するための英語力を養成することにある。教科書のTOEIC問題の演習を通してコミュニケーションな英語を習得すること。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>英語で自分の考えを相手に伝えることができ、相手の言うこともある程度理解できる能力を習得すること。</li> <li>TOEICで400点程度のスコアを取れる能力を養成すること。</li> <li>語彙力を強化すること。</li> </ol>										E
<b>学習内容</b>										
Unit 1 Part 1 写真描写問題①、 Part 5 短文穴埋め問題① Unit 2 Part 1 写真描写問題②、 Part 5 短文穴埋め問題② Unit 3 Part 1 写真描写問題③、 Part 5 短文穴埋め問題③ Unit 4 Part 2 応答問題①、 Part 5 短文穴埋め問題④ Unit 5 Part 2 応答問題②、 Part 5 短文穴埋め問題⑤ Unit 6 Part 2 応答問題③、 Part 5 短文穴埋め問題⑥ Unit 7 Part 2 応答問題④、 Part 5 短文穴埋め問題⑦ Unit 8 Part 2 応答問題⑤、 Part 5 短文穴埋め問題⑧ Unit 9 Part 2 応答問題⑥、 Part 5 短文穴埋め問題⑨ Unit10 Part 3 会話問題①、 Part 5 短文穴埋め問題⑩ Unit11 Part 3 会話問題②、 Part 6 長文穴埋め問題① Unit12 Part 3 会話問題③、 Part 6 長文穴埋め問題② Unit13 Part 3 会話問題④、 Part 6 長文穴埋め問題③ Unit14 Part 3 会話問題⑤、 Part 6 長文穴埋め問題④ Unit15 Part 3 会話問題⑥、 Part 7 読解問題・1つの文書① Unit16 Part 3 会話問題⑦、 Part 7 読解問題・1つの文書② Unit17 Part 3 会話問題⑧、 Part 7 読解問題・1つの文書③ Unit18 Part 4 説明文問題①、 Part 7 読解問題・1つの文書④ Unit19 Part 4 説明文問題②、 Part 7 読解問題・1つの文書⑤ Unit20 Part 4 説明文問題③、 Part 7 読解問題・1つの文書⑥ Unit21 Part 4 説明文問題④、 Part 7 読解問題・1つの文書⑦ Unit22 Part 4 説明文問題⑤、 Part 7 読解問題・2つの文書① Unit23 Part 4 説明文問題⑥、 Part 7 読解問題・2つの文書② Unit24 Part 4 説明文問題⑦、 Part 7 読解問題・2つの文書③										
<b>教材および参考図書</b>										
The TOEIC Test Practice With Core Vocabulary Book 2(SEIBIDO) 及びプリント教材等										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>授業に遅れることなく参加することは基本である。出席は授業の最初にとる。            授業はテキストにそって進める。毎週、課題あり。適宜、TOEIC模擬テスト実施をする。</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>数回の模擬試験及び期末試験で80%、提出された課題レポート20%で評価する。            再試験は必要に応じて行う。            評価基準：60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	工学倫理		シラバス コード	7C02	担当教員	東島光雄			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 技術者倫理に関する事例研究の学習を通して、技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を身に付ける。									
<b>到達目標</b> 1. 技術者倫理に関する様々な事例を理解する。 2. 事例が意味することの分析の仕方を理解する。 3. 技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を自覚する能力を身に付ける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1	
<b>学習内容</b> 1. 技術者倫理とは 2. 専門家の責任（チャレンジャー号事故ビデオ） 3. 安全と設計（日航ジャンボ機墜落事故） 4. 消費者を守る責任（雪印乳業集団食中毒事件） 5. 製造物責任 6. 知的財産権 7. 倫理規定 8. 人々の安全が優先 9. 内部告発の条件 10. 専門家の責任									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：新はじめての工学倫理、齋藤了文他。昭和堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 事例研究をメインとする。 適宜ビデオ学習を併用する。 「事件事例を集めたHP」から事例を調べてレポート提出を課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般Ⅱ		シラバス コード	7C03	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理III		シラバスコード	7C04	担当教員	菟田智恵子			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> ベクトル場の微分積分であるベクトル解析を学ぶ。ベクトル解析は工学、理学で重要な道具であるため、理論の習得はもちろんの事、計算が出来るようになる事を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 線積分、面積分の理解及び計算ができるようになる。 2. ベクトル場、接空間、余接空間、微分形式を知識として得る。 3. 様々な数学書をあたり、疑問点を自分で調べ事が出来るようになる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. ベクトルの復習 2. ベクトルの微分 3. スカラー場とベクトル場 4. 勾配・発散・回転 5. 線積分の定義 6. グリーンの定理 7. 面積分の定義 8. ガウスの定理 9. ストークスの定理 10. 微分形式入門									
<b>教材および参考図書</b> 教科書は特に指定しない。しかし、授業中に、参考書は何冊か紹介する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 標準的なベクトル解析の参考書に沿って講義します。説明が中心となりますが、受講者の理解度に応じて、問題演習の時間を設けます。講義で解らないところは質問してもらおう事が第一ですが、図書館などでベクトル解析の本を読んで、自分で解決する事も希望します。									
<b>評価方法</b> 総合点で100点満点で60点以上を合格とする。筆記試験の点数をA(100点満点)、授業中に行う演習とレポート課題による評価をB(50点満点)としたとき、 (評価点) = A + (1 - 0.01A)B とする。 評価点が60点に満たないものに対しては再試験を行う。ただし、再試験による評価点の上限は60点とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	統計力学及び熱力学		シラバスコード	7C05	担当教員	越地尚宏			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 微視的世界と巨視的世界を結びつける橋としての統計力学・熱力学の基礎を学び、比熱や内部エネルギー、エントロピーの概念を学び、これらの巨視的な特徴を分子論的に導く									
<b>到達目標</b> 1. 物質の熱的性質を理解し、必要に応じて、解析と応用ができるようになる。 2. マクロな熱的性質の起源を分子論的見地から理解する 3. 上記の内容に関連した基礎的な演習問題が解けるようにする。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 熱力学の基礎 2. 熱力学の第1法則 3. 仕事とエネルギー 4. エネルギー保存則と仕事の原理 5. 熱力学の第2法則 6. 熱力学からみたエントロピー 7. 統計力学の考え方 8. 統計力学からみたエントロピー 9. 統計力学と熱力学の融合 10. 比熱についてマイクロおよびマクロな視点から考える									
<b>教材および参考図書</b> 熱・統計力学 岩波書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を主体にして、また必要に応じてその理解を深めるために積極的に演習を行う。また適宜、演示実験、ビデオ教材、コンピューターシミュレーション等を活用していく。									
<b>評価方法</b> 定期試験による評価を80パーセント、上記の演習やレポートによる評価を20パーセントとし、これらを総合的に評価する。60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門 I		シラバス コード	7C06	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 専門知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1 B-2 C-1	
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論専門 I として認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門Ⅱ		シラバス コード	7C07	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 専門知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1 B-2 C-1	
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論専門Ⅱとして認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	技術英語		シラバス コード	7C08	担当教員	泉本 英次				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b> 技術者にとって英語によるコミュニケーション能力が重要であることは今さら言をまたない。技術英語力を養成するには、英語の基礎ならびに専門分野に関する論理的な思考力が必要であり、これらを修得することによって、生物応用化学に関連した英文教科書が通読できる程度の読解力を養成することを目的とする。										
<b>到達目標</b> 1. 英文の技術文書に現れる数式やグラフに関する基本的な慣用表現が理解できる 2. 論文や実験レポートに現れる単熟語や慣用表現が理解できる 3. 生物応用化学に関連した技術論文や教科書等の長英文の技術内容を的確に把握できる									JABEE プログラム目標  E	
<b>学習内容</b> 1. 英語による自己紹介文の作成（授業ガイダンスを含む） 2. 科学英語の基礎（簡単な数字） 3. 科学英語の基礎（グラフ） 4. 科学英語の基礎（単語） 5. 科学英語の表現 1 6. 科学英語の表現 2 7. 科学英語の表現 3 8. 科学英語の表現 4 9. 英文輪読 1 （Biochemical EngineeringやTransport Phenomenaなど、生物・化学工学関連の英文教科書や論文を、輪読形式で読み進めながら和訳と技術内容の解説を行わせる） 10. 英文輪読 2 11. 英文輪読 3 12. 英文輪読 4 13. 英文輪読 5 14. 英文輪読 6 15. まとめならびにレポート作成										
<b>教材および参考図書</b> 教科書： 多田旭男ら著、アクティブ科学英語、三共出版										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義の前半は教科書を用いて、技術英文で多用される数式やグラフに関する表現、ならびに技術論文等で慣用的に用いられる表現や単熟語について学習する。後半では、生物・化学工学系論文や教科書などから長文を選び、輪読形式で読み進めることによって、英文で記載された技術内容を的確に把握する能力を培う。輪読時に英文の和訳、内容の説明がスムーズにできるよう予習を十分行い授業に望むこと。  関連科目： 実践英語 I, II, III, 工業英語などの英語科目, 化学工学系科目など										
<b>評価方法</b> 講義時に行う小試験と定期試験（70%）およびレポート（輪読部分の和訳・説明）（30%）により総合的に評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科インターンシップ		シラバス コード	7C09	担当教員	専攻科主事及び担当教員			
期間	後期	授業形態	実習	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	7
<b>授業の目的</b> 本学科と専攻科で学んだ工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを、企業等における長期インターンシップで経験し、実践的技術者としての資質を高めることを目的とする。本科目は、本学科と専攻科の最終科目であり、各学生は企業からの評価を受け、その結果を参考にして、学生の自己啓発および専攻科の教育改善を促す。									
<b>到達目標</b> 1. 技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任が理解できる 2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる 3. 該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる 4. 日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを通してコミュニケーションを図ることができる 5. 自主的、継続的に学習することができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  G	
<b>学習内容</b> 専攻科2年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務を行う。予めインターンシップ担当教官が引き受け実施機関の用意しているプログラムを検討・調整しておき、そのプログラムに従って実習する。主な内容は、下記のものとする。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械部品などの組み立て・製作</li> <li>2. 設計・製図・図面の修正</li> <li>3. 操作説明書の作成</li> <li>4. 有機合成反応を利用した物質合成</li> <li>5. 酵素・微生物反応を利用した物質生産</li> <li>6. サンプル調製や加工</li> <li>7. 工場実験の実施ならびにデータ採取・解析</li> <li>8. 実験・試験・測定・データ整理や実験、生産条件の検討・検証</li> <li>9. ワード・エクセルによる実験、解析レポート文書の作成</li> <li>10. 製品の物性測定・品質検査・機器分析などの分析業務</li> <li>11. 計算プログラムの作成</li> <li>12. 報告書及び最終報告書の作成</li> <li>13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表など</li> </ol>									
<b>教材および参考図書</b> 実習内容に関連する文献、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> インターンシップ受け入れ機関を提示し、その中から、担当教官と学生が相談の上、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は10月中旬から2月上旬までの間で、期間は2ヶ月以上4ヶ月以内、企業あるいは研究機関などにおいて実際の業務に従事する。ただし、12月中旬の大学評価・学位授与機高の試験期間1週間は除く。担当教官は、時折、実施機関を訪問し、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、一ヶ月ごとに報告書を担当教官に提出する。インターンシップ終了後直ちに、学生は最終報告書および実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。									
<b>評価方法</b> 複数のインターンシップ関連教員により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	有機構造化学		シラバスコード	7C10	担当教員	津田祐輔			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 有機化学は機能性有機材料、医薬品、高分子材料などの応用と密接な関係がある応用化学の基礎科目である。有機化学は大別して(1)有機構造化学、と(2)有機反応化学に別けられるが、本講義では(1)の有機構造化学に焦点をあてて、有機化学の専門性を高めることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 有機化学における有機構造の重要性が理解できる。 2. 種々の立体構造が理解できる。 3. 分子構造と反応性・物性との関係に関する知識がある。								JABEE プログラム目標  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 分子構造と有機化学 2. 化学結合論の有機構造化学への応用 3. 分子軌道法の有機化学への応用(1) 4. 分子軌道法の有機化学への応用(2) 5. 分子軌道法の有機化学への応用(3) 6. 構造異性体 7. 幾何異性 8. 配座異性 9. 鏡像異性・ジアステレオマー 10. 有機構造の分析(UV) 11. 有機構造の分析(IR) 13. 有機構造の分析(NMR) 14. 有機構造の分析(MASS) 15. 有機構造と機能									
<b>教材および参考図書</b> 高専本学科で用いた有機化学の教科書、機器分析の教科書に配布プリントを加えて実施する。 例：「基礎有機化学」、ハート著、倍風館、江藤守總編著、裳華房 など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> チョーク&ライトを基本とした授業であるが、適宜、演習を加える。									
<b>評価方法</b> 定期試験 100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う(上限60点)。 評価基準：60点以上を合格とする。									



授業科目名	化学工学特論		シラバスコード	7C11	担当教員	泉本 英次			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 地球環境や資源問題など様々な制約条件の下で、効率的に化学プラントの設計を行うにはシミュレーションや最適化などCAE (Computer Aided Engineering) 技術の利用が不可欠である。化学工業におけるCAE利用の実態を理解し、汎用プロセスシミュレータgPROMS (英国PSE社) を実際に使用して、CAE技術利用の意義と方法論を理解・修得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 化学工業における装置・操作設計に関するCAE技術利用の意義と現状が理解できる 2. 簡単な例題で、gPROMSによるモデル化からシミュレーションの実行まで一連の操作ができる 3. 自らの研究テーマを対象にgPROMSによるモデル化を行い、シミュレーションや最適化を実施して得られる情報に基づき、新たな観点から研究に関する考察を加えることができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 化学を取り巻く課題と展望 (授業ガイダンスを含む) 2. 化学工業におけるCAE利用の現状 3. ダイナミックシミュレーションのための反応速度論 4. gPROMSの概要 5. gPROMS言語とモデル構造 6. 貯水タンクモデルの演習 (モデリングとシミュレーションの実行方法) 7. 微生物培養モデルの演習 (回分操作, 半回分操作, 連続操作) 8. ロトカ・ボルテラ (捕食者と被食者) モデルの演習 (モデルパラメータの同定方法) 9. 演習テーマの選定とプレゼンテーション 10. 選定テーマを対象としたモデル化およびシミュレーション/最適化の実習 (1) 11. 選定テーマを対象としたモデル化およびシミュレーション/最適化の実習 (2) 12. 選定テーマを対象としたモデル化およびシミュレーション/最適化の実習 (3) 13. 選定テーマを対象としたモデル化およびシミュレーション/最適化の実習 (4) 14. 選定テーマを対象としたモデル化およびシミュレーション/最適化の実習 (5) 15. 選定テーマを対象としたモデル化およびシミュレーション/最適化の実習 (6)									
<b>教材および参考図書</b> 教科書は設けず、適宜資料を配布する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 化学工業におけるCAE利用の現状ならびにシミュレーションモデルの基礎となる反応速度論に関する講義を行う。その後演習を通して、汎用CAEシステムgPROMSの言語およびモデル構造を理解し、モデルの作成やシミュレーション・パラメータ同定を行い、使用方法を習得する。 gPROMSの基礎が理解できた後に、履修者をいくつかのグループに分ける。グループ毎に卒業研究や専攻科研究テーマから対象とするプロセスを一つ選び、モデル化とシミュレーション/最適化を行い、得られた結果をレポートにまとめる。CAEの理解を深めるためのレポートや演習も併せて課す。									
<b>評価方法</b> 課題として与えたレポート全てで評価し、定期試験は行わない。 評価基準：60点以上を合格とする。再試験は行わない。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

生物応用化学コース 2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	分子生物学		シラバスコード	7C12	担当教員	中 嶋 裕 之			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 生体の機能を分子レベルで理解するために、遺伝及びその周辺の生命現象を分子の観点から学習する。すなわち、「分子遺伝学」を基軸に「細胞生物学」及び「発生生物学」の基礎的な内容を理解する。									
<b>到達目標</b> 1. DNA分子の構造と機能を理解し、説明できる。 2. 生殖の意味を遺伝学の立場から理解できる。 3. 生物の分類について理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 生物の分類 2. 原核生物と真核生物 3. 原生生物と多細胞化 4. 多細胞生物の推移 5. 動物界 6. 真核生物DNAのサイズと量 7. 真核生物DNAの種類 8. 核の特徴 9. 細胞周期と染色体 10. 動物の有性生殖と無性生殖 11. 2倍体, 核相交代, 有性生殖の意味 12. 性について 13. 遺伝学の解析 14. 体細胞遺伝学 15. ゲノムプロジェクト									
<b>教材および参考図書</b> 教材：作成したプリント 参考図書：分子生物学講義中継part1～part3 井出利憲著 羊土社 コア講義分子生物学 田村隆明著 裳華房 分子遺伝学第3版 T. A. Brown著 東京化学同人									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 作成したプリントを基に講義を進める。前半は、生物の系統分類を中心に生物の概要を解説し、後半は、遺伝子の分子生物学を中心に講義する。 専攻科1年後期の「生体機能分子学」の受講を前提として講義を行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を修得とする。									

授業科目名	応用物理化学		シラバスコード	7C13	担当教員	梶 隆彦			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 自然界における物質の挙動を数式を用いて記述し、化学物質の性質および現象に関する精密な測定と解析の結果からその構造単位を解明することを目的とする。物理化学分野の中で、物質の状態、熱力学、平衡論などの基礎的な内容については本科で既に学んだ。本講では、反応速度論、界面化学などに関する内容について解説する。									
<b>到達目標</b> 1. 物質工学専攻における専門基礎である物理化学に関する内容を理解できる。 2. 反応速度論に関する基礎的内容を理解できる。 3. 界面化学に関する基礎的内容を理解できる。 4. 定期試験で60点以上を修得する。								<b>JABEE プログラム目標</b>  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 反応速度概要 2. 反応速度式 3. 反応とエネルギー 4. 定常状態近似法 5. 律速段階近似法 6. 複雑な反応の速度 7. 反応速度論のまとめ 8. 界面現象概論 9. 界面張力 10. 界面活性剤 11. 吸着 12. エマルション 13. 膜 14. マイクロカプセル 15. 界面化学のまとめ									
<b>教材および参考図書</b> 参考書：橋本健治著、反応工学、培風館；齋藤勝裕著、反応速度論 化学を新しく理解するためのエッセンス、三共出版；鈴木四朗、近藤保共著、界面現象の科学、三共出版；近藤保著、新版 界面化学、三共出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業内容を黒板に記載し、それぞれについて説明する。単なる現象、数式の説明のみでなく、例題、演習問題等も取り混ぜる。 履修にあたって、数学、物理、化学、物理化学に関する知識が必要である。									
<b>評価方法</b> 定期試験から評価する。（評価基準：定期試験において、60点以上を修得とする。） 再試験を行う。60点以上を合格（60点）とする。									

授業科目名	真空工学		シラバス コード	7C14	担当教員	奥山哲也			
期間	後期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 先端技術の発展に伴い、新素材開発や物性分析機器に真空は欠かせない技術となっている。本講義では、真空技術の基礎的・系統的学習ならびに実際に真空技術を利用した機器の紹介ならびに注意点等について学習する。									
<b>到達目標</b> 1. 真空ポンプの概要について説明できる。 2. 到達真空度について概算できる。 3. 真空機器を活用した材料作製方法について説明できる。								JABEE プログラム目標  C-1	
<b>学習内容</b> 1. 真空の性質 2. 真空をつくる 3. 真空計測 4. 高真空技術 5. 真空装置の設計 6. 真空技術の応用 7. 真空機器を活用した薄膜材料の作製方法への応用 8. 薄膜の作製方法 1 9. 薄膜の作製方法 2 10. 真空技術の活用									
<b>教材および参考図書</b> 参考書： 真空技術 堀越源一 (東京大学出版会) プリントを適宜配布する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> プリントを適宜配布しながら集中講義形式で実施する。 途中レポート提出を課す場合がある。 出欠はきびしくとり、他の学生に迷惑がかかるような学習態度が見られる場合は途中退席を命じる。 講義において不明な点は授業の妨げにならない程度でその都度質問に応じる。 講義内容は真空を必要とする薄膜製造装置や評価機器の概要を基本とし、基礎知識を十分身につけていないとついでいけなくなるため、状況に応じてレポートを課す場合がある。授業内容の復習を欠かさないことを推奨する。 関連科目 機能材料学									
<b>評価方法</b> 定期試験 期末試験90%、課題レポート10%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

# ■授業科目

## 材料工学コース

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語 I		シラバス コード	6M01	担当教員	福田 かつお				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 実践的な場面で多用される英文法の重要項目を確認し、さらに語彙力の強化を図ることによって、英語のコミュニケーション能力を向上させる。										
<b>到達目標</b> 1. 英文法の要点を復習し、正しい知識を定着させる。 2. ビジネスの場で使用される基本的な語彙や慣用表現を習得する。 3. TOEICで400点以上取得できるよう、英語の理解力を向上させる。									<b>JABEE プログラム目標</b>  E-1	
<b>学習内容</b> 1. 時制 2. 仮定法 3. 受動態 4. 関係詞 5. 分詞 6. 助動詞 7. 主語と動詞の一致 8. 不定詞・動名詞 9. 比較 10. 形容詞・副詞 11. 名詞・冠詞 12. 接続詞 13. 否定 14. 模擬テスト(1) 15. 模擬テスト(2)										
<b>教材および参考図書</b> ESSENTIAL GRAMMAR FOR THE TOEIC TEST マクミラン・ランゲージハウス										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って、1回に1ユニットずつ進める。まず、文法事項の要点を説明し、確認するための演習問題を行う。必要に応じて、文法問題、語彙問題、リスニング問題を加える。										
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は実施しないが、定期試験の得点が60点に満たなかった学生が後日TOEICを受験して400点以上のスコアを提示した場合、成績を60点に修正し、合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅱ		シラバスコード	6M02	担当教員	福田 かおる			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	1
<b>授業の目的</b> 世界中から発信された健康・環境関連の英文ニュースを読むことによって、科学技術に関連した時事英語の理解力を養成する。									
<b>到達目標</b> 1. ニュース英語の読解力を養成する。 2. 環境や社会事象に関連した語彙を強化する。 3. 世界情勢や環境問題について理解を深める。								<b>JABEE プログラム目標</b>  E-1	
<b>学習内容</b> TOPIC 1. Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them 2. "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source 3. Offices Use Ice to Cool Down and Save Power 4. Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's 5. Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property 6. College Students Feel Better after Screaming Together 7. Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers 8. Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales 9. Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water 10. Aboriginies Still Rely on Bush Medicines for Remedies 11. African Farmers Seek Ways to Survive Droughts 12. Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health 13. Rising Seas May Force Island Nations Evacuate 14. Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating 15. Planned Chinese City Wants All Eco-Friendly Power									
<b>教材および参考図書</b> Heling Our World: Today's Helath and Environment News 南雲堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って毎回1Unit学習する。速読に自信のない学生は、予めReading部分を読んで、要点を把握するためのStep1, Step2の答えを考えてくることが求められる。読解の際は、前期に学習した文法事項が活用できるはずである。授業ではニュースの内容を確認した後、TOEIC形式の問題と、英作文問題を行う。語彙の定着とリスニング力強化のために、随時単語の確認問題をリスニング形式で実施する。									
<b>評価方法</b> 定期試験の成績100%で評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は1回のみ実施する。但し、試験の成績がクラスの平均より20点以上低い学生は、再試を受験できない。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	環境倫理学		シラバスコード	6M03	担当教員	東島光雄			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 環境倫理学は自然と人間の共生を求める。 この時自然の価値をいかに認識するかがカギとなる。 環境倫理学の目的は、人間中心の環境・自然の価値の理解から、生態系中心の環境・自然の価値の理解への転換である。									
<b>到達目標</b> 1. 環境倫理学の基本主張を学ぶ。 2. 自然の内在的価値を学ぶ。 3. 一般の生活者として、また将来の技術者として、自分の活動が環境・自然とどのような関係にあるかを認識する能力を身につける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  F-1	
<b>学習内容</b> 1. 環境倫理学とは何か 2. 環境倫理学の三つの基本主張 3. 足尾鋇毒事件と水俣病 4. 資源の枯渇と環境破壊 5. 自然の権利 6. 世代間倫理 7. 土地倫理 8. 生物多様性保護の倫理 9. 自然保護のめざすもの 10. 人間中心主義から人間非中心主義へ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：なし 参考図書：環境と倫理、加藤尚武編、有斐閣									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的に講義の形で授業を行う。 適宜ビデオ学習を併用する。 企業の「環境報告書」について調査レポートを課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業デザイン演習		シラバス コード	6M04	担当教員	藤田 雅俊			
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 商品企画から商品サーベイ、商品研究、市場化を踏まえた実際の商品化提案までのプロセスをグループ単位での演習により修得する。社会的に要求される商品を自ら求め、そのニーズに相応しい商品を技術解析、情報収集を基にして具体化する。グループでの作業により、計画的、継続的に仕事を進める責任感を養い、最終的なプレゼンテーションでの資料のまとめ方、口頭発表能力、コミュニケーション能力を高める。									
<b>到達目標</b> 1. 商品の企画から最終デザインまでのプロセスの理解・習得 2. グループワークによるメンバー同士のコミュニケーション能力の習得 3. 自らの企画を効果的に伝達するプレゼンテーション能力の習得 4. 自律的・計画的に作業を推敲する能力の習得 5. アイデアを具現化する創造力と編集力の習得								JABEE プログラム目標  D-2	
<b>学習内容</b> 第1週；オリエンテーション（授業の進め方／評価方法等のガイダンス） 第2週；商品企画対象の選定 第3週；商品化プロセス調査1 第4週；商品化プロセス調査2 第5週；商品化プロセス調査3（発表） 第6週；商品化企画演習1（要素技術の調査） 第7週；商品化企画演習2 第8週；商品化企画演習3（中間発表） 第9週；商品化企画演習4 第10週；商品化企画演習5 第11週；商品化企画演習6 第12週；プレゼンテーション1 第13週；プレゼンテーション2 第14週；講評及び評価 第15週；課題レポート									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜資料を配付									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業における商品デザインの講義、商品提案スタディ、テーマレポートを総合的に行う。企画の提案・プレゼンテーション評価には地域企業・公設機関の方に参加してもらう。									
<b>評価方法</b> 商品化プロセス調査20% 演習課題50%（外部評価・相互評価を含む） 課題レポート30% 60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	産業財産権特論		シラバスコード	6M05	担当教員	伊藤義文・梶原克彦・大段恭二				
期間	前期	授業形態	講義と演習		必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b>										
専攻科1年の必修科目である[創造工学実験]と同時開講し、[実験]成果から発明を発掘し、展開し、明細書という模擬出願書類に取りまとめる。また、産業財産権制度に関する知識の習得や、インターネットでの技術情報の検索方法を同時に学習することで、特許制度に明るい実践的な人材を育成する。										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業財産権制度の基礎知識の習得</li> <li>2. インターネットによる特許検索能力の育成</li> <li>3. 特許出願書類の作成能力の育成</li> </ol>										D-3
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入コースー1</li> <li>2. 導入コースー2</li> <li>3. 基礎コースー1 + 「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>4. 基礎コースー2 + 「アイデアの掘り起こし演習」</li> <li>5. 産業財産権の調査方法 + 「インターネットによる技術情報検索演習」</li> <li>6. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」</li> <li>7. パテントマップの作成方法 + 「パテントマップの作成演習」</li> <li>8. 基礎コースー3</li> <li>9. 基礎コースー4</li> <li>10. 実践コースー1</li> <li>11. 実践コースー2</li> <li>12. 明細書の書き方指導ー1</li> <li>13. 明細書の書き方指導ー2</li> <li>14. 明細書の書き方指導ー3</li> <li>15. 発明報告会</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
教材：産業財産権標準テキスト(特許庁)・・・無償配布										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
特許庁の産業財産権標準テキストに従い、産業財産権に関する講義と、創造工学実験でのアイデアを模擬出願書類にまとめる演習の2本立てで行う。										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義：産業財産権指導カリキュラムに従って講義し、毎回小テストを実施して理解度を深める。</li> <li>2. インターネットによる技術情報検索、パテントマップの作成は、外部講師を招聘して行う。</li> <li>3. 明細書の書き方指導は、外部講師(弁理士)を招聘して行う。</li> <li>4. 発明報告会は、担当教官、各学科の創造工学実験担当教官、外部講師に出席して貰い、評価を行う。</li> <li>5. 優秀特許は特許庁のpatentコンテストに応募する。</li> </ol>										
<b>評価方法</b>										
小テスト30点、定期テスト30点、発明演習40点で合計100点満点とし、60点以上を合格とする。再試験は実施しない。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般 I		シラバス コード	6M06	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  E-1	
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論一般 I として認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	地球環境と現代生物学		シラバスコード	6M07	担当教員	中 蔦 裕之			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年、環境問題を地球レベルで理解することが重要となっている。本講義では、様々な地球環境問題を生物学的立場から理解することを目的とする。また、バイオテクノロジーが地球環境の修復や持続的発展の可能な社会作りによどのように利用されているかについて学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 地球環境やエネルギー問題の現状について理解できる。 2. 環境修復や環境維持におけるバイオテクノロジーの役割を理解できる。 3. 実際の産業へどのように応用されているかを理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1 F-1	
<b>学習内容</b> 1. 地球環境の現状（環境問題， エネルギー問題） 2. 未来のエネルギー 3. エアロゾルⅠ 無機エアロゾル 4. エアロゾルⅡ 無機エアロゾルの成分 5. エアロゾルⅢ バイオエアロゾルとハウスダスト 6. エアロゾルⅣ バイオエアロゾルの地球規模の移動 7. エアロゾルⅤ 黄砂発生源におけるバイオエアロゾル拡散 8. 海洋環境Ⅰ 赤潮 9. 海洋環境Ⅱ 富栄養化 10. 海洋環境Ⅲ 水の華 11. 身近な有害有毒物質 12. 環境におけるバイオテクノロジーⅠ バイオレメディエーション 13. 環境におけるバイオテクノロジーⅡ 遺伝子工学 14. 特殊環境に棲息する生物Ⅰ 好アルカリ性微生物 15. 特殊環境に棲息する生物Ⅱ 好熱性微生物									
<b>教材および参考図書</b> 教材：単元ごとに作成したプリントを使用する。 参考図書： 今中利信他著，環境・エネルギー・健康20講，化学同人 清水達雄他著，微生物と環境保全（地球環境サイエンスシリーズ⑨），三共出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を中心に行う。 地球環境を生物学的視点から講義するため，かなりの専門知識を有する。 専門学科以外の学生に対して細部の理解は求めないが，概念的な理解を示して欲しい。									
<b>評価方法</b> 定期試験を100%として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を修得とする。									

授業科目名	現代物理学		シラバスコード	6M08	担当教員	谷 太郎			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 現代物理学の基礎理論、「相対性理論」と「量子力学」のうち、相対性理論について解説する。この理論によって、時間と空間に関するそれまでの自然観が根底から覆され、また同時に、エネルギーの概念が新しく生まれ変わった。これらについて、発見者アインシュタインの思考の跡を辿りつつ学ぶ。また、現代のテクノロジー、最新の理論分野（宇宙論など）への応用について学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 「時空」の概念を獲得する。 2. 相対性理論のパラドックスについて説明することができる。 3. 「重力場」の概念を獲得する。								JABEE プログラム目標  A-1	
<b>学習内容</b> 1. 現代物理学概観 2. 特殊相対性理論 (1) マイケルソン・モーリーの実験と光の本性 3. 特殊相対性理論 (2) 相対性原理 4. 特殊相対性理論 (3) 同時性の崩壊、時計の遅れ、ローレンツ収縮 5. 特殊相対性理論 (4) ローレンツ変換 6. 特殊相対性理論 (5) ミンコフスキーダイアグラム 7. 特殊相対性理論 (6) 質量とエネルギー、運動方程式 8. 特殊相対性理論 (7) パラドックス (双子のパラドックス, ガレージのパラドックス) 9. 特殊相対性理論 (8) 応用 (核反応、素粒子物理学、GPSなど) 10. 一般相対性理論 (1) 等価原理と時空の歪み 11. 一般相対性理論 (2) アインシュタイン方程式 12. 一般相対性理論 (3) 応用 (宇宙論)									
<b>教材および参考図書</b> 適宜指示する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 板書とプリントを用いた講義形式。新しい概念に到達するプロセスを理解するよう心がけること。結果の知識を貯えることではなく、根本の考え方を身につけることを目標に取り組んでもらいたい。適宜レポート課題（宿題）を課す。									
<b>評価方法</b> 定期試験70%、レポート等30%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理演習		シラバスコード	6M09	担当教員	奥山哲也、富岡寛治			
期間	後期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 無数の実験データの統計解析や実験結果の視覚化などはコンピュータの得意分野であるが、ユーザー側の活用方法によってはその機能が十分発揮できない場合がある。また、インターネット上にはX線結晶構造をはじめとする多くのデータ蓄積がなされている。本講義では、コンピュータプログラム及び表計算ソフトを活用した実験データ解析法やビジネス文書作成技術・プレゼンテーション技法を中心にコンピュータ利用技術の習得を目指すとともに、インターネット上のデータベースからデータを取得し、可視化する技術の習得を目指す。									
<b>到達目標</b> 1. 情報技術に関する基礎知識の習得と応用ができる 2. データ解析ができる 3. プレゼンテーションができる 4. インターネット上のX線構造データを取得し、可視化できる								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 前半（奥山担当） 1. ガイダンスおよびデータベースの基礎 2. データベースの活用とデータ抽出 3. 行列と連立方程式 4. 統計と回帰分析 5. 微分積分と方程式の解法 6. 多変量解析の手法 7. 確認試験（1）  後半（富岡担当） 1. Excel-VBとマクロによる表計算の自動化 2. 補間法，外挿の注意 3. 連立1次方程式の解き方（クラメール，ガウスジョルタン法） 4. X線結晶構造データベース（CCDC，PDB） 5. 可視化ソフト（Rasmol，MOLEKEL，ORTEP）の活用 6. ヘモグロビンの酸素運搬の構造理解と鎌状赤血球のメカニズム 7. 確認試験（2）									
<b>教材および参考図書</b>  テキスト，教材等は使用しない。 必要時に資料を配布する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>  パソコンを利用した演習中心の講義形態で行う。 各自でUSBメモリ等の記録メディアを準備すること。 基本は、自己学習形式であり与えられた課題について計画的に遂行することが重要である。 学習途中に成果発表としてプレゼンテーションを実施する場合がある。									
<b>評価方法</b> 評価： 確認試験（1）50%、確認試験（2）50%、総合評価100%として評価する。 評価基準： 総合評価で60点以上を合格とする。 再試験： 2年生終了時まで2回程度実施し、60点以上を合格、最高60点とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理I		シラバスコード	6M10	担当教員	酒井道宏			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学で現れる諸現象を記述する微分方程式が、解析的に解ける場合についてその解法を演習をもち込んで教授するとともに解の結果の考察から、数式化による諸現象の解明に対して、興味をいだかせることを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 微分方程式を体系的に学習することによって、幅広い数学の知識を得る。 2. 自然現象に微分方程式を適用し、現象を解明する問題解決能力の向上を図る。 3. 適切な課題問題を解くことにより、継続的に学習できる自己学習能力の向上を図る。								JABEE プログラム目標 A-1	
<b>学習内容</b> 1. 変数分離形の1階常微分方程式 2. 1階線形微分方程式 3. 完全微分系 4. 1階線形微分方程式の応用例 5. 高階常微分方程式の階数降下法 6. 2階線形同次微分方程式と非同次微分方程式 7. 記号解法 8. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 1 9. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 2 10. 定数係数線形常微分方程式の簡便法 3 11. 1階偏微分方程式 12. ラグランジュの偏微分方程式 13. 定数係数2階線形偏微分方程式 14. 波動方程式 15. 拡散方程式とラプラス方程式									
<b>教材および参考図書</b> 教科書 : 明解 微分方程式, 長崎憲一、横山利章、中村正彰 共著, 培風館 参考図書 : 微分方程式概論, 神保秀一著, サイエンス社									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書を使用し、教科書にそって授業を進める。公式の導出や証明は省略せず説明を行い、授業の中での演習のみでは不足するため、多くの課題を与える。									
<b>評価方法</b> 筆記試験の結果を100%で評価する。 再試験を行う。評価方法は本試験の筆記試験の評価方法に同じ。 60点以上を合格とする。									

授業科目名	応用数理Ⅱ		シラバス コード	6M11	担当教員	榎崎 亮			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 数学は多くの工学系教育にとって欠かすことのできない科目である。本科目ではこれまでに学んだ平面ベクトルや空間ベクトルを抽象して一般のベクトル空間を考え、このベクトル空間の性質を学ぶことにより、抽象的概念と具体例がどのように結びつくのかを理解する。また、一般的な連立1次方程式の解法を習得することを目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 抽象的概念が理解できる。 2. 線形写像の表現行列が求められる。 3. 連立1次方程式の解が求められる。								JABEE プログラム目標  A-1	
<b>学習内容</b> 1. 抽象的ベクトル空間 2. 1次結合と部分空間 3. 線形写像 4. 1次独立と1次従属 5. ベクトル空間の基底・次元 6. 基底の間の関係 7. 線形写像の行列表現 8. ランク (階数) 9. 連立1次方程式の解の存在定理 10. 連立1次方程式の解法									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：川久保勝夫 著「線形代数学」, 日本評論社 参考書：近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数1 ベクトル空間と行列式」, 数学書房 近藤庄一 著「ひとりで学べる線形代数2 線形写像と行列の標準化」, 数学書房									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業の進め方は講義が主である。抽象的概念の理解のためには具体的な例を用いた演習が必須であるため、授業でいくつかの例を説明するだけでなく課題レポートとして他の例にも触れてもらう。  本科目を受講するにあたって、今までに学んだ行列や行列式についての知識は前提とする。									
<b>評価方法</b> 期末試験70%, 課題レポート30%を目安として評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。 なお、総合評価が40点以上60点未満のものについては、再試験を1回のみ実施する。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	量子力学		シラバスコード	6M12	担当教員	越地尚宏			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> IT産業や量子化学など、現代工学において量子力学は重要な役割を担っている。さらに「量子コンピューター」のようにミクロな世界での特異な性質を積極利用することによる飛躍的技術展開が試みられている。講義ではマクロの世界では想像できないミクロな世界での特異な振る舞いの理解から始まり、この振る舞いをどのように記述していくかという量子力学の基本的考え方から始めて、量子力学の基本体系の理解に努める。									
<b>到達目標</b> 1. 体験的に理解できるマクロな世界と異なる、特殊な性質を持つミクロな世界の現象に対する理解を深める。 2. シュレディンガー方程式による確率論的な現象記述による量子力学的現象やエネルギー準位等について理解する。 3. 上記の内容に関する基礎的な演習問題が解けるようにする。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1	
<b>学習内容</b> 1. 光や電子にみる二面性      粒子性と波動性 2. 光の持つ粒子性              光電効果、コンプトン効果 3. 電子の持つ波動性            物質波 4. 波の数学的表現                波とは何か、三角関数を用いた表現、複素数を用いた表現 5. シュレディンガー方程式 6. ポテンシャル壁に閉じ込められた粒子（1） 無限の高さのポテンシャル壁に閉じ込められた粒子 7. ポテンシャル壁に閉じ込められた粒子（2）      トンネル効果 有限の高さのポテンシャル壁に閉じ込められた粒子 8. 水素原子の構造（1）        動径方向と角度方向の解 9. 水素原子の構造（2）        角運動量とその物理的意味 10. シュレディンガー方程式のもつ物理的意味の解釈 演算子と固有値、固有関数、不確定性原理									
<b>教材および参考図書</b> 必要に応じてプリントや資料を配付。 参考図書：初等量子力学 原島鮮 裳華房									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を主体にして、また必要に応じてその理解を深めるために積極的に演習を行う。また適宜、演示実験、ビデオ教材、コンピューターシミュレーション等を活用していく。									
<b>評価方法</b> 定期試験による評価を80パーセント、上記の演習やレポートによる評価を20パーセントとし、これらを総合的に評価する。60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。									

授業科目名	物性化学		シラバスコード	6M13	担当教員	辻 豊			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 化学の大きな柱である「化学結合論」と「化学熱力学」について物質の性質、身の回りの変化を通して学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 原子軌道、分子軌道が理解できる。 2. $\sigma$ 結合、 $\pi$ 結合が分子軌道により説明できる。 3. 電気伝導性などの物質の性質が分子軌道により理解できる。 4. 身の回りの変化が化学的に理解できる。 5. 化学変化を支配するものが理解できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1	
<b>学習内容</b> 1. 原子の構造と周期表（周期表の謎） 2. 物質の性質と結合（結合の特徴） 3. 原子軌道と共有結合（炭素同素体の秘密） 4. 分子軌道入門1（導電性ポリマーの秘密） 5. 分子軌道入門2（光と物質の色） 6. 分子間力・水素結合（水の特異性） 7. 物質の三態（状態図の見方、氷はなぜすべるのか？） 8. 仕事と熱（エアコンはなぜ冷えるのか？） 9. 気体の法則（温度と圧力の関係） 10. 反応の速度（反応の速度は何によって決めるのか？） 11. 化学反応と熱の出入り（熱力学第一法則） 12. エントロピーと変化（熱力学第二法則） 13. 酸と塩基（ブレンステッドの定義と酸解離定数） 14. 酸と塩基（ルイスの定義とHSAB） 15. まとめ									
<b>教材および参考図書</b> 教材は適宜配布します。参考図書：「ライフサイエンス基礎化学」青島 均・右田たい子著（化学同人）、「フォトサイエンス化学図録」（数研出版）、「フロンティア軌道論で化学を考える」友田修二著（講談社ライフサイエンス）、「入門化学熱力学」松永義夫著（朝倉書店）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 基本的にチョークアンドトークにより進めて行きます。適宜スライドを用います。できるだけ日常生活の「変化」を化学的な観点から、説明して行きたいと思えます。日常の生活において「なぜ？」と感じたことがありましたら、質問してください。									
<b>評価方法</b> 成績評価は定期試験（100%）により行います。60点以上を修得とします。（選択科目なので再試は行いません。）									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	画像工学		シラバスコード	6M14	担当教員	黒木祥光			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 画像情報は単なるメディアの一つではなく、工学において、非常に重要な外部情報とみなすことが出来る。本科目では、2次元のデータであるデジタル画像と、3次元の実世界との対応関係、いわゆるコンピュータビジョンの基礎知識の習得を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 様々な射影法とカメラモデルについて説明できる。 2. 様々なカメラにおける変換群について説明できる。 3. エピポーラ幾何について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 1 投影とカメラモデル 1.1 投影 1.2 無限遠と射影空間 1.3 斉次座標 1.4 透視カメラと射影カメラ 1.5 弱透視カメラとアフィンカメラ 2 視覚における不変性と対象物の認識 2.1 変換群 2.2 平面に対する不変量 2.3 平面でない対象物に対する不変量 3 エピポーラ幾何 3.1 エピポーラ幾何とは 3.2 透視カメラのエピポーラ幾何 3.3 射影カメラのエピポーラ幾何 3.4 アフィンカメラのエピポーラ幾何 3.5 並進カメラのエピポーラ幾何 4 形状復元 4.1 校正済みの射影カメラによる復元 4.2 校正済みアフィンカメラによる復元 4.3 ユークリッド復元 5 カメラの校正									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：佐藤 淳，コンピュータビジョン-視覚の幾何学-（コロナ社） 参考書：金谷健一，画像理解-3次元認識の数理-（森北出版） 徐 剛，辻 三郎，3次元ビジョン（共立出版） 出口 光一郎，ロボットビジョンの基礎（コロナ社）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> コンピュータビジョンでは線形代数の知識が必須である。講義では出来る限り詳細かつ丁寧な説明を心掛けるので、ノートをしっかりとして欲しい。また、受講生には必要に応じて本科で学んだ線形代数の復習をお願いしたい。									
<b>評価方法</b> 定期試験100%にて評価する。再試験は定期試験と同形式とし、上限を60点とする。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用情報処理		シラバスコード	6M15	担当教員	松島 宏典			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 統計解析とグラフィックスのためのソフトウェアであり、様々なプラットフォーム上で動作させることができるR言語のプログラミング技術を、種々の数値計算方法・統計解析方法、画像処理手法と共に習得する。									
<b>到達目標</b> 1. 数値計算方法・統計解析方法について説明できる。 2. R言語によりデータマイニングができる。 3. R言語によりグラフィックス処理ができる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-2	
<b>学習内容</b> 1. Rの特徴と実行方法 2. 演算子・条件分岐・繰り返し 3. ベクトル 4. 行列 5. データフレーム 6. データマイニング 7. 確率分布 8. コホート分析 9. 回帰分析 10. 画像処理									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：プリント教材など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業は講義形式とし、演習を交えながら進めていく。適宜課題を課すものとする。R言語プログラミングは、制御情報実験室で行う。									
<b>評価方法</b> 定期試験の結果80%、課題20%を目安として評価する。 60点以上を合格とし、再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	創造工学実験		シラバスコード	6M16	担当教員	専攻科主事補			
期間	前期	授業形態	実験	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 工学に関する自由テーマを学生自身で立案し、その実験の計画作成、スケジュール化、実験の遂行、結果評価を各自の判断で行い、自主性、創造性、調査能力、および行動力の向上を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 自主的に実験計画をつくり、実験を遂行し、結果を考察出来る。 2. 成果を報告書としてまとめることができる。 3. 成果を要約し、所定の時間内に発表出来る。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-3 D-1 D-2	
<b>学習内容</b> 1. スケジュール化 2. 実験計画書作成 3. 計画の発表と評価 4. 実験の遂行 5. 中間報告会（実験の進捗状況および中間結果） 6. 実験成果報告書作成 7. 成果報告会									
<b>教材および参考図書</b>  参考資料や文献を適宜調査、引用する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 実験テーマは学生自身で選定し、 4月上旬に計画書の作成と説明会を実施する。 6月中旬に中間報告会を行う 9月下旬に成果報告会を行う。 各自、自主的に計画性を持って取り組むこと。研究指導は専攻科研究論文の指導教員が実施する。									
<b>評価方法</b> 報告書60%、発表40%として、発表は材料工学科の全教員で評価する。 報告書の評価項目：・実験への取り組み ・計画性 ・事前調査 ・創意工夫 発表の評価項目：・発表態度 ・構成 ・取り組み ・発表スライド ・質疑応答 100点満点で60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	先端工学特論		シラバスコード	6M17	担当教員	専攻科主事補				
期間	後期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b>										
<p>本科目は、学生が先端技術や工学的・工業的諸問題及びそれらが影響を与えている社会問題等に関心を高め、工業技術者としての視野を広めることを目的とする。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先端技術、工学的・工業的諸問題、及びそれらが影響を与える社会問題等に関心をもち、工業技術者としての視野を広めることができる</li> <li>2. それぞれの専門分野の知識を基礎として、エネルギー、環境、新技術、自然科学などの問題に対して工学的に考察できる</li> <li>3. それぞれに関わる科学技術の要点を理解し、客観的な評価ができる</li> </ol>										F-1
<b>学習内容</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送大学特別講義（ビデオ） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 太陽光発電新時代</li> <li>2. レーザー核融合</li> <li>3. 大気汚染と保全</li> <li>4. 水の汚濁と浄化</li> <li>5. 廃棄物の処理とリサイクル</li> <li>6. 渇く大地・溺れる大地</li> <li>7. 色の科学（分光発色理論）</li> <li>8. 新技術による結晶構造解析</li> <li>9. 発見者が語るカーボンナノチューブ</li> <li>10. 世界最高速の計算機を創って進める科学</li> <li>11. うま味発見100年～その先端科学を探る</li> <li>12. 磁気不思議と医学応用</li> <li>13. ウェーブレットと錯視</li> <li>14. 数学で解く心の世界～計算エラーはなぜ起こるのか～</li> <li>15. 宇宙の新しい目「重力波望遠鏡」</li> </ol> </li> <li>・学内外における特別講義・特別講演等で構成</li> </ul>										
<b>教材および参考図書</b>										
先端工学特論報告集、講演会での配布資料										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>①放送大学特別講義（ビデオ）と②学内外における特別講義・特別講演等で構成されている。講演などでは福祉問題、環境問題、エネルギー問題、地域企業の先端技術、人文・社会問題、専門及び専門関連分野等の中から、自主的に興味のある学術・技術的題目を選んで聴講する。①のビデオ学習のレポートは、15回のレポートの内8編以内を受け、学生には前期授業時間割に従って15回開催を通知する。②は随時、専攻科に開催の案内をし①②とも毎回、所定の報告書を担当教員へ提出する。</p> <p>関連科目：環境倫理学など</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>提出されたそれぞれのレポートの内容を教育目的に応じて、A；7点、B；6点、C；5点、D；4点の4段階に評価する。</p> <p>評価基準：累積点60点以上を合格とする。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1・2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科研究論文		シラバスコード	6M18	担当教員	材料工学科全員				
期間	1年通年・2年前期	授業形態	実験		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	10
<b>授業の目的</b>										
<p>これまで修得してきた専門技術をもとに材料工学に関する研究テーマを設定し、それに沿った調査・実験計画・遂行等について自ら実施し、得られたデータに対して工学的に解析・考察できる能力を身につける。得られた成果について論理的な記述による論文としてまとめる能力ならびに口頭発表・討議できる能力を身につける。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 技術が社会へ及ぼす影響・効果および技術者が社会に対して負っている責任を理解できる</li> <li>2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察できる</li> <li>3. 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる</li> <li>4. 日本語による論理的な記述力・口頭発表・討議などのコミュニケーションができる</li> <li>5. 自主的・継続的に学習できる</li> </ol>										B-3 D-1 D-2 D-3
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマの選定</li> <li>2. 指導教員との研究テーマに関する打合せ</li> <li>3. 実験目的の把握</li> <li>4. 関連研究の調査（文献・資料等）</li> <li>5. 実験計画・必要機器類の構成・立案</li> <li>6. 自主的・継続的な実験の遂行</li> <li>7. データの整理・妥当性の検討</li> <li>8. データ解析・考察</li> <li>9. 論文構成について検討</li> <li>10. 図表等の作成</li> <li>11. 研究論文の提出</li> <li>12. 要約作成</li> <li>13. プレゼンテーション資料の作成</li> <li>14. プレゼンテーション能力</li> <li>15. 討議能力</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
<p>特に教科書はなし。                      関連する論文・資料調査を自主的ならびに継続的に実施する</p>										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>専攻科入学後に複数教員により提示される研究テーマについての内容・概要を理解し、興味あるテーマを選定する。指導教員の承認を得た上で原則として1テーマについて1名の配属を決定する。                      この科目は1年前期から2年前期まで継続して研究活動を実施する。                      1年終了時に研究進捗状況について中間報告を実施する。                      最終的には研究論文を作成し、研究成果について口頭発表を実施する。                      研究論文の書式および発表形式については別途提示する。</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>評価： 専攻科研究論文の評価は2年後期にまとめて実施する（評価方法は以下の通り）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究論文についての評価（取組み姿勢・実験ノート記載能力・計画性・問題解決能力・自己学習能力・論文構成および内容）： 60点</li> <li>2. 諮問評価（要旨内容構成・発表態度・プレゼン用資料・質疑応答）： 40点</li> </ol> <p>評価基準： 1および2を総合し、100点満点で評価して60点以上を合格とする。                      再試験： 原則として実施しないが、不合格者に対して再度プレゼンテーションを課す場合がある。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	高分子材料特論		シラバスコード	6M19	担当教員	森 哲夫			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 高分子材料の用途は今後も広がると予想される。高分子材料を取り扱う技術者に必要な高分子の熱的性質や機械的性質を理解する。									
<b>到達目標</b> 1. 高分子化合物のガラス転移現象の重要性、意味を習得する 2. 高分子化合物が粘弾性物質であることを理解し、その熱的、機械的挙動を理解する能力を習得する 3. 材料としての高分子を選択や問題解決能力を身につける								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 高分子の一次・二次・高次構造について 2. 高分子の熱的性質：ガラス転移温度について 3. 高分子の応力-ひずみ曲線 4. 無定形高分子の弾性率-温度曲線に及ぼす架橋、結晶度、可塑剤の影響 5. 無定形高分子の弾性率-温度曲線に及ぼす共重合組成、ブレンド組成の影響 6. 無定形高分子の弾性率-温度曲線に及ぼす架橋、結晶度、相分離の影響 7. 高分子の粘弾性モデル：マックスウエルモデル、フォークトモデル 8. 弾性体、粘性体、粘弾性モデルの変形：一定応力を加える 9. 弾性体、粘性体、粘弾性モデルの変形：一定ひずみを加える 10. 弾性体、粘性体、粘弾性モデルの変形：一定ひずみ速度を加える 11. 高分子の動的粘弾性：バネ、ダッシュポット、マックスウエルモデルに周期的ひずみを加える 12. 高分子の動的粘弾性：フォークトモデルに周期的ひずみを加える 13. 力学モデルと電気回路の対応：バネ、ダッシュポット、マックスウエルモデル 14. 力学モデルと電気回路の対応：フォークトモデル 15. ゴム弾性について									
<b>教材および参考図書</b> 教材：基本的な重要事項はおよそ50ページプリントを配布する。 参考図書：高分子と複合材料の力学的性質（小野木重治訳、化学同人） はじめての高分子化学（井上祥平著、化学同人）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 高分子の不均質性をキーワードに授業を進める。 高分子の熱的性質（例えば、弾性率・誘電正接の温度変化曲線）のデータを示しそのデータから、何が解るかを解説したり自分で考えたり、対話方式を取り入れながら授業を進める。									
<b>評価方法</b> 定期試験 100%で評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	機能材料学		シラバスコード	6M20	担当教員	奥山哲也			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 近年の情報伝達や機械制御等の工業技術を支えているコンピュータの発達は、半導体・誘電体・磁性体材料等の機能的物性を活用したエレクトロニクス技術を基礎としている。エレクトロニクス技術の基盤となるのは機能性材料である。本講義では、導電体・半導体など各種機能性材料の基礎的性質から最近の高度技術について学習する。									
<b>到達目標</b> 1. 機能性材料について説明できる。 2. 導電体・半導体材料の電気伝導機構について説明できる。 3. 誘電体・磁性体材料についての概要を説明できる。 4. 光学材料の特徴について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 結晶学の基礎(含 規則構造) 2. 機能性材料の種類 3. スtringsポテンシャル近似 4. XRD回折の応用 5. 量子力学の基礎 6. 結晶構造中の電子の振舞い 7. 金属中の電気伝導 8. 周期ポテンシャル 9. 導電体材料の基礎知識 10. 抵抗材料の基礎知識 11. 半導体材料の基礎知識 12. 誘電体材料の基礎知識 13. 光学材料の基礎知識 14. 磁性材料の基礎知識									
<b>教材および参考図書</b> 参考書：機能材料の基礎知識 神藤欣一 著 (産業図書) プリントを適宜配布する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> プリントを適宜配布しながら講義を実施する。途中レポート提出を課す場合がある。 出欠はきびしくとり、他の学生に迷惑がかかるような学習態度が見られる場合は途中退席を命じる。 講義において不明な点は授業の妨げにならない程度でその都度質問に応じる。 講義内容は固体物性を基本とし、基礎知識を十分身につけていないとついていけないため、状況に応じてレポートを課す場合がある。授業内容の復習を欠かさないと推奨する。 課題遂行状況に応じて中間試験実施の有無を決定する 関連科目 材料物性学 I, II A, II B、金属物理学									
<b>評価方法</b> 中間試験を実施した場合は中間試験50%、期末試験50%として評価し、実施しなかった場合は期末試験のみで評価する。 再試験は原則的に実施しないが、該当者の成績次第によっては必要に応じて全範囲について1回のみ行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	材料組織学特論		シラバスコード	6M21	担当教員	平野 正和			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 金属材料の物性は化学成分や材料組織に大きく依存する。加えて、最終的に金属材料の特性を決定する熱処理や加工処理および変態などの機構を十分理解する事が、材料の利用技術や製造技術においては非常に重要である。本講義では、これらの機構について講義する。									
<b>到達目標</b> 1. 金属材料のミクロ組織と特性の関係を十分に理解し説明できる。 2. 金属材料の変態を十分理解し説明できる。 3. 金属材料の高強度化機構について理解し説明できる。 4. 材料組織学と金属物理学のつながりを理解する。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 金属の凝固と結晶構造 2. 合金の組織と鑄造組織（平衡状態、非平衡状態） 3. 合金状態図と材料特性 4. 自由エネルギーと状態図 5. 格子欠陥、固溶体 6. 金属間化合物 7. 転位 8. 加工硬化と再結晶 9. 溶体化と析出硬化 10. 拡散変態（析出） 11. 非拡散変態（マルテンサイト変態） 12. スピノーダル分解									
<b>教材および参考図書</b>  教科書：須藤一也著、「金属組織学」、丸善									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書およびプリントを使用して講義する。また、演習問題を解かせて発表させる。今までに学んだ基礎的な事をベースに、実用例も引用して応用力をつける。金属材料の開発および製造技術全体の材料組織制御の感性を養う。 関連科目：金属物理学、材料組織学、金属材料学、物理化学									
<b>評価方法</b> 中間試験（100点満点）＋期末試験（100点満点）で評価し、平均が60点以上を合格とする。必要に応じて、再試験を原則1回のみ実施する。									

授業科目名	表面処理工学		シラバスコード	6M22	担当教員	田中慎一			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本講義では、金属表面で進行する酸化還元反応である腐食反応について学ぶ。また、その防止法としての表面処理法（湿式プロセス、乾式プロセス）や表面分析法についても理解を深める。									
<b>到達目標</b> 1. 金属材料の腐食反応について説明できる 2. ミクロセルについて説明できる 3. 防食処理としての表面処理法を説明できる 4. 代表的な表面分析法について説明できる								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 金属材料の表面構造 2. 結晶面による反応性の違い 3. 腐食の形態 4. 酸化還元反応 5. ミクロセル 6. プールベ線図 7. 腐食速度 8. 水素発生反応と溶存酸素の還元反応 9. 不働態化 10. 応力腐食割れと水素脆化 11. 湿式表面処理 12. 乾式表面処理 13. 表面分析									
<b>教材および参考図書</b> テキストは、基本的に関連項目の英文プリントを配布する									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 配布プリントに沿って基本的に講義を勧める。配布プリントは、基本的に英文で記述されたものを講義に先立って配布するので、授業当日までに、プリントを読んでいるものとして講義を進める。									
<b>評価方法</b> 定期試験により評価し、100点満点で60点以上を合格とする。 不合格者に対しては、定期試験の評価が40点以上の者に限り、1回のみ再試験を行う。 再試験については、100点満点で60点以上を合格とするが、成績は60点として評価する。 なお、定期試験の評価が40点未満の者については、再試験を行わない。									

授業科目名	無機材料学		シラバスコード	6M23	担当教員	濱上 寿一			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b>									
<p>無機材料はセラミックスと金属(合金)に大別できる。本授業では、セラミックス材料の基礎と応用に焦点を絞り授業を進める。セラミックスは“人工的に作られた無機質の非金属固体材料”である。本授業では、セラミックス材料に関する基礎的な知識を習得するとともに、次世代の新たな材料の開発に貢献できる素養を身につけることを目的とする。さらに、受講生は興味ある機能性セラミック材料を調査するとともに、その調査内容をプレゼンテーションし、ディスカッションする能力を養うことを目標とする。</p>									
<b>到達目標</b>								<b>JABEE プログラム目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無機材料について説明することができる。</li> <li>2. 無機材料の合成プロセスについて説明することができる。</li> <li>3. 無機材料の結晶構造とX線回折法について説明することができる。</li> <li>4. 無機材料の組織(微細構造)と走査型電子顕微鏡について説明することができる。</li> <li>5. 各種ファインセラミックスについて説明することができる。</li> </ol>								B-1	
<b>学習内容</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無機化学の基礎の復習(原子の構造、電子配置、周期律、イオン化エネルギー、電子親和力、化学結合、結晶構造など)</li> <li>2. 人間活動を支える無機材料</li> <li>3. 無機機能材料の合成プロセス</li> <li>4. 無機機能材料の構造解析・キャラクタリゼーション</li> <li>5. 電子・イオン伝導材料</li> <li>6. 誘電・圧電材料</li> <li>7. 磁性材料</li> <li>8. 光学材料</li> <li>9. カーボン材料</li> <li>10. 生体関連材料</li> <li>11. 環境関連材料</li> </ol>									
<b>教材および参考図書</b>									
<p>教科書：河本邦仁編、無機機能材料、東京化学同人                  参考図書：Kingery他著、小松和蔵他訳、セラミックス材料科学入門(基礎編・応用編)、内田老鶴圃                  日本セラミックス協会編、これだけは知っておきたいファインセラミックスのすべて、日刊工業新聞社</p>									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>									
<p>液晶プロジェクタ、板書、配布プリント、ビデオ教材を用いて授業を進める。受講者のプレゼンテーションスキルを向上させるために、毎回授業のはじめに無機材料に関するテーマ(各自興味あるテーマを選択する)について発表し、質疑応答を行う(1件15分程度)。なお、初回の講義で発表順番を決定する。発表件数は受講者数にもよるが、1回の講義で1~2件とする。</p> <p>本講義では、無機材料に関する基礎的な知識(化学、物理、物理化学、無機化学など)が必要となるため、それらに関連した講義を受講していることが望ましい。講義には全回出席すること。また、ノートチェックを行う場合もあるため、各自ノートの取り方を工夫すること(ノートチェックは2回程度)。</p>									
<b>評価方法</b>									
<p>定期試験(中間試験+期末試験)60%、プレゼンテーション(質疑応答を含む)、小テスト、課題レポート、ノート40%を目安として評価する。                  再試験は行わない。                  評価基準：60点以上を合格とする。</p>									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	生物応用化学特論		シラバスコード	6M24	担当教員	生物応用化学科長 他			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 生物応用化学コースのバイオテクノロジー分野で、先端領域及び実用化生産技術について学習し、実践的工業技術者の資質向上を図る。									
<b>到達目標</b> 1. 特にバイオテクノロジーの先端知識を習得する。 2. シミュレーターを使った生産技術の開発知識を体験する。 3. 専門知識を活用し、社会の要求を解決する方法を知る。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1	
<b>学習内容</b> 生物応用化学コースのバイオテクノロジー分野で、先端領域及び実用化生産技術について講義・演習・実験を行う。 最先端のバイオ研究の視野を広げるため、大学の研究施設を見学する。									
<b>教材および参考図書</b> 各講義の配布資料をテキストとする。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 外部講師を企業・研究機関から数名招聘し、最先端の技術を幅広く知る。 聴講、レポート作成に当たっては、高専本科（準学士課程）で身に着けた基礎知識を活用し、不備な点があれば復習する。 本講義は、サマーレクチャーとして本校を中心に夏休み期間中1週間2単位の集中講義として実施する。 但し、本年度は、本講義は実施しない。									
<b>評価方法</b> 各講義、施設見学のレポートを複数教員で平均して評価する。 再試験は原則実施しない。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

1年

シラバス(授業計画)

授業科目名	材料工学特論		シラバスコード	6M25	担当教員	材料工学科長			
期間	前期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 材料工学科分野の高度技術や先端技術について習得する。									
<b>到達目標</b> 1. 材料工学に関する実用的なトピックスについて説明できる。 2. 材料工学に関する実用的な諸問題について説明できる。 3. 材料工学に関する実用的な先端技術について説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b> B-1 B-2 B-3	
<b>学習内容</b> 実用面から特化した構造材料や機能性材料についてテーマを選定し、基礎・応用および最新技術について講義する。講師は他の教育機関、企業からも招聘する。									
<b>教材および参考図書</b> 教科書： 各講義の配布プリント									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義および見学会を含んだ集中講義形式で実施する。 なお、本科目は毎年開講されるものではない。 平成22年度については開講予定なし。									
<b>評価方法</b> 評価： 各講師から課されるレポート・演習問題等によって総合的に評価する。 評価基準： 総合評価で60点以上を合格とする。 再試験： 原則実施しない。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	実践英語Ⅲ		シラバスコード	7M01	担当教員	江島孝則			
期間	前期	授業形態	演習	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> ニケーションの場において自由に自分の考えを相手に伝えたり、相手の言うことを理解するための英語力を養成することにある。教科書のTOEIC問題の演習を通してコミュニケーションな英語を習得すること。									
<b>到達目標</b> 1. 英語で自分の考えを相手に伝えることができ、相手の言うこともある程度理解できる能力を習得すること。 2. TOEICで400点程度のスコアを取れる能力を養成すること。 3. 語彙力を強化すること。								<b>JABEEプログラム目標</b>  E-1	
<b>学習内容</b> Unit 1 Part 1 写真描写問題①、 Part 5 短文穴埋め問題① Unit 2 Part 1 写真描写問題②、 Part 5 短文穴埋め問題② Unit 3 Part 1 写真描写問題③、 Part 5 短文穴埋め問題③ Unit 4 Part 2 応答問題①、 Part 5 短文穴埋め問題④ Unit 5 Part 2 応答問題②、 Part 5 短文穴埋め問題⑤ Unit 6 Part 2 応答問題③、 Part 5 短文穴埋め問題⑥ Unit 7 Part 2 応答問題④、 Part 5 短文穴埋め問題⑦ Unit 8 Part 2 応答問題⑤、 Part 5 短文穴埋め問題⑧ Unit 9 Part 2 応答問題⑥、 Part 5 短文穴埋め問題⑨ Unit10 Part 3 会話問題①、 Part 5 短文穴埋め問題⑩ Unit11 Part 3 会話問題②、 Part 6 長文穴埋め問題① Unit12 Part 3 会話問題③、 Part 6 長文穴埋め問題② Unit13 Part 3 会話問題④、 Part 6 長文穴埋め問題③ Unit14 Part 3 会話問題⑤、 Part 6 長文穴埋め問題④ Unit15 Part 3 会話問題⑥、 Part 7 読解問題・1つの文書① Unit16 Part 3 会話問題⑦、 Part 7 読解問題・1つの文書② Unit17 Part 3 会話問題⑧、 Part 7 読解問題・1つの文書③ Unit18 Part 4 説明文問題①、 Part 7 読解問題・1つの文書④ Unit19 Part 4 説明文問題②、 Part 7 読解問題・1つの文書⑤ Unit20 Part 4 説明文問題③、 Part 7 読解問題・1つの文書⑥ Unit21 Part 4 説明文問題④、 Part 7 読解問題・1つの文書⑦ Unit22 Part 4 説明文問題⑤、 Part 7 読解問題・2つの文書① Unit23 Part 4 説明文問題⑥、 Part 7 読解問題・2つの文書② Unit24 Part 4 説明文問題⑦、 Part 7 読解問題・2つの文書③									
<b>教材および参考図書</b> The TOEIC Test Practice With Core Vocabulary Book 2(SEIBIDO)及びプリント教材等									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業に遅れることなく参加することは基本である。出席は授業の最初にとる。 授業はテキストにそって進める。毎週、課題あり。適宜、TOEIC模擬テスト実施をする。									
<b>評価方法</b> 数回の模擬試験及び期末試験で80%、提出された課題レポート20%で評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	工学倫理		シラバスコード	7M02	担当教員	東島光雄			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	必修	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 技術者倫理に関する事例研究の学習を通して、技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を身に付ける。									
<b>到達目標</b> 1. 技術者倫理に関する様々な事例を理解する。 2. 事例が意味することの分析の仕方を理解する。 3. 技術が社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など、技術者としての社会に対する責任を自覚する能力を身に付ける。								<b>JABEE プログラム目標</b>  F-2	
<b>学習内容</b> 1. 技術者倫理とは 2. 専門家の責任（チャレンジャー号事故ビデオ） 3. 安全と設計（日航ジャンボ機墜落事故） 4. 消費者を守る責任（雪印乳業集団食中毒事件） 5. 製造物責任 6. 知的財産権 7. 倫理規定 8. 人々の安全が優先 9. 内部告発の条件 10. 専門家の責任									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：新はじめての工学倫理、齋藤了文他。昭和堂									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 事例研究をメインとする。 適宜ビデオ学習を併用する。 「事件事例を集めたHP」から事例を調べてレポート提出を課す。									
<b>評価方法</b> レポートにて評価する。 評価基準：60点以上を合格とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論一般Ⅱ		シラバス コード	7M03	担当教員	専攻科主事			
期間	後期	授業形態	講義又は演習	必修/選択	選択	一般/専門	一般	単位数	2
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学，他大学，他高専の専攻科等で補い，一般知識を広める。									
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  E-1	
<b>学習内容</b> 放送大学，単位互換協定締結校，他高専の専攻科等の授業内容に従う。									
<b>教材および参考図書</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等が定める教材									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学，単位互換協定締結校(短大を除く)，他高専の専攻科で一般科目に関する科目を受講し，単位を取得した場合，専攻科特論一般Ⅱとして認定する。そのため，特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。									
<b>評価方法</b> 放送大学，単位互換協定校，他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合，再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	応用数理III		シラバスコード	7M04	担当教員	菟田智恵子			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> ベクトル場の微分積分であるベクトル解析を学ぶ。ベクトル解析は工学、理学で重要な道具であるため、理論の習得はもちろんの事、計算が出来るようになる事を目的とする。									
<b>到達目標</b> 1. 線積分、面積分の理解及び計算ができるようになる。 2. ベクトル場、接空間、余接空間、微分形式を知識として得る。 3. 様々な数学書をあたり、疑問点を自分で調べ事が出来るようになる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1	
<b>学習内容</b> 1. ベクトルの復習 2. ベクトルの微分 3. スカラー場とベクトル場 4. 勾配・発散・回転 5. 線積分の定義 6. グリーンの定理 7. 面積分の定義 8. ガウスの定理 9. ストークスの定理 10. 微分形式入門									
<b>教材および参考図書</b> 教科書は特に指定しない。しかし、授業中に、参考書は何冊か紹介する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 標準的なベクトル解析の参考書に沿って講義します。説明が中心となりますが、受講者の理解度に応じて、問題演習の時間を設けます。講義で解らないところは質問してもらおう事が第一ですが、図書館などでベクトル解析の本を読んで、自分で解決する事も希望します。									
<b>評価方法</b> 総合点で100点満点で60点以上を合格とする。筆記試験の点数をA(100点満点)、授業中に行う演習とレポート課題による評価をB(50点満点)としたとき、 (評価点) = A + (1 - 0.01A)B とする。 評価点が60点に満たないものに対しては再試験を行う。ただし、再試験による評価点の上限は60点とする。									

授業科目名	統計力学及び熱力学		シラバスコード	7M05	担当教員	越地尚宏			
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2
<b>授業の目的</b> 微視的世界と巨視的世界を結びつける橋としての統計力学・熱力学の基礎を学び、比熱や内部エネルギー、エントロピーの概念を学び、これらの巨視的な特徴を分子論的に導く									
<b>到達目標</b> 1. 物質の熱的性質を理解し、必要に応じて、解析と応用ができるようになる。 2. マクロな熱的性質の起源を分子論的見地から理解する 3. 上記の内容に関連した基礎的な演習問題が解けるようにする。								<b>JABEE プログラム目標</b>  A-1	
<b>学習内容</b> 1. 熱力学の基礎 2. 熱力学の第1法則 3. 仕事とエネルギー 4. エネルギー保存則と仕事の原理 5. 熱力学の第2法則 6. 熱力学からみたエントロピー 7. 統計力学の考え方 8. 統計力学からみたエントロピー 9. 統計力学と熱力学の融合 10. 比熱についてマイクロおよびマクロな視点から考える									
<b>教材および参考図書</b> 熱・統計力学 岩波書店									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 講義を主体にして、また必要に応じてその理解を深めるために積極的に演習を行う。また適宜、演示実験、ビデオ教材、コンピューターシミュレーション等を活用していく。									
<b>評価方法</b> 定期試験による評価を80パーセント、上記の演習やレポートによる評価を20パーセントとし、これらを総合的に評価する。60点以上を合格とする。再試験は必要に応じて行う。									

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門 I		シラバス コード	7M06	担当教員	専攻科主事				
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2	
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 専門知識を広める。										
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1 B-2 F-1		
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。										
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論専門 I として認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。										
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科特論専門Ⅱ		シラバス コード	7M07	担当教員	専攻科主事				
期間	後期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門基礎	単位数	2	
<b>授業の目的</b> 本校で開設できない科目を放送大学, 他大学, 他高専の専攻科等で補い, 専門知識を広める。										
<b>到達目標</b> 1. 放送大学の開設科目の到達目標による。 2. 単位互換協定校の開設科目の到達目標による。 3. 他校専攻科等の開設科目の到達目標による。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1 B-2 F-1		
<b>学習内容</b> 放送大学, 単位互換協定締結校, 他高専の専攻科等の授業内容に従う。										
<b>教材および参考図書</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等が定める教材										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 放送大学, 単位互換協定締結校(短大を除く), 他高専の専攻科で専門科目に関する科目を受講し, 単位を取得した場合, 専攻科特論専門Ⅱとして認定する。そのため, 特別学修願い及び特別学修単位認定願いを提出する必要がある。										
<b>評価方法</b> 放送大学, 単位互換協定校, 他高専の専攻科等での評価方法による。 放送大学の場合, 再試験が1回行なわれる。60点以上を合格とする。										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	技術英語		シラバスコード	7M08	担当教員	馬越幹男				
期間	前期	授業形態	演習		必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	1
<b>授業の目的</b>										
<p>技術英語に求められているものは、英語による科学技術の理解、内容のまとめと伝達、問題解決のために必要な思考力など多岐に渡り、技術と同様に実践性である。これらを身につけるためには、たくさんの英文に触れ、内容をまとめる能力が必要である。そこで、前半では本科での技術英語Ⅰ、Ⅱにおける科学技術に関する基礎的な表現を再度確認し、後半では材料工学に関する教科書、論文を多読にして要約する能力を身につけることを目的とする。</p>										
<b>到達目標</b>										<b>JABEE プログラム目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な科学技術に関する表現を身につけ、和訳、英訳が出来る。</li> <li>2. 科学技術に関する教科書、論文を読み、内容を理解することができる。</li> <li>3. 科学技術に関する教科書、論文を要約し、説明することができる。</li> </ol>										E-1
<b>学習内容</b>										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（技術英語に出会う場面）</li> <li>2. 科学技術に関する基礎的な表現（数字、数量）</li> <li>3. 科学技術に関する基礎的な表現（記号、数式）</li> <li>4. 科学技術に関する基礎的な表現（基礎的な表現）</li> <li>5～10. 材料工学に関する基礎的事項に関する輪読</li> <li>11～14. 専攻科研究論文のテーマに関連した論文の説明と質疑応答（各自、1回以上）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>										
<b>教材および参考図書</b>										
<p>教科書：多田旭男・上松敬禧・中平隆幸・中野勝之、アクティブ科学英語、三共出版                      プリント、専攻科研究論文のテーマに関連した論文</p>										
<b>授業の進め方と履修上の注意</b>										
<p>前半では、教科書を使って、基礎的な基礎的な科学技術に関する表現を確認する。その後、基礎的な材料工学に関する英文を輪読する。たくさんの英文に触れることが大切で、辞書を片手に予習を十分に行わなければならない。</p> <p>最終的に、各自が取り組んでいる専攻科研究論文に関連した論文を読み、要約して説明する。これについて、質疑応答を行う。</p>										
<b>評価方法</b>										
<p>レポート提出と説明の評価（50点）及び定期試験（50点）の合計100点満点で、60点以上を合格とする。レポートの再提出、再試験を行うことがある。</p>										

平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	専攻科インターンシップ		シラバス コード	7M09	担当教員	専攻科主事及び担当教員			
期間	後期	授業形態	実習	必修/選択	必修	一般/専門	専門	単位数	7
<b>授業の目的</b> 本学科と専攻科で学んだ工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを、企業等における長期インターンシップで経験し、実践的技術者としての資質を高めることを目的とする。本科目は、本学科と専攻科の最終科目であり、各学生は企業からの評価を受け、その結果を参考にして、学生の自己啓発および専攻科の教育改善を促す。									
<b>到達目標</b> 1. 技術が社会に及ぼす影響・効果、および技術者が社会に対して負っている責任が理解できる 2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる 3. 該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる 4. 日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを通してコミュニケーションを図ることができる 5. 自主的、継続的に学習することができる								<b>JABEE プログラム目標</b>  F-1 F-2	
<b>学習内容</b> 専攻科2年生が従事できる業務のうち、目的にふさわしい業務を行う。予めインターンシップ担当教官が引き受け実施機関の用意しているプログラムを検討・調整しておき、そのプログラムに従って実習する。主な内容は、下記のものとする。 1. 機械部品などの組み立て・製作 2. 設計・製図・図面の修正 3. 制御回路の組み立て・修理 4. 操作説明書の作成 5. CADによる図面作成 6. グラフィックスの作成 7. 穴あけ・切削・溶接などの加工 8. 実験・試験・測定・データ整理 9. ワード・エクセルによる文書作成 10. 製品の品質検査 11. 計算プログラム作成 12. 報告書及び最終報告書の作成 13. インターンシップ報告会の準備と口頭発表									
<b>教材および参考図書</b> 実習内容に関連する文献、資料など									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> インターンシップ受け入れ機関を提示し、その中から、担当教官と学生が相談の上、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は10月中旬から2月上旬までの間で、期間は2ヶ月以上4ヶ月以内、企業あるいは研究機関などにおいて実際の業務に従事する。ただし、12月中旬の大学評価・学位授与機高の試験期間1週間は除く。担当教官は、時折、実施機関を訪問し、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、一ヶ月ごとに報告書を担当教官に提出する。インターンシップ終了後直ちに、学生は最終報告書および実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。									
<b>評価方法</b> 複数のインターンシップ関連教員により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。60点以上を合格とする。									

授業科目名	応用物理化学		シラバスコード	7M10	担当教員	梶 隆彦			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 自然界における物質の挙動を数式を用いて記述し、化学物質の性質および現象に関する精密な測定と解析の結果からその構造単位を解明することを目的とする。物理化学分野の中で、物質の状態、熱力学、平衡論などの基礎的な内容については本科で既に学んだ。本講では、反応速度論、界面化学などに関する内容について解説する。									
<b>到達目標</b> 1. 物質工学専攻における専門基礎である物理化学に関する内容を理解できる。 2. 反応速度論に関する基礎的内容を理解できる。 3. 界面化学に関する基礎的内容を理解できる。 4. 定期試験で60点以上を修得する。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 反応速度概要 2. 反応速度式 3. 反応とエネルギー 4. 定常状態近似法 5. 律速段階近似法 6. 複雑な反応の速度 7. 反応速度論のまとめ 8. 界面現象概論 9. 界面張力 10. 界面活性剤 11. 吸着 12. エマルション 13. 膜 14. マイクロカプセル 15. 界面化学のまとめ									
<b>教材および参考図書</b> 参考書：橋本健治著、反応工学、培風館；齋藤勝裕著、反応速度論 化学を新しく理解するためのエッセンス、三共出版；鈴木四朗、近藤保共著、界面現象の科学、三共出版；近藤保著、新版 界面化学、三共出版									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 授業内容を黒板に記載し、それぞれについて説明する。単なる現象、数式の説明のみでなく、例題、演習問題等も取り混ぜる。 履修にあたって、数学、物理、化学、物理化学に関する知識が必要である。									
<b>評価方法</b> 定期試験から評価する。（評価基準：定期試験において、60点以上を修得とする。） 再試験を行う。60点以上を合格（60点）とする。									



平成22年度 久留米工業高等専門学校

専攻科 物質工学専攻

材料工学コース

2年

シラバス(授業計画)

授業科目名	真空工学		シラバス コード	7M11	担当教員	奥山哲也			
期間	後期	授業形態	集中講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 先端技術の発展に伴い、新素材開発や物性分析機器に真空は欠かせない技術となっている。本講義では、真空技術の基礎的・系統的学習ならびに実際に真空技術を利用した機器の紹介ならびに注意点等について学習する。									
<b>到達目標</b> 1. 真空ポンプの概要について説明できる。 2. 到達真空度について概算できる。 3. 真空機器を活用した材料作製方法について説明できる。								JABEE プログラム目標  B-2	
<b>学習内容</b> 1. 真空の性質 2. 真空をつくる 3. 真空計測 4. 高真空技術 5. 真空装置の設計 6. 真空技術の応用 7. 真空機器を活用した薄膜材料の作製方法への応用 8. 薄膜の作製方法 1 9. 薄膜の作製方法 2 10. 真空技術の活用									
<b>教材および参考図書</b> 参考書： 真空技術 堀越源一 (東京大学出版会) プリントを適宜配布する。									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> プリントを適宜配布しながら集中講義形式で実施する。 途中レポート提出を課す場合がある。 出欠はきびしくとり、他の学生に迷惑がかかるような学習態度が見られる場合は途中退席を命じる。 講義において不明な点は授業の妨げにならない程度でその都度質問に応じる。 講義内容は真空を必要とする薄膜製造装置や評価機器の概要を基本とし、基礎知識を十分身につけていないとついでいけなくなるため、状況に応じてレポートを課す場合がある。授業内容の復習を欠かさないことを推奨する。 関連科目 機能材料学									
<b>評価方法</b> 定期試験 期末試験90%、課題レポート10%を目安として評価する。 再試験は必要に応じて行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

授業科目名	材料組織制御		シラバスコード	7M12	担当教員	山本 郁			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 実際に使用される材料は様々な要求があり、材料はその用途に応じて組織を変化させなければならない。金属材料の様々な組織制御法の概要と理論を学ぶ。									
<b>到達目標</b> 1. 組織制御の概要を理解し、説明できる。 2. 材料加工法を用いた組織制御について説明できる。 3. 組織制御と材料特性の関係を理論的に説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 組織制御法の概要 2. 融体からの組織制御 3. 状態図と組織制御の関係 4. 熱処理を用いた組織制御 5. 熱処理と析出 6. 析出強化 7. 機械加工を用いた組織制御 8. 強ひずみ加工と再結晶化 9. その他の組織制御法 10. 組織制御法の応用									
<b>教材および参考図書</b> プリント配布									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> プリントを用いた講義を行う。また、与えた課題について各自の発表を課す。 組織制御法は、本科で学習した金属材料学、融体加工学、塑性加工学等の知識が必要であるので、各自が復習しておくことが望ましい。									
<b>評価方法</b> 定期試験（中間試験＋期末試験）80%、課題発表20%として評価する。 再試験は一度のみ、全範囲で行う。 評価基準：60点以上を合格とする。									

授業科目名	材料強度学		シラバス コード	7M13	担当教員	笹栗信也			
期間	前期	授業形態	講義	必修/選択	選択	一般/専門	専門	単位数	2
<b>授業の目的</b> 材料の強度と転位との関り、破壊の定量的な取り扱いの基礎ならびに種々の破壊現象を理解する。									
<b>到達目標</b> 1. 転位の持つエネルギー、応力場、相互作用などが説明できる。 2. 転位に働く力、転位を動かす時に必要な力について説明できる。 3. 材料の強化法について転位論を用いて説明できる。 4. 応力拡大係数、破壊じん性についてその意味を説明できる。 5. 破壊じん性値を求める試験法について説明できる。 6. クリープ現象を現象論的に説明できる。 7. 超塑性について現象論的に説明できる。 8. 疲労破壊について説明できる。 9. 炭素鋼、ステンレス鋼、Ni合金の応力腐食割れ性と材質因子、環境因子について説明できる。 10. 水素脆性について、特徴を説明できる。								<b>JABEE プログラム目標</b>  B-1	
<b>学習内容</b> 1. 金属塑性の基礎 2. 転位の基本的性質 1 3. 転位の基本的性質 2 4. 金属の強化機構 1 5. 金属の強化機構 2 6. 破壊の基礎 1 7. 破壊の基礎 2 8. 中間試験 9. 破壊力学の基礎 1 10. 破壊力学の基礎 2 11. クリープ現象 12. クリープ破壊及びリラクセーション 13. 超塑性現象 14. 疲労破壊 1 15. 疲労破壊 2 16. 応力腐食割れ									
<b>教材および参考図書</b> 教科書：材料強度学要論（朝倉書店）									
<b>授業の進め方と履修上の注意</b> 教科書に沿って進める。金属物理学、金属材料学の知識を必要とする。これらの授業で使用した許可書は参考図書になる。									
<b>評価方法</b> 中間試験及び期末試験を実施する。それぞれの試験は100点満点とし、その試験の平均が60点以上で合格とする。再試験は必要に応じて行うが、評価は60点とする。									

平成 22 年度版

# 専攻科シラバス

編集・発行 久留米工業高等専門学校